

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																
トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校	昭和51年4月1日	木村 俊介	〒 450-0002 (住所) 名古屋市中村区名駅4-1-11 (電話) 052-582-1770																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																
学校法人河合塾学園	昭和53年8月1日	河合 英樹	〒 464-8610 (住所) 名古屋市千種区今池2-1-10 (電話) 052-735-1613																																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
文化・教養	文化教養専門課程	グローバル学科(総合英語専攻)	令和3(2021)年度	-	-																														
学科の目的	【英語系専攻】世界共通語の1つである英語を実務・実用レベルまで習得させ、必要とされるビジネス能力、対人サービス能力も踏まえ、国際社会に貢献できる人材育成を目的とする。																																		
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	1年次終了後に海外留学し、毎日の生活の中で語学鍛錬に加えその地域の文化に直に触れることにより、国際的理解を深めることを目標としている。 職場体験や企業のインターンシップ参加の機会を創出している。 取得可能検定: 実用英語技能検定準1級、2級、準2級 観光英語検定2級 秘書技能検定2級、サービス接客技能検定 中退率:5%																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
3年	昼間	※単位数、単位いずれかに記入 2,820 単位数	600 単位数	1,320 単位数	900 単位数	0 単位数	0 単位数																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																															
60人の内数	20人	0人	0%	5%																															
就職等の状況	<p>■卒業者数(C) : 8人</p> <p>■就職希望者数(D) : 8人</p> <p>■就職者数(E) : 8人</p> <p>■地元就職者数(F) : 4人</p> <p>■就職率(E/D) : 100%</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 50%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 100%</p> <p>■進学者数 : 0人</p> <p>■その他</p> <p>*2021年度新設の学科。生徒定員数はグローバル学科全体で各学年20名</p> <p>(令和6年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) 三井不動産リゾートマネジメント(株)、スイスポートジャパン(株)、(株)ジェイアール東海ホテルズ、(株)JALスカイ、オークラプレステージ台北</p>																																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無																																
	評価団体:	受審年月:	評価結果を掲載したホームページURL		<a href="https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/">https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/</a>																														
当該学科のホームページURL	<a href="https://gaikokugo.trident.ac.jp/department/dept-global/">https://gaikokugo.trident.ac.jp/department/dept-global/</a>																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>2,820 単位数</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>90 単位数</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>60 単位数</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>150 単位数</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>90 単位数</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>60 単位数</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位数</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>0 単位数</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位数</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位数</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位数</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位数</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位数</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位数</td></tr> </table>							総授業時数	2,820 単位数	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	90 単位数	うち企業等と連携した演習の授業時数	60 単位数	うち必修授業時数	150 単位数	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	90 単位数	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	60 単位数	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位数	総単位数	0 単位数	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位数	うち企業等と連携した演習の単位数	単位数	うち必修単位数	単位数	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位数	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位数	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位数
総授業時数	2,820 単位数																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	90 単位数																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	60 単位数																																		
うち必修授業時数	150 単位数																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	90 単位数																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	60 単位数																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位数																																		
総単位数	0 単位数																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位数																																		
うち企業等と連携した演習の単位数	単位数																																		
うち必修単位数	単位数																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位数																																		
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位数																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位数																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>2人</p>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	6人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人	計	9人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人																																		
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	6人																																		
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																		
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																		
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人																																		
計	9人																																		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生への教授については英米語の現場での最新の仕事のすすめ方なども熟知したうえで実施していくことは学校の必須事項である。また同時に、業界が求める人材内容や今後の業界発展を考えたときに必要とされる資質、要件などについての知見を得たうえで、現在及び将来の専門学校教育に取り組んでいくことも重要である。こうしたことを踏まえ、本校では、関連企業、業界団体、学識経験者等からの要請、提言を聴取し、該当学科、ひいては学校全体の教育運営に資することを方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

上記の方針により設置される教育課程編成委員会は学科の諮問、支援会議体として校長の委嘱を受けた委員により、該当学科の授業科目の設定、授業内容の改善、授業手法の開発・改善など全般的な助言を行う。提出された助言については、校長、教務チームにおいて協議のうえ学科長に指示し、実行や改善に着手する。また、教育課程編成委員会からの助言とその助言に基づく学校としての改善実行計画については、別の委員会である学校関係者評価委員会で特に言及し評価を受けるものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年9月13日現在

名前	所属	任期	種別
吉住 和剛	株式会社TDモバイル コーポレート本部 人事総務部 人材開発グループ グループリーダー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
米澤 豊	株式会社ビーアライブ 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
磯村 太郎	愛知中小企業家同友会 理事 サン樹脂株式会社 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
田崎 至教	一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 名古屋事業所チームリーダー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
黒肥地 亮彦	株式会社トラジャルフレール 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
鈴木 健一	中部国際空港旅客サービス株式会社 常務取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
小暮 健二	株式会社大韓航空 日本地域本部 管理チーム 部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
木村 俊介	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
野口 真理子	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 教務チーム チーフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
前畑 勝秀	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 キャリアセンターチーフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
馬島 里佳	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 英米語学科長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
下田 祐介	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 常勤講師	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
坂 真由美	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 常勤講師	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
野崎 恵美	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 非常勤講師	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (2月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年8月23日 13:30~15:00

第2回 令和6年2月21日 13:30~15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

新しく取り組んでいるクリティカルシンキングなど思考力・相互理解力を高める授業に、委員の方から共感いただけた。今後もより人間力を高められるカリキュラム・指導に尽力していく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業との連携による実習・演習等の科目においては、各分野で活躍されている講師を招き、ゼミ科目で企業の求める業務水準を現実的に体感させることを目的に設定する。疑似体験的な講義・演習を通じて、各分野の現場で日常使われている技術・知識を習得させる。評価については企業の現実の評価基準を確認しながら、常勤講師と相談のうえを実施していただく。社会人への準備として必要なキャリアデザイン、資格検定についても実績の高い企業と連携をし、有能な人材を社会に送り出す。また、こうした講義・演習全体を通じて、社会人基礎力を涵養していくことも合わせて目的に設定する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ゼミ科目については、高度な知識と技術が必要な為、業界ニーズを把握し、各分野で活躍されている企業の講師が担当する。各専攻の最終仕上げの授業と位置づけ、正確かつ最新の業界情報を講義に入れ込む。演習時には、修正・訂正が必要な箇所の指摘、評価を行っていただく。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
社会人基礎力&プレゼン表現Ⅰ・Ⅱ	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	経済産業省から提案された社会人として活躍するための重要な能力のひとつである「社会人基礎力」を理解し、社会人として必要な基本スキルを自主的に身につけさせる。	有限会社島山企画
コンピュータ基礎	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	社会人の必須条件であるWord、Excel、Power Pointなどのパソコン知識を学び、マーケティングの基礎として、市場調査、商品企画、提案書、販売促進といった具合に流れを学び、それらの資料作りを学ぶ。	株式会社K's System
マーケティング初級	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	社会人の必須条件であるWord、Excel、Power Pointなどのパソコン知識を学び、マーケティングの基礎として、市場調査、商品企画、提案書、販売促進といった具合に流れを学び、それらの資料作りを学ぶ。	株式会社K's System
ビジネスプランニング	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	実際のあるいは架空の企業が抱える問題・課題に対して、グループで解決策を考えて提案する。企画案作成・イベント等企画実施までを産学連携にて実施する。	イッティージャパン株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門学校教員として、自己の専門分野における最先端の知識・技術の習得のために、業務上一定の時間を費やすことを学校として求めている。研修等の諸規定に定められている通り、年度の当初にチーフと学科長、各教員で実施する研修についての年間計画を立案し1名あたり2～3回の研修を義務づけている。教員はそれらの研修を通じて各々が専門分野の知識向上に務めている。また、専門知識のみではなく、授業に関わる技術など教育力向上のための機会についても法人全体の課題として取り組んでいく。

(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	「コーチング研修～部下の主体性を引き出すスキルを習得する」	連携企業等: 株式会社インソース
期間:	令和5年7月11日(火) 10:00～16:00	対象: 教職員
内容:	ロールプレイングでやる気を引き出すコーチングのスキルを習得	
研修名:	カスタマーバリュー向上研修～顧客視点からマーケティングを強化する	連携企業等: 株式会社インソース
期間:	令和6年2月22日(土)	対象: 教職員
内容:	顧客の視点から見た商品やサービスの価値(カスタマーバリュー)の重要性について理解する	
研修名:	TOEICセミナー	連携企業等: 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
期間:	令和5年9月13日(水) 14:00～16:30	対象: 教職員
内容:	今、実社会で求められる英語力とは?～多様化する英語ニーズと自分の英語力を知る意義～	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	第1回FD研修	連携企業等: 株式会社AL&AL研究所
期間:	令和5年8月29日(火) 9:30～15:00	対象: 新人常勤講師
内容:	アクティブラーニング形式の授業スキル向上	
研修名:	『7つの習慣セルフコーチング for College』	連携企業等: 株式会社FCEエデュケーション
期間:	令和5年1月17日(火) 9:45～12:55	対象: 教職員
内容:	「自分で自分を成長させる自己対話スキル」を身につけられるようになるプログラム体験	
研修名:	第2回FD研修	連携企業等: 株式会社ハーモニークリエイション
期間:	令和5年3月6日(月) 14:00～16:00	対象: 教職員
内容:	「アカハラを主としたハラスメント防止・対策」	
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	JTBリスクマネジメントセミナー2024 ～事例から学ぶ大学の海外危機管理～	連携企業等: 株式会社JTB
期間:	令和6年9月11日(水) 15:00～	対象: 教職員
内容:	事例から学ぶ大学の危機管理、海外派遣学生からよくある相談のリアルケースと対応事例	
研修名:	対人関係構築研修	連携企業等: 株式会社インソース
期間:	令和6年8月26日(火) 10:00～16:00	対象: 教職員
内容:	円滑なコミュニケーションの為のスキルを習得する	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	第1回FD研修	連携企業等:	専門学校事業企画部
期間:	令和6年8月27日(火)10:30~15:30	対象:	新人常勤講師
内容:	対話的で深い学びの実現~専門学校AL形式中心の授業スキル向上の習得		
研修名:	対人関係構築研修	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和6年8月26日(火)10:00~16:00	対象:	教職員
内容:	円滑なコミュニケーションの為のスキルを習得する		
研修名:	第2回FD研修	連携企業等:	一般社団法人日本著作権教育研究会
期間:	令和7年2月27日(木)10:00~12:00	対象:	教職員
内容:	教育における著作権に関して		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校の教育目標、計画に沿った取り組みの達成状況、学校運営等の取り組みが適切に行われたかについて自己評価を行う。自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、校長直属の委員会として学校関係者評価委員会を設置し、「学校自己点検・評価報告書」および「授業科目等の概要」を中心に学校に対する外部評価を実施・公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・教育目的、教育目標、教育目標の周知、独自性の高い教育内容・手法、教育手法に対する各方面からの評価
(2)学校運営	運営方針・事業計画、学校組織と意思決定の概要、組織の活性化、業務の効率化
(3)教育活動	各学科の概要と学修目標、教育目標とカリキュラム、カリキュラム編成体制、各学科のカリキュラム編成、カリキュラムや教育方法の工夫・開発、企業・団体等との連携、インターンシップ、専門教育における実習、キャリア教育、授業評価、成績評価・単位認定の考え方、資格取得、現在の講師陣の状況、講師の採用基準、講師の専門性把握および教育スキルの向上
(4)学修成果	就職について、資格取得の目標と取得状況について
(5)学生支援	就職指導の全体方針、就職指導体制・就職活動支援、学生相談室、担任制、奨学金制度・学費分納、学生の健康管理、クラブ活動、卒業生支援
(6)教育環境	学校施設・設備の整備状況、インターンシップ、海外研修、防火・防災体制、保健衛生管理
(7)学生の受入れ募集	学生募集の考え方、入学選考
(8)財務	予算、監査・財務情報公開
(9)法令等の遵守	法令順守の方針、個人情報保護の方針、学校自己点検・自己評価、学校関係者評価
(10)社会貢献・地域貢献	企業・団体・地域との連携・交流
(11)国際交流	留学生の受け入れ

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

スマホは使えるがPCの使い方をあまり知らない学生についてどのように学校は対応しているかとの問題定義があり、入学後の集中授業や課題提出などをPCで行なわせるなど、日常的にPCを使わせるように取り組んでいる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
小田 康典	イッティージャパン株式会社 指導本部 課長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	企業
山澤 隆士	イッティージャパン株式会社 課長代理	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業
鶴田 修一	愛知中小企業家同友会 株式会社鶴田工業所代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業
坂本 喜樹	瑞穂通商店街振興組合 坂本時計店店長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域
上福元 諭	ソニー生命保険株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
谷澤 文彦	県立城北つばさ高等学校 教諭	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校教員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/>  
公表時期: 令和6年8月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

全体として少しずつ公開項目を増やしていく。広報的作成物だけではなく、自己点検などの機会を利用して正確な情報を整理し、順次公開を進めていく。また、学生配付物についても、より多様な情報提供をリアルタイムで提供できるように取り組みを進めている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念・教育目的、教育目標、学校運営の方針、特色、校長名、所在地・連絡先、学校の沿革、防災、保健衛生
(2) 各学科等の教育	各学科のカリキュラム編成方法、年間の授業計画、進級・卒業の要件、資格取得・検定試験合格等の実績、卒業後の進路
(3) 教職員	教職員組織図
(4) キャリア教育・実践的職業教育	実習の意義、キャリア教育、就職指導の全体方針、就職指導体制、就職指導管理・就職実績、具体的就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動
(6) 学生の生活支援	学生生活相談
(7) 学生納付金・修学支援	学費、学費援助制度
(8) 学校の財務	河合塾学園事業報告
(9) 学校評価	自己点検・自己評価報告書
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/>  
公表時期: 令和6年8月31日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 グローバル学科 (総合英語専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ベーシックプログラム	入学後、専門科目の履修に先駆けて常識やマナーを学び、社会人としての土台をつくる。また、入学時に在学中の達成目標と将来への志望を明確にし、学習の全容を見える化して担任と相互に理解し、納得して学習に入る道を作る。	1前期	30	1	○			○	○		
2	○			社会人基礎力 & プレゼン表現 I・II	自己管理、時間管理、自立、チームワーク、工程管理、コミュニケーション力、柔軟性、創造性、論理的思考力、批判的思考力など、さまざまな状況のもとで適応できるスキル、社会人に必要でかつ専門的履修に欠かせない基本知識を習得する。ビジネスに関する基礎的な知識の理解、社会の一員としての心構えや考え、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力や目指す業界についての基礎的な知識を身につける。	1前期・1後期	60	2			○	○		○	○
3	○			業界研究 I・II	業界での第一線で働いている方だけでなく、身近な先輩などの講演を多数実施し、仕事の幅を広げ、各自の仕事のイメージを掴みやすくする。また、学校を出てインターンシップやボランティアなど外部との接触を嫌がらず、自主的に行動できる情報を知る。	1前期・1後期	60	2	○			○		○	
4	○			就職研究 I・II	目指す職業に就くためには、就職活動を避けて通ることはできない。就職活動を順調にスタートさせ、自信をもって就職試験に臨むことができるようになることを狙いとする。	1前期・1後期	60	2	○			○		○	○
5	○			キャリアサポート	自らの目標達成に向けたプランニングの確認や修正作業を、面談を中心に進め、自主的に自分の描くゴールを目指す。	3・後期	30	1	○			○		○	
6	○			英会話リスニング演習 (EC/LC)	ネイティブ・スピーカーによる小人数編成のクラスで、さまざまな状況での日常的な英会話を想定し、実践を意識したリスニング力とスピーキング力をさまざまな形式でコミュニケーション能力を養成する。また、身近な問題から社会問題や英語圏の文化・生活様式にも触れ、さまざまなトピックに対応できることを目標とする。リスニングは、一語一語わからなくても、全体の内容を推測しながら把握できるようにする。スピーキングは、間違いを恐れず積極的に話すことで、流暢な会話力の獲得を目標とする。	1通・3通	240	8	△	○		○		○	
7	○			通解演習 (RVT)	前後関係から語彙の意味を推測し、要約できるようにする。背景知識について学び、情報・メディアリテラシーを意識した議論や発表を行い、発信力・傾聴力・考える力を養う。日本語でも英語でもより深く考え、まとめ上げることができるようにする。	1通	240	8	△	○		○		○	
8	○			英語有用表現演習 (UE)	日常生活の決まり文句、必要な表現を学ぶ。それと併せ、日本人の苦手な音のうち、意味の違いをもたらす音、すなわち、間違えるとコミュニケーションに支障をきたす音を重点的に矯正練習する。目標は学んだ表現をすべて使いこなすことができると同時に、会話をスムーズに進めるためのルール、マナーも習得することである。EC/LCの授業や外国人との実際の会話に取り組む自信を構築する。	1通	60	2	△	○		○		○	
9	○			英作文 (CP)	ワンセンテンスからパラグラフ、そしてストーリーへと文章を積み上げていく。語彙・文法に注意しながら、表現したいことを伝える。ビジネス文書作成にも取り組み、海外やビジネス社会で活用できるライティング力の育成を図る。	1通・3通	120	4	○			○		○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (総合英語専攻))																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
10	○			Content Subjects	1年次でレベルアップした英語力を活用し、音楽・映画・ドラマ、環境・健康・世界遺産などの具体的なテーマにネイティブ・スピーカーの指導のもと、英語でさまざまなトピックを理解し、使える英語の習得を目標とする。	3通	60	2		○		○				○
11	○			General Education in English	基本的な歴史、文学、地理、数学など、日本社会において必要な一般常識を英語で理解できるようにする。	3・前期	30	1	○			○				○
12	○			実用英語検定対策	「実用英語検定」の受験対策として、すでに取得済みの級より上位の級の合格を目指す授業で、文法、イディオム、並べ替え、読解など、弱点を克服し、全体的な英語力の底上げを狙っている。	1・前期	30	1	△	○		○				○
13	○			TOEIC®対策	リスニング・文法・読解の全分野にわたり、ビジネス知識や出題形式への理解も含めて実践的なトレーニングを行う。また、強化した語彙力と基礎文法力をもとに、時間をかけずに解くべき問題が素早く正確に解ける技術の強化を図る。	1通・3通	120	4	△	○		○				○
14	○			Independent Learning	各自で決めたテーマについて「深掘りして」「発表する」ことに慣れる。2年次に開講されるAW(卒業プロジェクト)の準備講座	3・前期	30	1	○			○				○
15	○			Advanced Workshop	2年間の集大成として、今までに受講した講座で身につけた力を用いて、社会人としてふさわしいテーマを学生自らが決め、フィールドワーク、発表までを学生主体のグループ形式で行う。	3・後期	60	2			○	○				○
16	○			コンピュータ基礎	日常業務に活かせるコンピュータスキルの習得を目指す。資料を正確に理解し、Word、Excel、PowerPointの基本技術を習得する。	1前期	30	1	○			○				○ ○
17	○			マーケティング基礎	マーケティングの基礎を復習し、コンピュータのスキルを活用しながら、より実務的な関連資料の作成技術を学ぶ。また、オリジナルの資料作成ができる能力も身につけることを目指す。	1後期	30	1		○		○				○
18	○			マーケティング初級	マーケティングの基礎を復習し、コンピュータのスキルを活用しながら、より実務的な関連資料の作成技術を学ぶ。また、オリジナルの資料作成ができる能力も身につけることを目指す。	3前	30	1		○		○				○ ○
19	○			多言語・多文化理解	グローバル化の現代社会において、語学学習者は「英語、英語圏」にとどまらず、多言語の存在はもとより、それらの持つ文化的背景の違いも知っておく必要がある。本講座では英語以外の言語を複数取り上げ、基本表現と文化の違いを日本と比較しながら相互理解していく。	3・後期	30	1	○			○				○

(文化教養専門課程 グローバル学科 (総合英語専攻))																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
20	○			International   Communication I・II	ネイティブ講師による言語レッスンと慎重に段階的に構築された練習アクティビティを通じて、生徒は周囲の世界について学びながら英語スキルを向上させます。	1 後・3 前	60	2	○			○				○
21	○			聴解力&語彙 力アップ	英語学習において単語をより多く知っている、リスニングができる事が不可欠である。本科目では、語彙力と聴力を聞き込み書込みを通して習得する。さらに、TOEICや英検などの聴力語彙力アップを目指す。	1 前期	30	1	○			○				○
22	○			英日表現&ス ピーチ	日本語では特徴的な表現を英語ではどのように表現するかを学んだ後、簡単なスピーチを作成発表することを目指す。さらに英語、日本語学習を通して、書いてまとめる力、整理する力、疑問をもって調べる力、復習する力、考える力、発掘する力を養成する。	1 前期	30	1	○			○				○
23	○			クリティカル シンキング I・II	与えられた情報や人の意見をただ鵜呑みにするのではなく、自問自答や周囲の人との話し合いを通じて、本当に納得できる考えを見つける(あるいは、それに近づく)ための技術を習得し、社会で応用可能な思考の方法を学ぶ。	1 前期・1 後期	60	2	△	○			○			○
24	○			CTD(思考力 養成) I・II	このコースは、学生が自分自身や他人が提示した議論を理解し、評価できるようにすることを目指しています。また、さまざまなトピックについての研究、帰納的推論、情報収集、認知的考察を通じて、主要な議論を裏付ける学生の批判的スキルを養うことも目的としています。	3 前期・3 後期	60	2	△	○			○			○
25	○			通訳入門	通訳に必要な知識とスキルを身につける。業界ニーズを熟知した講師の指導のもと、本科目では、日常的なシーンの通訳を通訳訓練を通して習得する。	1 後期	30	1	△	○			○			○
26	○			通訳演習	学習内容は高度になり、通訳に必要な知識とスキルを身につける。業界ニーズを熟知した講師の指導のもと、本科目では、日常的なシーンの通訳を訓練を通して習得する。	3 前期	30	1	△	○			○			○
27	○			翻訳演習	本講座では、機械が翻訳した和訳の「違和感」に気づいて修正できるか、またその逆ができる力があるかといったことを中心に翻訳能力に必要な日本語能力を高める。折々に他者との翻訳を比較する時間を設け、自らの語学学習を通じた長所・短所を客観的に考える機会を持つ。	3 前期	30	1	△	○			○			○
28	○			観光英語	テキストの問題を解答することで観光、空港、ホテルやレストランなどで接客する際に活用できる英語表現を学習する。また、様々な文化圏からの観光客に接する上で必要な知識を習得する。	1 後期	30	1	△	○			○			○
29	○			International   Tourism	本講座では観光英検対策やインバウンド観光客に対応する際に必要な英語表現や異文化の知識を身につけます。世界遺産だけではなく、世界史や世界地理の知識も深めます。	3 前期	30	1	△	○			○			○
30	○			国際ビジネス I・II	本講座では、語学力が活かせる「海外取引」に焦点をあてる。様々な基礎力をのびながら、海外取引の基本的仕組みや流れ、関連業界や企業を理解し、現場で役立つ英語力やビジネスの知識を身につけて、将来の就職先も考えていく。	1 前期・1 後期	60	2	△	○			○			○

（文化教養専門課程 グローバル学科（総合英語専攻））																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
31	○			ビジネスマナー	社会人としての心構えを持ち、様々な年齢層や価値観の人と、円滑に仕事をしていくためのマナーを身につける。	1前期	30	1	△	○		○			○	
32	○			ビジネスプランニング	産学連携講座で、イッティージャパンさんが例年行っている企画（クリスマスイベント・ヴァーチャル留学）をトライデント学生主導で準備から実演まで行い、プロジェクトの進め方、進捗管理、実施後の総括を行うまでの一連の流れを身につける。	1後期	30	1	○		△	○			○	○
33	○			実践マネープランニング	将来に向けての人生設計を描きながら、それに必要不可欠なマネープランを実践的に学習していく。貯蓄や投資・投機、株式、保険など社会人には必須の基本的な知識を積み上げていく。最終的には自分なりのマネープランを設計し、その成果も予想しながら、これからの社会人生活に備える。	3後期	30	1	○		△	○			○	
34		○		英検®2級対策	検定講座は就職や進学の際に、自身の持つスキルを客観的に証明するものとして役立つ。学生は原則として希望する講座を選択受講し、本試験合格に役立つスキルを身につける。	1後期・3前期	60	2	○			○			○	
35		○		英検®準2級対策	検定講座は就職や進学の際に、自身の持つスキルを客観的に証明するものとして役立つ。学生は原則として希望する講座を選択受講し、本試験合格に役立つスキルを身につける。	1後期・3前期	60	2	○			○			○	
36		○		観光英検2級対策	検定講座は就職や進学の際に、自身の持つスキルを客観的に証明するものとして役立つ。学生は原則として希望する講座を選択受講し、本試験合格に役立つスキルを身につける。	1後期・3前期	60	2	○			○			○	
37		○		サービス接遇検定1級対策	検定講座は就職や進学の際に、自身の持つスキルを客観的に証明するものとして役立つ。学生は原則として希望する講座を選択受講し、本試験合格に役立つスキルを身につける。	1後期・3前期	60	2	○			○			○	
38		○		秘書検定2級対策	検定講座は就職や進学の際に、自身の持つスキルを客観的に証明するものとして役立つ。学生は原則として希望する講座を選択受講し、本試験合格に役立つスキルを身につける。	1後期・3前期	60	2	○			○			○	
39		○		ワープロ検定対策	検定講座は就職や進学の際に、自身の持つスキルを客観的に証明するものとして役立つ。学生は原則として希望する講座を選択受講し、本試験合格に役立つスキルを身につける。	1後期・3前期	60	2	○			○			○	
40		○		エクセル検定対策	検定講座は就職や進学の際に、自身の持つスキルを客観的に証明するものとして役立つ。学生は原則として希望する講座を選択受講し、本試験合格に役立つスキルを身につける。	1後期・3前期	60	2	○			○			○	
41		○		日本語能力試験N1対策	検定講座は就職や進学の際に、自身の持つスキルを客観的に証明するものとして役立つ。学生は原則として希望する講座を選択受講し、本試験合格に役立つスキルを身につける。	1後期・3前期	60	2	○			○			○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (総合英語専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
	○		日本語能力試験N2対策	検定講座は就職や進学の際に、自身の持つスキルを客観的に証明するものとして役立つ。学生は原則として希望する講座を選択受講し、本試験合格に役立つスキルを身につける。	1後期・3前期	60	2	○			○			○	
	○		留学準備講座-英会話リスニング	留学先での講義や日常生活で必要とされる英語リスニングスキルを強化する。	2・前期	30	1	○			○			○	
	○		留学準備講座-日本文化	異文化環境での生活をスムーズに過ごすために留学先の文化や習慣を理解し、日本文化を身につける。	2・前期	30	1	○			○			○	
	○		留学準備講座-実用英語	留学先での講義や日常生活で必要とされる実用英語スキルを強化する。	2・前期	30	1	○			○			○	
	○		国際コミュニケーション留学	9か月間の提携大学への語学留学に参加	2・後期	690	23	○			○			○	
	○		留学帰国後講座-英会話リスニング	ネイティブ・スピーカーによる講座。留学中に実践し習得した日常的な英会話スキルをさらに強化する。	2・後期	30	1	○			○			○	
	○		留学帰国後講座-TOEIC対策	帰国後に受験するTOEIC対策講座。留学中に得た知識をさらに強化し得点アップを図る。	2・後期	30	1	○			○			○	
	○		留学帰国後講座-キャリアセミナー	帰国後始まる就職活動をスムーズに進められるよう準備をする。留学経験を活かすための履歴書や面接対策など、実践的なスキルも学びます。	2・後期	30	1	○			○			○	
		○	夏期講習	夏期休暇を利用して、短期(1~2週間)の語学留学プログラムを実施している。希望者から事務局が認定した学生を派遣する。詳細は説明会で発表する。プログラムに参加し、成績認定された学生に所定の単位が与えられる。	1前・3前	所定時間	所定単位			○		○		○	
		○	語学研修	国際的な視野を養い、英語力を実践的に伸ばす、または専門知識を深めるために海外語学研修を実施している。研修の詳細は説明会で発表する。夏期休暇、春期休暇に実施を計画し、期間に応じて所定の単位を認定する。	1前・3前	30	1			○		○		○	
		○	中期語学留学	長期休暇を利用して、中期(8~10週間)の語学留学プログラムを実施している。希望者から事務局が認定した学生を派遣する。詳細は説明会で発表する。プログラムに参加し、成績認定された学生に所定の単位が与えられる。	1全・3全	所定時間	所定単位			○		○		○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (総合英語専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
53			○ 自己啓発講座	学生の自己啓発を目的に講座を開講する。講座内容は別途発表する。	1全・3全	所定時間	所定単位	○			○		○		
54			○ 企業研修	研修生としてビジネスの現場を経験し、各分野の専門能力を身につけるとともに、社会人としての素地を養う。企業研修を通して実務を体得し、組織の一員として仕事をする意義を学ぶ。所定の時間を満たした実習参加に対して所定の単位が認定される。	1全・3全	30	1			○		○		○	
合計					54	科目		2820 単位 (単位時間)							

(文化教養専門課程 グローバル学科 (総合英語専攻))															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
卒業要件： 1年次34単位、2年次27単位、3年時27単位以上取得して、進級もしくは、卒業判定会議で承認されること。								1学年の学期区分			2期				
履修方法： 必修（専攻別）は、全ての科目を必修する。選択必修科目は選択した科目を履修し単位認定とする。 自由選択科目は、進級・卒業必要単位数には加算されない。								1学期の授業期間			15週				

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																								
トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校	昭和51年4月1日	木村 俊介	〒 450-0002 (住所) 名古屋市中村区名駅4-1-11 (電話) 052-582-1770																																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																								
学校法人河合塾学園	昭和53年8月1日	河合 英樹	〒 464-8610 (住所) 名古屋市千種区今池2-1-10 (電話) 052-735-1613																																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																																						
文化・教養	文化教養専門課程	グローバル学科(英語+アジア言語専攻)	令和3(2021)年度	-	-																																						
学科の目的	【英語系専攻】世界共通語の1つである英語を実務・実用レベルまで習得させ、必要とされるビジネス能力、対人サービス能力も踏まえ、国際社会に貢献できる人材育成を目的とする。																																										
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	1年次の韓国もしくは中国への3か月留学では授業での学びの成果を実際に試すことができる。言語、文化や風習に触れることにより各国への理解を深める。1年次終了後に海外留学し、毎日の生活の中で語学鍛錬に加えその地域の文化に直に触れることにより、国際的理解を深めることを目標としている。 取得可能検定: HSK中国語標準検定、韓国語能力検定、実用英語技能検定準1級、2級、準2級 観光英語検定2級 秘書技能検定2級、サービス接遇技能検定、																																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																				
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 2,820 単位時間 単位	600 単位時間 単位	1,320 単位時間 単位	900 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位																																				
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																																							
60人の内数	11人	0人	0%	0%																																							
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>:</td><td>3</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>:</td><td>3</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>:</td><td>3</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>:</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>:</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>:</td><td>33</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>:</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>:</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td>:</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>*2021年度新設の学科。生徒定員数はグローバル学科全体で各学年20名</p> <p>(令和6年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) 三井不動産リゾートマネジメント(株)、スイスポーティングジャパン(株)、(株)ジェイアール東海ホテルズ、(株)JALスカイ、オークラブステージ台北</p>							■卒業者数(C)	:	3	人	■就職希望者数(D)	:	3	人	■就職者数(E)	:	3	人	■地元就職者数(F)	:	0	人	■就職率(E/D)	:	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	33	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	100	%	■進学者数	:	0	人	■その他	:		
■卒業者数(C)	:	3	人																																								
■就職希望者数(D)	:	3	人																																								
■就職者数(E)	:	3	人																																								
■地元就職者数(F)	:	0	人																																								
■就職率(E/D)	:	100	%																																								
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	33	%																																								
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	100	%																																								
■進学者数	:	0	人																																								
■その他	:																																										
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL <a href="https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/">https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/</a></p>																																										
当該学科のホームページURL	<a href="https://gaikokugo.trident.ac.jp/department/dept-global/">https://gaikokugo.trident.ac.jp/department/dept-global/</a>																																										
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>2,820 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>90 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>60 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>150 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>90 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>60 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr> </table>							総授業時数	2,820 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	90 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	60 単位時間	うち必修授業時数	150 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	90 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	60 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総単位数	0 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位								
総授業時数	2,820 単位時間																																										
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	90 単位時間																																										
うち企業等と連携した演習の授業時数	60 単位時間																																										
うち必修授業時数	150 単位時間																																										
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	90 単位時間																																										
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	60 単位時間																																										
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																										
総単位数	0 単位																																										
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																																										
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																																										
うち必修単位数	単位																																										
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																																										
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																																										
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																																										
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>2人</p>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	6人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人	計	9人																								
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人																																										
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	6人																																										
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																										
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																										
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人																																										
計	9人																																										

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生への教授については英米語の現場での最新の仕事のすすめ方なども熟知したうえで実施していくことは学校の必須事項である。また同時に、業界が求める人材内容や今後の業界発展を考えたときに必要とされる資質、要件などについての知見を得たうえで、現在及び将来の専門学校教育に取り組んでいくことも重要である。こうしたことを踏まえ、本校では、関連企業、業界団体、学識経験者等からの要請、提言を聴取し、該当学科、ひいては学校全体の教育運営に資することを方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

上記の方針により設置される教育課程編成委員会は学科の諮問、支援会議体として校長の委嘱を受けた委員により、該当学科の授業科目の設定、授業内容の改善、授業手法の開発・改善など全般的な助言を行う。提出された助言については、校長、教務チームにおいて協議のうえ学科長に指示し、実行や改善に着手する。また、教育課程編成委員会からの助言とその助言に基づく学校としての改善実行計画については、別の委員会である学校関係者評価委員会で特に言及し評価を受けるものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年9月13日現在

名前	所属	任期	種別
吉住 和剛	株式会社TDモバイル コーポレート本部 人事総務部 人材開発グループ グループリーダー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
米澤 豊	株式会社ビーアライブ 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
磯村 太郎	愛知中小企業家同友会 理事 サン樹脂株式会社 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
田崎 至教	一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 名古屋事業所チームリーダー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
黒肥地 亮彦	株式会社トラジアルフレール 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
鈴木 健一	中部国際空港旅客サービス株式会社 常務取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
小暮 健二	株式会社大韓航空 日本地域本部 管理チーム 部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
木村 俊介	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
野口 真理子	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 教務チーム チーフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
前畑 勝秀	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 キャリアセンターチーフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
馬島 里佳	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 英米語学科長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
下田 祐介	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 常勤講師	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
坂 真由美	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 常勤講師	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
野崎 恵美	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 非常勤講師	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (2月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年8月23日 13:30~15:00

第2回 令和6年2月21日 13:30~15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

新しく取り組んでいるクリティカルシンキングなど思考力・相互理解力を高める授業に、委員の方から共感いただいた。今後もより人間力を高められるカリキュラム・指導に尽力していく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業との連携による実習・演習等の科目においては、各分野で活躍されている講師を招き、ゼミ科目で企業の求める業務水準を現実的に体感させることを目的に設定する。疑似体験的な講義・演習を通じて、各分野の現場で日常使われている技術・知識を習得させる。評価については企業の現実の評価基準を確認しながら、常勤講師と相談のうえを実施していただく。社会人への準備として必要なキャリアデザイン、資格検定についても実績の高い企業と連携をし、有能な人材を社会に送り出す。また、こうした講義・演習全体を通じて、社会人基礎力を涵養していくことも合わせて目的に設定する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ゼミ科目については、高度な知識と技術が必要な為、業界ニーズを把握し、各分野で活躍されている企業の講師が担当する。各専攻の最終仕上げの授業と位置づけ、正確かつ最新の業界情報を講義に入れ込む。演習時には、修正・訂正が必要な箇所の指摘、評価を行っていただく。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
社会人基礎力&プレゼン表現	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	経済産業省から提案された社会人として活躍するための重要な能力のひとつである「社会人基礎力」を理解し、社会人として必要な基本スキルを自主的に身につけさせる。	有限会社畠山企画
コンピュータ基礎	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	社会人の必須条件であるWord、Excel、Power Pointなどのパソコン知識を学び、マーケティングの基礎として、市場調査、商品企画、提案書、販売促進といった具合に流れを学び、それらの資料作りを学ぶ。	株式会社K's System
マーケティング初級	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	社会人の必須条件であるWord、Excel、Power Pointなどのパソコン知識を学び、マーケティングの基礎として、市場調査、商品企画、提案書、販売促進といった具合に流れを学び、それらの資料作りを学ぶ。	株式会社K's System

### 3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門学校教員として、自己の専門分野における最先端の知識・技術の習得のために、業務上一定の時間を費やすことを学校として求めている。研修等の諸規定に定められている通り、年度の当初にチーフと学科長、各教員で実施する研修についての年間計画を立案し1名あたり2～3回の研修を義務づけている。教員はそれらの研修を通じて各々が専門分野の知識向上に務めている。また、専門知識のみではなく、授業に関わる技術など教育力向上のための機会についても法人全体の課題として取り組んでいく。

#### (2)研修等の実績

##### ①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「コーチング研修～部下の主体性を引き出すスキルを習得する」	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和5年7月11日(火)10:00～16:00	対象:	教職員
内容:	ロールプレイングでやる気を引き出すコーチングのスキルを習得		
研修名:	カスタマーバリュー向上研修～顧客視点からマーケティングを強化する	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和6年2月22日(土)	対象:	教職員
内容:	顧客の視点から見た商品やサービスの価値(カスタマーバリュー)の重要性について理解する		
研修名:	TOEICセミナー	連携企業等:	一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
期間:	令和5年9月13日(水)14:00～16:30	対象:	教職員
内容:	今、実社会で求められる英語力とは?～多様化する英語ニーズと自分の英語力を知る意義～		

##### ②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	第1回FD研修	連携企業等:	株式会社AL&AL研究所
期間:	令和5年8月29日(火)9:30～15:00	対象:	新人常勤講師
内容:	アクティブラーニング形式の授業スキル向上		
研修名:	『7つの習慣セルフコーチング for College』	連携企業等:	株式会社FCEエデュケーション
期間:	令和5年1月17日(火)9:45～12:55	対象:	教職員
内容:	「自分で自分を成長させる自己対話スキル」を身につけられるようになるプログラム体験		
研修名:	第2回FD研修	連携企業等:	株式会社ハーモニークリエイション
期間:	令和5年3月6日(月)14:00～16:00	対象:	教職員
内容:	「アカハラを主としたハラスメント防止・対策」		

#### (3)研修等の計画

##### ①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	JTBリスクマネジメントセミナー2024 ～事例から学ぶ大学の海外危機管理～	連携企業等:	株式会社JTB
期間:	令和6年9月11日(水)15:00～	対象:	教職員
内容:	事例から学ぶ大学の危機管理、海外派遣学生からよくある相談のリアルケースと対応事例		

研修名: 対人関係構築研修	連携企業等: 株式会社インソース
期間: 令和6年8月26日(火) 10:00~16:00	対象: 教職員
内容 円滑なコミュニケーションの為のスキルを習得する	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 第1回FD研修	連携企業等: 専門学校事業企画部
期間: 令和6年8月27日(火)10:30~15:30	対象: 新人常勤講師
内容 対話的で深い学びの実現~専門学校AL形式中心の授業スキル向上の習得	

研修名: 対人関係構築研修	連携企業等: 株式会社インソース
期間: 令和6年8月26日(火) 10:00~16:00	対象: 教職員
内容 円滑なコミュニケーションの為のスキルを習得する	

研修名: 第2回FD研修	連携企業等: 一般社団法人日本著作権教育研究会
期間: 令和7年2月27日(木)10:00~12:00	対象: 教職員
内容 教育における著作権に関して	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校の教育目標、計画に沿った取り組みの達成状況、学校運営等の取り組みが適切に行われたかについて自己評価を行う。自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、校長直属の委員会として学校関係者評価委員会を設置し、「学校自己点検・評価報告書」および「授業科目等の概要」を中心に学校に対する外部評価を実施・公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・教育目的、教育目標、教育目標の周知、独自性の高い教育内容・手法、教育手法に対する各方面からの評価
(2)学校運営	運営方針・事業計画、学校組織と意思決定の概要、組織の活性化、業務の効率化
(3)教育活動	各学科の概要と学修目標、教育目標とカリキュラム、カリキュラム編成体制、各学科のカリキュラム編成、カリキュラムや教育方法の工夫・開発、企業・団体等との連携、インターンシップ、専門教育における実習、キャリア教育、授業評価、成績評価・単位認定の考え方、資格取得、現在の講師陣の状況、講師の採用基準、講師の専門性把握および教育スキルの向上
(4)学修成果	就職について、資格取得の目標と取得状況について
(5)学生支援	就職指導の全体方針、就職指導体制・就職活動支援、学生相談室、担任制、奨学金制度・学費分納、学生の健康管理、クラブ活動、卒業生支援
(6)教育環境	学校施設・設備の整備状況、インターンシップ、海外研修、防火・防災体制、保健衛生管理
(7)学生の受入れ募集	学生募集の考え方、入学選考
(8)財務	予算、監査・財務情報公開
(9)法令等の遵守	法令順守の方針、個人情報保護の方針、学校自己点検・自己評価、学校関係者評価
(10)社会貢献・地域貢献	企業・団体・地域との連携・交流

(11)国際交流	留学生の受け入れ
----------	----------

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

スマホは使えるがPCの使い方をあまり知らない学生についてどのように学校は対応しているかとの問題定義があり、入学後の集中授業や課題提出などをPCで行なわせるなど、日常的にPCを使わせるように取り組んでいる。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
小田 康典	イッティージャパン株式会社 指導本部 課長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	企業
山澤 隆士	イッティージャパン株式会社 課長代理	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業
鶴田 修一	愛知中小企業家同友会 株式会社鶴田工業所代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業
坂本 喜樹	瑞穂通商店街振興組合 坂本時計店店長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域
上福元 諭	ソニー生命保険株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
谷澤 文彦	県立城北つばさ高等学校 教諭	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校教員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/>

公表時期: 令和6年8月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

全体として少しずつ公開項目を増やしていく。広報的作成物だけではなく、自己点検などの機会を利用して正確な情報を整理し、順次公開を進めていく。また、学生配付物についても、より多様な情報提供をリアルタイムで提供できるように取り組みを進めている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・教育目的、教育目標、学校運営の方針、特色、校長名、所在地・連絡先、学校の沿革、防災、保健衛生
(2)各学科等の教育	各学科のカリキュラム編成方法、年間の授業計画、進級・卒業の要件、資格取得・検定試験合格等の実績、卒業後の進路
(3)教職員	教職員組織図
(4)キャリア教育・実践的職業教育	実習の意義、キャリア教育、就職指導の全体方針、就職指導体制、就職指導管理・就職実績、具体的就職指導
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動
(6)学生の生活支援	学生生活相談
(7)学生納付金・修学支援	学費、学費援助制度
(8)学校の財務	河合塾学園事業報告
(9)学校評価	自己点検・自己評価報告書
(10)国際連携の状況	なし
(11)その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/>

公表時期: 令和6年8月31日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 グローバル学科 (英語+アジア言語専攻))																
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			ベーシックプログラム	入学後、専門科目の履修に先駆けて常識やマナーを学び、社会人としての土台をつくる。また、入学時に在学中の達成目標と将来への志望を明確にし、学習の全容を見える化して担任と相互に理解し、納得して学習に入る道を作る。	1前期	30	1	○			○	○			
2	○			社会人基礎力 & プレゼン表現 I	自己管理、時間管理、自立、チームワーク、工程管理、コミュニケーション力、柔軟性、創造性、論理的思考力、批判的思考力など、さまざまな状況のもとで適応できるスキル、社会人に必要でかつ専門的履修に欠かせない基本知識を習得する。ビジネスに関する基礎的な知識の理解、社会の一員としての心構えや考え、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力や目指す業界についての基礎的な知識を身につける。	1前期	30	1			○	○		○	○	
3	○			業界研究 I	業界での第一線で働いている方だけでなく、身近な先輩などの講演を多数実施し、仕事の幅を広げ、各自の仕事のイメージを掴みやすくする。また、学校を出てインターンシップやボランティアなど外部との接触を嫌がらず、自主的に行動できる情報を知る。	1前期	30	1	○			○		○		
4	○			就職研究 I	目指す職業に就くためには、就職活動を避けて通ることはできない。就職活動を順調にスタートさせ、自信をもって就職試験に臨むことができるようになることを狙いとする。	1前期	30	1	○			○		○	○	
5	○			キャリアサポート	自らの目標達成に向けたプランニングの確認や修正作業を、面談を中心に進め、自主的に自分の描くゴールを目指す。	3・後期	30	1	○			○		○		
6	○			英会話リスニング演習 (EC/LC)	ネイティブ・スピーカーによる小人数編成のクラスで、さまざまな状況での日常的な英会話を想定し、実践を意識したリスニング力とスピーキング力をさまざまな形式でコミュニケーション能力を養成する。また、身近な問題から社会問題や英語圏の文化・生活様式にも触れ、さまざまなトピックに対応できることを目標とする。リスニングは、一語一語わからなくても、全体の内容を推測しながら把握できるようにする。スピーキングは、間違いを恐れず積極的に話すことで、流暢な会話力の獲得を目標とする。	1通・3通	240	8	△	○		○			○	
7	○			通解演習 (RVT)	前後関係から語彙の意味を推測し、要約できるようにする。背景知識について学び、情報・メディアリテラシーを意識した議論や発表を行い、発信力・傾聴力・考える力を養う。日本語でも英語でもより深く考え、まとめ上げることができるようにする。	1通	240	8	△	○		○			○	
8	○			英語有用表現演習 (UE)	日常生活の決まり文句、必要な表現を学ぶ。それと併せ、日本人の苦手な音のうち、意味の違いをもたらす音、すなわち、間違えるとコミュニケーションに支障をきたす音を重点的に矯正練習する。目標は学んだ表現をすべて使いこなすことができると同時に、会話をスムーズに進めるためのルール、マナーも習得することである。EC/LCの授業や外国人との実際の会話に取り組む自信を構築する。	1通	60	2	△	○		○			○	
9	○			英作文 (CP)	ワンセンテンスからパラグラフ、そしてストーリーへと文章を積み上げていく。語彙・文法に注意しながら、表現したいことを伝える。ビジネス文書作成にも取り組み、海外やビジネス社会で活用できるライティング力の育成を図る。	1通・3通	120	4	○			○			○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (英語+アジア言語専攻))																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
10	○			Content Subjects	1年次でレベルアップした英語力を活用し、音楽・映画・ドラマ、環境・健康・世界遺産などの具体的なテーマにネイティブ・スピーカーの指導のもと、英語でさまざまなトピックを理解し、使える英語の習得を目標とする。	3通	60	2	○			○				○
11	○			General Education in English	基本的な歴史、文学、地理、数学など、日本社会において必要な一般常識を英語で理解できるようにする。	3・前期	30	1	○			○				○
12	○			実用英語検定対策	「実用英語検定」の受験対策として、すでに取得済みの級より上位の級の合格を目指す授業で、文法、イディオム、並べ替え、読解など、弱点を克服し、全体的な英語力の底上げを狙っている。	1・前期	30	1	△	○		○				○
13	○			TOEIC®対策	リスニング・文法・読解の全分野にわたり、ビジネス知識や出題形式への理解も含めて実践的なトレーニングを行う。また、強化した語彙力と基礎文法力をもとに、時間をかけずに解くべき問題が素早く正確に解ける技術の強化を図る。	1通・3通	120	4	△	○		○				○
14	○			Independent Learning	各自で決めたテーマについて「深掘りして」「発表する」ことに慣れる。2年次に開講されるAW(卒業プロジェクト)の準備講座	3・前期	30	1	○			○				○
15	○			Advanced Workshop	2年間の集大成として、今までに受講した講座で身につけた力を用いて、社会人としてふさわしいテーマを学生自らが決め、フィールドワーク、発表までを学生主体のグループ形式で行う。	3・後期	60	2			○	○				○
16	○			マーケティング初級	マーケティングの基礎を復習し、コンピュータのスキルを活用しながら、より実務的な関連資料の作成技術を学ぶ。また、オリジナルの資料作成ができる能力も身につけることを目指す。	3前期	30	1		○		○				○ ○
17	○			アジア文化理解	日本を中心に他アジア諸国との関係について背景知識を習得し、留学中における現地の人々との交流に役立てる。グループワークを利用して発表形式で理解を深める。	1前期	30	1	○			○				○
18	○			日本事情	留学に出発する前に知っておくべき日本の常識および知識について、グループワークを取り入れながら、学生が主体的に学ぶことができるよう、社会人基礎力の向上にも努める。	1前期	30	1	○			○				○
19	○			アジア言語留学	3か月の語学留学に参加	1後期	360	12	○			○				○
20	○			Combined English (RC)	英文を早く正確に読むためのコツを習得し、文法力、語彙力も伸ばして行く。既存のRVT、TOEIC、英検の授業同様に読解に特化した授業を行う。また授業外に置いてブックレポートや新聞記事のレポートを提出し、様々な英文に触れる。	1後期	30	1	○			○				○

(文化教養専門課程 グローバル学科 (英語+アジア言語専攻))																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
21	○			Combined English (EC/LC)	リーディングとリスニングのスキルを伸ばすことを目的とする。有用で基本的な文法を復習する語彙と発音を改善し、英語で話したり書いたりする練習する。日常および学術的な環境で言語を使用できるレベルを目指す。	1後期	30	1	○			○				○
22	○			一般教養	企業研究の復習を中心に就職活動に必要なことは何かを習得する。求められる人材になるための心構え、能力とその要素を、様々なシーンを想定してケースワークスタディを行うことで習得する。	1・後期	60	2	○			○				○
23	○			現代アジア事情	専攻言語の国についてプレゼンができるようにする。アジアの国々もどのような方面で日本とつながっているかを、観光を通して学ぶ。また、それらの国の魅力や有名な産品、観光地、世界遺産などを知る。そして世界遺産を理解するために、その国の背景や歴史などにも触れ、コミュニケーションに活用できるようにする。	3前期	30	1	○			○				○
24	○			インバウンド概論	日本に来往する外国人観光客はコロナ後、確実に増えている。インバウンド拡大の今、インバウンドの基礎知識として日本文化、日本観光事情、日本の食文化、インバウンドビジネス等、外国人観光客の満足度を高めるためのノウハウについて学ぶ。まだまだ知らない日本について観光名所を通してこれらを学ぶ。	3後期	30	1	○			○				○
25		○		日常会話基礎 I・II・III (中国語)	基本的な発音を練習しながら、中国語の文法、会話の語順を定着させ、文法力を高める。HSK2級または中国語検定4級の試験合格を目指す。	1前期	90	3	○			○				○
26		○		日常会話応用 I (中国語)	発音の復習と「聞く」「話す」を中心に学習する。前期で学習した表現を復習し、現地生活に必要な会話を反復練習する。	1後期	30	1	○			○				○
27		○		ブラッシュアップ (中国語)	中国語の入門から初級レベルをマスターする。本科目では、発音と語彙や文法を習得し、簡単な会話の基礎を身につける。中国の社会文化についての基礎知識を学ぶ。HSK中国語標準検定4級以上、または中国語検定3級以上を受けけることに備え、検定試験に向けた土台作りをする。	1後期	30	1	○			○				○
28		○		日常会話応用 II (中国語)	当授業は会話を中心に、基礎レベルの語彙・表現に慣れるため、類似した内容の文法をしっかりと理解させる。ヒアリングを強化させる。日常会話について、実用レベルで活用できるようにする。	3前期	60	2	○			○				○
29		○		日常会話応用 III (中国語)	中国語の準中級から中級への文法と会話を定着させる。これまで勉強した中国語の文法、会話の語順を定着しながら、語彙や文法力、ヒアリング力、会話を高める。HSK5級試験合格を目指す。	3後期	30	1	○			○				○
30		○		言語検定対策 (中国語)	テキストを中心にHSK公式過去問集4級の内容と中国の社会文化を習得する。リスニング練習を利用して中国語の聴く力をマスターする。中国語の基礎を学び、簡単な会話の実用レベルで使えるようにする。また、文法については簡体字を練習し、語彙を増やす。時事中国語の表現を習得する。	3前期	60	2	○			○				○
31		○		総合演習&プレゼン (中国語)	本科目では今まで身につけた中国語力を生かして、中国文化、社会をより理解し、効果のあるプレゼンテーションを通して習得する。さらに、中国語の翻訳、スピーチを通じて仕事に役立つスキルを身につける。	3後期	30	1	○			○				○

(文化教養専門課程 グローバル学科 (英語+アジア言語専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
	○		日常会話基礎 I・II・III (韓国語)	韓国語の読み、書き、聞き取りの練習を繰り返しながら文法の理解・活用が出来るように学習する。韓国文化の理解を深める。積極的に発話練習を行う。	1前期	90	3	○			○			○	
	○		日常会話応用 I (韓国語)	現地で簡単な意思疎通ができるように韓国人が生活の中で実際に使っている実用的なネイティブ表現を中心に読む、聞く、話す、書くを総合的に行い、韓国語の実力を上げることを目指す。現地で簡単な意思疎通ができることをめざす。	1後期	30	1	○			○			○	
	○		ブラッシュアップ (韓国語)	このコースは、生徒がリーディングとリスニングのスキルを伸ばすのを支援することを目的としています。有用で基本的な文法を復習する語彙と発音を改善し、英語で話したり書いたりする練習をします。学生は、日常および学術的な環境で言語を使用できるレベルまで一般的な能力を開発します。	1後期	30	1	○			○			○	
	○		日常会話応用 II (韓国語)	韓国で実際に使われている実用的な韓国語を中心に、読む・書く・聞く・話すを総合的な側面から習得する。様々な場面でよりスムーズに韓国語で会話ができるように、積極的に発話練習を行う。	3前期	60	2	○			○			○	
	○		日常会話応用 III (韓国語)	読む・書く・聞く・話すを総合的に行うとともに、文法や単語を活用してネイティブ表現をしっかり身に付けることを目指す。	3後期	30	1	○			○			○	
	○		言語検定対策 (韓国語)	テキストを中心に韓国語能力検定中級および高級 (TOPIK II) レベルの問題を解くための語彙と文型をしっかり身につけ、聞く力と読む力を習得する。また適宜過去問題を取り入れ実践力も養う。	3前期	60	2	○			○			○	
	○		総合演習&プレゼン (韓国語)	日本と韓国の文化・習慣・生活の中でテーマを決めて調査した内容を韓国語で作成してプレゼンテーションを行う。韓国語の能力の定着を目指す。	3後期	30	1	○			○			○	
	○		英検®2級対策	検定講座は就職や進学の際に、自身の持つスキルを客観的に証明するものとして役立つ。学生は原則として希望する講座を選択受講し、本試験合格に役立つスキルを身につける。	1・後期	30	1	○			○			○	
	○		英検®準2級対策	検定講座は就職や進学の際に、自身の持つスキルを客観的に証明するものとして役立つ。学生は原則として希望する講座を選択受講し、本試験合格に役立つスキルを身につける。	1・後期	30	1	○			○			○	
	○		観光英検2級対策	検定講座は就職や進学の際に、自身の持つスキルを客観的に証明するものとして役立つ。学生は原則として希望する講座を選択受講し、本試験合格に役立つスキルを身につける。	1・後期	30	1	○			○			○	
	○		サービス接遇検定1級対策	検定講座は就職や進学の際に、自身の持つスキルを客観的に証明するものとして役立つ。学生は原則として希望する講座を選択受講し、本試験合格に役立つスキルを身につける。	1・後期	30	1	○			○			○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (英語+アジア言語専攻))																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
43		○		秘書検定2級対策	検定講座は就職や進学の際に、自身の持つスキルを客観的に証明するものとして役立つ。学生は原則として希望する講座を選択受講し、本試験合格に役立つスキルを身につける。	1・後期	30	1	○			○				○
44		○		ワープロ検定対策	検定講座は就職や進学の際に、自身の持つスキルを客観的に証明するものとして役立つ。学生は原則として希望する講座を選択受講し、本試験合格に役立つスキルを身につける。	1・後期	30	1	○			○				○
45		○		エクセル検定対策	検定講座は就職や進学の際に、自身の持つスキルを客観的に証明するものとして役立つ。学生は原則として希望する講座を選択受講し、本試験合格に役立つスキルを身につける。	1・後期	30	1	○			○				○
46		○		日本語能力試験N1対策	検定講座は就職や進学の際に、自身の持つスキルを客観的に証明するものとして役立つ。学生は原則として希望する講座を選択受講し、本試験合格に役立つスキルを身につける。	1・後期	30	1	○			○				○
47		○		日本語能力試験N2対策	検定講座は就職や進学の際に、自身の持つスキルを客観的に証明するものとして役立つ。学生は原則として希望する講座を選択受講し、本試験合格に役立つスキルを身につける。	1・後期	30	1	○			○				○
48	○			留学準備講座-英会話リスニング	留学先での講義や日常生活で必要とされる英語リスニングスキルを強化する。	2・前期	30	1	○			○				○
49	○			留学準備講座-日本文化	異文化環境での生活をスムーズに過ごすために留学先の文化や習慣を理解し、日本文化を身につける。	2・前期	30	1	○			○				○
50	○			留学準備講座-実用英語	留学先での講義や日常生活で必要とされる実用英語スキルを強化する。	2・前期	30	1	○			○				○
51	○			国際コミュニケーション留学	9か月間の提携大学への語学留学に参加	2・後期	690	23	○			○				○
52	○			留学帰国後講座-英会話リスニング	ネイティブ・スピーカーによる講座。留学中に実践し習得した日常的な英会話スキルをさらに強化する。	2・後期	30	1	○			○				○
53	○			留学帰国後講座-TOEIC対策	帰国後に受験するTOEIC対策講座。留学中に得た知識をさらに強化し得点アップを図る。	2・後期	30	1	○			○				○
54	○			留学帰国後講座-キャリアセミナー	帰国後始まる就職活動をスムーズに進められるよう準備をする。留学経験を活かすための履歴書や面接対策など、実践的なスキルも学びます。	2・後期	30	1	○			○				○

(文化教養専門課程 グローバル学科 (英語+アジア言語専攻))															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		<input type="radio"/>	夏期講習	夏期休暇を利用して、短期(1~2週間)の語学留学プログラムを実施している。希望者から事務局が認定した学生を派遣する。詳細は説明会で発表する。プログラムに参加し、成績認定された学生に所定の単位が与えられる。	1前・3前	所定時間	所定単位			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
		<input type="radio"/>	語学研修	国際的な視野を養い、英語力を実践的に伸ばす、または専門知識を深めるために海外語学研修を実施している。研修の詳細は説明会で発表する。夏期休暇、春期休暇に実施を計画し、期間に応じて所定の単位を認定する。	1前・3前	30	1			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
		<input type="radio"/>	中期語学留学	長期休暇を利用して、中期(8~10週間)の語学留学プログラムを実施している。希望者から事務局が認定した学生を派遣する。詳細は説明会で発表する。プログラムに参加し、成績認定された学生に所定の単位が与えられる。	1全・3全	所定時間	所定単位			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
		<input type="radio"/>	自己啓発講座	学生の自己啓発を目的に講座を開講する。講座内容は別途発表する。	1全・3全	所定時間	所定単位	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		
		<input type="radio"/>	企業研修	研修生としてビジネスの現場を経験し、各分野の専門能力を身につけるとともに、社会人としての素地を養う。企業研修を通して実務を体得し、組織の一員として仕事をする意義を学ぶ。所定の時間を満たした実習参加に対して所定の単位が認定される。	1全・3全	30	1			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
合計					59	科目		2820 単位 (単位時間)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 1年次34単位、2年次27単位、3年時27単位以上取得して、進級もしくは、卒業判定会議で承認されること。		1学年の学期区分	2期
履修方法： 必修(専攻別)は、全ての科目を必修する。 選択必修科目は選択した科目を履修し単位認定とする。 自由選択科目は、進級・卒業必要単位数には加算されない。		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																									
トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校		昭和51年4月1日		木村 俊介		〒 450-0002 (住所) 名古屋市中村区名駅4-1-11 (電話) 052-582-1770																																									
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																									
学校法人河合塾学園		昭和53年8月1日		河合 英樹		〒 464-8610 (住所) 名古屋千種区今池2-1-10 (電話) 052-735-1613																																									
分野		認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度																																					
文化・教養		文化教養専門課程		グローバル学科(エアラインフ ライアテンダント専攻・エアライン グランドスタッフ専攻)		令和3(2021)年度		-		-																																					
学科の目的		【英語系・エアライン系専攻】世界共通語の1つである英語を実務・実用レベルまで習得させ、必要とされるビジネス能力、対人サービス能力も踏まえ、国際社会に貢献できる人材育成を目的とする。																																													
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		1年次終了後に海外留学し、毎日の生活の中で語学鍛錬に加えその地域の文化に直に触れることにより、国際的理解を深めることを目標としている。 職場体験や企業のインターンシップ参加の機会を創出している。 取得可能検定: 実用英語技能検定準1級、2級、準2級 観光英語検定2級 秘書技能検定2級、サービス接客技能検定 中退率10%																																													
修業年限		昼夜		全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義		演習		実習		実験		実技																																	
3年		昼間		※単位時間、単位いずれかに記入 2,820 単位時間 単位		570 単位時間 単位		1,170 単位時間 単位		1,080 単位時間 単位		0 単位時間 単位		0 単位時間 単位																																	
生徒総員数		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率																																							
60人の内数		31人		0人		0%		10%																																							
就職等の状況		<table border="1"> <tr><td>■卒業生数(C)</td><td>:</td><td>14</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>:</td><td>14</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>:</td><td>14</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>:</td><td>3</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>:</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>:</td><td>21</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>:</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>:</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td>:</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>*2021年度新設の学科。生徒定員数はグローバル学科全体で各学年20名、総定員数は60名。</p> <p>(令和6年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) スイスポードジャパン(株)、(株)ジェイアール東海ホテルズ、(株)JALスカイ、(株)ドリームスカイ名古屋、スカイマーク(株)、ANA関西空港(株)、ANA成田エアポートサービス(株)</p>										■卒業生数(C)	:	14	人	■就職希望者数(D)	:	14	人	■就職者数(E)	:	14	人	■地元就職者数(F)	:	3	人	■就職率(E/D)	:	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	21	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	100	%	■進学者数	:	0	人	■その他	:		
■卒業生数(C)	:	14	人																																												
■就職希望者数(D)	:	14	人																																												
■就職者数(E)	:	14	人																																												
■地元就職者数(F)	:	3	人																																												
■就職率(E/D)	:	100	%																																												
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	21	%																																												
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	100	%																																												
■進学者数	:	0	人																																												
■その他	:																																														
第三者による学校評価		<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL <a href="https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight">https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight</a></p>																																													
当該学科のホームページURL		<a href="https://gaikokugo.trident.ac.jp/department/dept-global/">https://gaikokugo.trident.ac.jp/department/dept-global/</a>																																													
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>2,820 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>90 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>60 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>150 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>90 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>60 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr> </table>										総授業時数	2,820 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	90 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	60 単位時間	うち必修授業時数	150 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	90 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	60 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総単位数	0 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位								
総授業時数	2,820 単位時間																																														
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	90 単位時間																																														
うち企業等と連携した演習の授業時数	60 単位時間																																														
うち必修授業時数	150 単位時間																																														
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	90 単位時間																																														
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	60 単位時間																																														
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																														
総単位数	0 単位																																														
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																																														
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																																														
うち必修単位数	単位																																														
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																																														
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																																														
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																																														
教員の属性(専任教員について記入)		<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>2人</p>										① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	6人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人	計	9人																								
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人																																														
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	6人																																														
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																														
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																														
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人																																														
計	9人																																														

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生への教授については英米語の現場での最新の仕事のすすめ方なども熟知したうえで実施していくことは学校の必須事項である。また同時に、業界が求める人材内容や今後の業界発展を考えたときに必要とされる資質、要件などについての知見を得たうえで、現在及び将来の専門学校教育に取り組んでいくことも重要である。こうしたことを踏まえ、本校では、関連企業、業界団体、学識経験者等からの要請、提言を聴取し、該当学科、ひいては学校全体の教育運営に資することを方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

上記の方針により設置される教育課程編成委員会は学科の諮問、支援会議体として校長の委嘱を受けた委員により、該当学科の授業科目の設定、授業内容の改善、授業手法の開発・改善など全般的な助言を行う。提出された助言については、校長、教務チームにおいて協議のうえ学科長に指示し、実行や改善に着手する。また、教育課程編成委員会からの助言とその助言に基づく学校としての改善実行計画については、別の委員会である学校関係者評価委員会で特に言及し評価を受けるものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年9月13日現在

名前	所属	任期	種別
吉住 和剛	株式会社TDモバイル コーポレート本部 人事総務部 人材開発グループ グループリーダー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
米澤 豊	株式会社ビーアライブ 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
磯村 太郎	愛知中小企業家同友会 理事 サン樹脂株式会社 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
田崎 至教	一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 名古屋事業所チームリーダー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
黒肥地 亮彦	株式会社トラジャルフレール 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
鈴木 健一	中部国際空港旅客サービス株式会社 常務取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
小暮 健二	株式会社大韓航空 日本地域本部 管理チーム 部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
木村 俊介	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
野口 真理子	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 教務チーム チーフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
前畑 勝秀	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 キャリアセンターチーフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
馬島 里佳	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 英米語学科長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
下田 祐介	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 常勤講師	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
坂 真由美	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 常勤講師	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
野崎 恵美	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 非常勤講師	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期  
(年間の開催数及び開催時期)  
年2回 (2月、8月)

(開催日時(実績))  
第1回 令和5年8月23日 13:30~15:00  
第2回 令和6年2月21日 13:30~15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況  
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。  
新しく取り組んでいるクリティカルシンキングなど思考力・相互理解力を高める授業に、委員の方から共感いただいた。今後もより人間力を高められるカリキュラム・指導に尽力していく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業との連携による実習・演習等の科目においては、各分野で活躍されている講師を招き、ゼミ科目で企業の求める業務水準を現実的に体感させることを目的に設定する。疑似体験的な講義・演習を通じて、各分野の現場で日常使われている技術・知識を習得させる。評価については企業の現実の評価基準を確認しながら、常勤講師と相談のうえを実施していただく。社会人への準備として必要なキャリアデザイン、資格検定についても実績の高い企業と連携をし、有能な人材を社会に送り出す。また、こうした講義・演習全体を通じて、社会人基礎力を涵養していくことも合わせて目的に設定する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ゼミ科目については、高度な知識と技術が必要な為、業界ニーズを把握し、各分野で活躍されている企業の講師が担当する。各専攻の最終仕上げの授業と位置づけ、正確かつ最新の業界情報を講義に入れ込む。演習時には、修正・訂正が必要な箇所の指摘、評価を行っていただく。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
社会人基礎力&プレゼン表現Ⅰ・Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	経済産業省から提案された社会人として活躍するための重要な能力のひとつである「社会人基礎力」を理解し、社会人として必要な基本スキルを自主的に身につけさせる。	有限会社畠山企画
コンピュータ基礎	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	社会人の必須条件であるWord、Excel、Power Pointなどのパソコン知識を学び、マーケティングの基礎として、市場調査、商品企画、提案書、販売促進といった具合に流れを学び、それらの資料作りを学ぶ。	株式会社K's System
マーケティング初級	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	社会人の必須条件であるWord、Excel、Power Pointなどのパソコン知識を学び、マーケティングの基礎として、市場調査、商品企画、提案書、販売促進といった具合に流れを学び、それらの資料作りを学ぶ。	株式会社K's System
エアライン実務	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	空港における様々な仕事内容を詳しく知り、視野を広げる。旅客・航務・貨物の各分野の業務を学ぶとともに職業観を育む。	ドリームスカイ名古屋

### 3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門学校教員として、自己の専門分野における最先端の知識・技術の習得のために、業務上一定の時間を費やすことを学校として求めている。研修等の諸規定に定められている通り、年度の当初にチーフと学科長、各教員で実施する研修についての年間計画を立案し1名あたり2～3回の研修を義務づけている。教員はそれらの研修を通じて各々が専門分野の知識向上に務めている。また、専門知識のみではなく、授業に関わる技術など教育力向上のための機会についても法人全体の課題として取り組んでいく。

#### (2)研修等の実績

##### ①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「コーチング研修～部下の主体性を引き出すスキルを習得する」	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和5年7月11日(火)10:00～16:00	対象:	教職員
内容:	ロールプレイングでやる気を引き出すコーチングのスキルを習得		
研修名:	カスタマーバリュー向上研修～顧客視点からマーケティングを強化する	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和6年2月22日(土)	対象:	教職員
内容:	顧客の視点から見た商品やサービスの価値(カスタマーバリュー)の重要性について理解する		
研修名:	TOEICセミナー	連携企業等:	一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
期間:	令和5年9月13日(水)14:00～16:30	対象:	教職員
内容:	今、実社会で求められる英語力とは?～多様化する英語ニーズと自分の英語力を知る意義～		

##### ②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	第1回FD研修	連携企業等:	株式会社AL&AL研究所
期間:	令和5年8月29日(火)9:30～15:00	対象:	新人常勤講師
内容:	アクティブラーニング形式の授業スキル向上		
研修名:	『7つの習慣セルフコーチング for College』	連携企業等:	株式会社FCEエデュケーション
期間:	令和5年1月17日(火)9:45～12:55	対象:	教職員
内容:	「自分で自分を成長させる自己対話スキル」を身につけられるようになるプログラム体験		
研修名:	第2回FD研修	連携企業等:	株式会社ハーモニークリエイション
期間:	令和5年3月6日(月)14:00～16:00	対象:	教職員
内容:	「アカハラを主としたハラスメント防止・対策」		

#### (3)研修等の計画

##### ①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	JTBリスクマネジメントセミナー2024 ～事例から学ぶ大学の海外危機管理～	連携企業等:	株式会社JTB
期間:	令和6年9月11日(水)15:00～	対象:	教職員
内容:	事例から学ぶ大学の危機管理、海外派遣学生からよくある相談のリアルケースと対応事例		
研修名:	対人関係構築研修	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和6年8月26日(火)10:00～16:00	対象:	教職員
内容:	円滑なコミュニケーションの為のスキルを習得する		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 第1回FD研修	連携企業等: 専門学校事業企画部
期間: 令和6年8月27日(火)10:30~15:30	対象: 新人常勤講師
内容: 対話的で深い学びの実現~専門学校AL形式中心の授業スキル向上の習得	
研修名: 対人関係構築研修	連携企業等: 株式会社インソース
期間: 令和6年8月26日(火)10:00~16:00	対象: 教職員
内容: 円滑なコミュニケーションの為のスキルを習得する	
研修名: 第2回FD研修	連携企業等: 一般社団法人日本著作権教育研究会
期間: 令和7年2月27日(木)10:00~12:00	対象: 教職員
内容: 教育における著作権に関して	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校の教育目標、計画に沿った取り組みの達成状況、学校運営等の取り組みが適切に行われたかについて自己評価を行う。自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、校長直属の委員会として学校関係者評価委員会を設置し、「学校自己点検・評価報告書」および「授業科目等の概要」を中心に学校に対する外部評価を実施・公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・教育目的、教育目標、教育目標の周知、独自性の高い教育内容・手法、教育手法に対する各方面からの評価
(2)学校運営	運営方針・事業計画、学校組織と意思決定の概要、組織の活性化、業務の効率化
(3)教育活動	各学科の概要と学修目標、教育目標とカリキュラム、カリキュラム編成体制、各学科のカリキュラム編成、カリキュラムや教育方法の工夫・開発、企業・団体等との連携、インターンシップ、専門教育における実習、キャリア教育、授業評価、成績評価・単位認定の考え方、資格取得、現在の講師陣の状況、講師の採用基準、講師の専門性把握および教育スキルの向上
(4)学修成果	就職について、資格取得の目標と取得状況について
(5)学生支援	就職指導の全体方針、就職指導体制・就職活動支援、学生相談室、担任制、奨学金制度・学費分納、学生の健康管理、クラブ活動、卒業生支援
(6)教育環境	学校施設・設備の整備状況、インターンシップ、海外研修、防火・防災体制、保健衛生管理
(7)学生の受入れ募集	学生募集の考え方、入学選考
(8)財務	予算、監査・財務情報公開
(9)法令等の遵守	法令順守の方針、個人情報保護の方針、学校自己点検・自己評価、学校関係者評価
(10)社会貢献・地域貢献	企業・団体・地域との連携・交流
(11)国際交流	留学生の受け入れ

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

スマホは使えるがPCの使い方をあまり知らない学生についてどのように学校は対応しているかとの問題定義があり、入学後の集中授業や課題提出などをPCで行なわせるなど、日常的にPCを使わせるように取り組んでいる。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
小田 康典	イッティージャパン株式会社 指導本部 課長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	企業
山澤 隆士	イッティージャパン株式会社 課長代理	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業
鶴田 修一	愛知中小企業家同友会 株式会社鶴田工業所代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業
坂本 喜樹	瑞穂通商店街振興組合 坂本時計店店長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域
上福元 諭	ソニー生命保険株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
谷澤 文彦	県立城北つばさ高等学校 教諭	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校教員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight>

公表時期: 令和6年8月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

全体として少しずつ公開項目を増やしていく。広報的作成物だけではなく、自己点検などの機会を利用して正確な情報を整理し、順次公開を進めていく。また、学生配付物についても、より多様な情報提供をリアルタイムで提供できるように取り組みを進めている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念・教育目的、教育目標、学校運営の方針、特色、校長名、所在地・連絡先、学校の沿革、防災、保健衛生
(2) 各学科等の教育	各学科のカリキュラム編成方法、年間の授業計画、進級・卒業の要件、資格取得・検定試験合格等の実績、卒業後の進路
(3) 教職員	教職員組織図
(4) キャリア教育・実践的職業教育	実習の意義、キャリア教育、就職指導の全体方針、就職指導体制、就職指導管理・就職実績、具体的就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動
(6) 学生の生活支援	学生生活相談
(7) 学生納付金・修学支援	学費、学費援助制度
(8) 学校の財務	河合塾学園事業報告
(9) 学校評価	自己点検・自己評価報告書
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight>

公表時期: 令和6年8月31日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 グローバル学科 (エアラインフライトアテンダント専攻・エアライングランドスタッフ専攻))																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			ベーシックプログラム	入学後、専門科目の履修に先駆けて常識やマナーを学び、社会人としての土台をつくる。また、入学時に在学中の達成目標と将来への志望を明確にし、学習の全容を見える化して担任と相互に理解し、納得して学習に入る道を作る。	1 前期	30	1	○			○		○		
2	○			社会人基礎力 & プレゼン表現 I・II	自己管理、時間管理、自立、チームワーク、工程管理、コミュニケーション力、柔軟性、創造性、論理的思考力、批判的思考力など、さまざまな状況のもとで適応できるスキル、社会人に必要でかつ専門的履修に欠かせない基本知識を習得する。ビジネスに関する基礎的な知識の理解、社会の一員としての心構えや考え方、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力や目指す業界についての基礎的な知識を身につける。	1 前期・ 1 後期	60	2			○	○			○	○
3	○			業界研究 I・II	業界での第一線で働いている方だけでなく、身近な先輩などの講演を多数実施し、仕事の幅を広げ、各自の仕事のイメージを掴みやすくする。また、学校を出てインターンシップやボランティアなど外部との接触を嫌がらず、自主的に行動できる情報を知る。	1 前期・ 1 後期	60	2	○			○			○	
4	○			就職研究 I・II	目指す職業に就くためには、就職活動を避けて通ることはできない。就職活動を順調にスタートさせ、自信をもって就職試験に臨むことができるようになることを狙いとする。	1 前期・ 1 後期	60	2	○			○			○	○
5	○			キャリアサポート	自らの目標達成に向けたプランニングの確認や修正作業を、面談を中心に進め、自主的に自分の描くゴールを目指す。	3 ・ 後期	30	1	○			○			○	
6	○			英会話リスニング演習 (EC/LC)	ネイティブ・スピーカーによる小人数編成のクラスで、さまざまな状況での日常的な英会話を想定し、実践を意識したリスニング力とスピーキング力をさまざまな形式でコミュニケーション能力を養成する。また、身近な問題から社会問題や英語圏の文化・生活様式にも触れ、さまざまなトピックに対応できることを目標とする。リスニングは、一語一語わからなくても、全体の内容を推測しながら把握できるようにする。スピーキングは、間違いを恐れず積極的に話すことで、流暢な会話力の獲得を目標とする。	1 通 ・ 3 通	240	8	△	○		○			○	
7	○			通解演習 (RVT)	前後関係から語彙の意味を推測し、要約できるようにする。背景知識について学び、情報・メディアリテラシーを意識した議論や発表を行い、発信力・傾聴力・考える力を養う。日本語でも英語でもより深く考え、まとめ上げることができるようにする。	1 通 ・	240	8	△	○		○			○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (エアラインフライトアテンダント専攻・エアライングランドスタッフ専攻))																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
8	○			英語有用表現演習 (UE)	日常生活の決まり文句、必要な表現を学ぶ。それと併せ、日本人の苦手な音のうち、意味の違いをもたらす音、すなわち、間違えるとコミュニケーションに支障をきたす音を重点的に矯正練習する。目標は学んだ表現をすべて使いこなすことができると同時に、会話をスムーズに進めるためのルール、マナーも習得することである。EC/LCの授業や外国人との実際の会話に取り組む自信を構築する。	1通	60	2	△	○		○			○		
9	○			英作文 (CP)	ワンセンテンスからパラグラフ、そしてストーリーへと文章を積み上げていく。語彙・文法に注意しながら、表現したいことを伝える。ビジネス文書作成にも取り組み、海外やビジネス社会で活用できるライティング力の育成を図る。	1通・3通	120	4	○			○				○	
10	○			Content Subjects	1年次でレベルアップした英語力を活用し、音楽・映画・ドラマ、環境・健康・世界遺産などの具体的なテーマにネイティブ・スピーカーの指導のもと、英語でさまざまなトピックを理解し、使える英語の習得を目標とする。	3通	60	2		○		○				○	
11	○			General Education in English	基本的な歴史、文学、地理、数学など、日本社会において必要な一般常識を英語で理解できるようにする。	3・前期	30	1	○			○				○	
12	○			実用英語検定対策	「実用英語検定」の受験対策として、すでに取得済みの級より上位の級の合格を目指す授業で、文法、イディオム、並べ替え、読解など、弱点を克服し、全体的な英語力の底上げを狙っている。	1・前期	30	1	△	○		○				○	
13	○			TOEIC®対策	リスニング・文法・読解の全分野にわたり、ビジネス知識や出題形式への理解も含めて実践的なトレーニングを行う。また、強化した語彙力と基礎文法力をもとに、時間をかけずに解くべき問題が素早く正確に解ける技術の強化を図る。	1通・3通	120	4	△	○		○				○	
14	○			Independent Learning	各自で決めたテーマについて「深掘りして」「発表する」ことに慣れる。2年次に開講されるAW (卒業プロジェクト) の準備講座	3・前期	30	1	○			○				○	
15	○			Advanced Workshop	2年間の集大成として、今までに受講した講座で身につけた力を用いて、社会人としてふさわしいテーマを学生自らが決め、フィールドワーク、発表までを学生主体のグループ形式で行う。	3・後期	60	2			○	○				○	
16	○			コンピュータ基礎	日常業務に生かせるコンピュータスキルの習得を目指す。資料を正確に理解し、ワード・エクセル・パワーポイントの基本技術を習得する。	1・前期	30	1		○		○				○	○
17	○			マーケティング初級	マーケティングの基礎を復習し、コンピュータのスキルを活用しながら、より実務的な関連資料の作成技術を学ぶ。また、オリジナルの資料作成ができる能力も身につけることを目指す。	3・前期	30	1		○		○				○	○

(文化教養専門課程 グローバル学科 (エアラインフライトアテンダント専攻・エアライングランドスタッフ専攻))																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
18	○			多言語・多文化理解	グローバル化の現代社会において、語学学習者は「英語、英語圏」にとどまらず、多言語の存在はもとより、それらの持つ文化的背景の違いも知っておく必要がある。本講座では英語以外の言語を複数取り上げ、基本表現と文化の違いを日本と比較しながら相互理解していく。	3・後期	30	1	○			○			○		
19	○			キャリアアップ英語Ⅰ	空港関係の仕事では、英検2級レベルの英語力が必要となる。本講座では、当検定の合格を目指すために必要な知識を身につける。	1・前期	30	1	○			○				○	
20	○			キャリアアップ英語Ⅱ	空港関係の仕事では、英検2級レベルの英語力が必要となる。本講座では、当検定の合格を目指すために必要な知識を身につける。	1・後期	30	1	○			○				○	
21	○			Hospitality English	アナウンス練習を含めた、空港や機内サービス業務などで使われる英語を習得しながら実務と接客の心得を学ぶ。	1・前期	30	1	○			○				○	
22	○			Airline English	丁寧な接客マナーと場にふさわしい英語の言い回しや英語でのアナウンスをロールプレイを通して体得する。国内系および外資系航空会社の採用試験での英語面接の傾向と対策を知り、面接という正式な場で求められる英語の表現を身につける。また、英文履歴書、英文カバーレターなどの書き方を学ぶ。	3・前期	30	1	○			○				○	
23	○			実践ビジネスマナー	電話応対・名刺交換など実務的な業務のロールプレイを通して、卒業後に役立つビジネスマナーを身につけることを目的とする。社会に出て通用するマナーや人間関係を円滑にする方法を具体例とともに学ぶ。	3・後期	30	1	○			○				○	
24	○			中国語Ⅰ	読み方/綴り方・単語の意味・日常挨拶語・単文の基本文型など、中国語の基礎知識を学び、航空業界で重要視されている語学スキルを身につける。	1・後期	30	1	○			○				○	
25	○			中国語Ⅱ	1年次に学んだ基礎知識に加え、2年次においては、中国語検定を視野に入れ、さらに中国語の力をのばす。前期と後期それぞれHSK1級・2級の合格を目指す。	3・前期	30	1	○			○				○	
26	○			中国語Ⅲ	1年次に学んだ基礎知識に加え、2年次においては、中国語検定を視野に入れ、さらに中国語の力をのばす。前期と後期それぞれHSK1級・2級の合格を目指す。	3・後期	30	1	○			○				○	
27	○			エアライン面接対策Ⅰ	自己分析を通して自己PRの方法を学ぶことを主眼とし、立ち方・お辞儀・表情の訓練を行いながら、面接の基本的なルールやマナー、立ち居振る舞いの仕方を習得することを目的とする。また、個人・集団・ディスカッションなど様々な形態の面接ロールプレイングを通して、実践的な対応力を高める。	1・前期	30	1	○			○				○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (エアラインフライトアテンダント専攻・エアライングランドスタッフ専攻))																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
28	○			エアライン面接対策Ⅱ	自己分析を通して自己PRの方法を学ぶことを主眼とし、立ち方・お辞儀・表情の訓練を行いながら、面接の基本的なルールやマナー、立ち居振る舞いの仕方を習得することを目的とする。また、個人・集団・ディスカッションなど様々な形態の面接ロールプレイングを通して、実践的な対応力を高める。	1・後期	30	1	○			○			○		
29	○			キャリアデザイン	1年次で実施した面接対策Ⅰ・Ⅱに基づき、2年次ではさらに面接や話し方の応用スキルを身につける。	3・後期	30	1				○	○			○	
30	○			エアライン受験対策Ⅰ	過去の採用試験をもとに筆記試験対策を行う。また、採用試験の実践的な対策と情報を得て就職活動に備える。特にSPI対策に主眼を置く。	1・後期	30	1	○			○				○	
31	○			エアライン受験対策Ⅱ	過去の採用試験をもとに筆記試験対策を行う。また、履歴書やエントリーシートの書き方を学びながら、採用試験の実践的な対策と情報を得て就職活動に備える。	3・前期	30	1	○			○				○	
32	○			セルフクリエーションⅠ	挨拶や身だしなみ、ヘアメイク実習などを通して、外見を磨きながら、エレガントな身のこなしとマナーを身につけることを目的とする。授業を通して自分自身の適性を知り、目指す企業への具体的な対策を講じる。自己PR動画の作成などを行い、自分自身をアピールする方法を知る。	1・前期	30	1	○			○				○	
33	○			セルフクリエーションⅡ	挨拶や身だしなみ、ヘアメイク実習などを通して、外見を磨きながら、エレガントな身のこなしとマナーを身につけることを目的とする。授業を通して自分自身の適性を知り、目指す企業への具体的な対策を講じる。自己PR動画の作成などを行い、自分自身をアピールする方法を知る。	1・後期	30	1	○			○				○	
34	○			エアライン実務	空港における様々な仕事内容を詳しく知り、視野を広げる。エアライン企業と連携し、現役社員の方々に講師に迎え、旅客・航務・貨物の各分野の業務を学ぶとともに職業観を育む。	1・後期	30	1	△			○	○			○	○
35	○			エア・トラベル概論	エアライン業界やトラベル業界に従事する者の立場と消費者・利用者の立場、双方の視点から、その分野に関する幅広い知識を習得することを目的とする。また、業界で活躍する現役の方々から最新の情報や動向を聞き学ぶ。	3・前期	30	1	○			○				○	
36	○			FA・GS航空業務知識	フライトアテンダント (FA) およびグランドスタッフ (GS) の役割、業務内容、空港の機能、航空機材の基礎知識などを学ぶ。また、CIQ、地理、時差、2&3レターコードなどを学び、実際に必要な業務知識を得る。OG/OB体験談や空港見学・企業見学を通して実務の理解を深める。	1・前期	30	1	○			○				○	
37		○		FA業務演習	専攻別に前期に習得した業務知識を実践的に活かして訓練を行うことで、卒業後に航空業界で活躍できるスキルを身につける。	1・後期	30	1	○			○				○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (エアラインフライトアテンダント専攻・エアライングランドスタッフ専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
	○		GS業務演習	専攻別に前期に習得した業務知識を実践的に活かして訓練を行うことで、卒業後に航空業界で活躍できるスキルを身につける。	1・後期	30	1	○			○			○	
		○	各種検定対策講座	就職に役立つ検定・資格を在学中に可能な限り取得していくために、「秘書検定」、「ワープロ検定」、「英検」などの主要な検定の対策授業。学科、専攻、コースの枠にとられず、各々の知識・教養を高める講座を選択し受講する。講座内容は別途発表する。	1後期・3前期	所定時間		△	○		○			○	
	○		留学準備講座-英会話リスニング	留学先での講義や日常生活で必要とされる英語リスニングスキルを強化する。	2・前期	30	1	○			○			○	
	○		留学準備講座-英会話リスニング	留学先での講義や日常生活で必要とされる英語リスニングスキルを強化する。	2・前期	30	1	○			○			○	
	○		留学準備講座-日本文化	異文化環境での生活をスムーズに過ごすために留学先の文化や習慣を理解し、日本文化を身につける。	2・前期	30	1	○			○			○	
	○		留学準備講座-実用英語	留学先での講義や日常生活で必要とされる実用英語スキルを強化する。	2・前期	30	1	○			○			○	
	○		国際コミュニケーション留学	9か月間の提携大学への語学留学に参加	2・後期	690	23	○			○			○	
	○		留学帰国後講座-英会話リスニング	ネイティブ・スピーカーによる講座。留学中に実践し習得した日常的な英会話スキルをさらに強化する。	2・後期	30	1	○			○			○	
	○		留学帰国後講座-TOEIC対策	帰国後に受験するTOEIC対策講座。留学中に得た知識をさらに強化し得点アップを図る。	2・後期	30	1	○			○			○	
	○		留学帰国後講座-キャリアセミナー	帰国後始まる就職活動をスムーズに進められるよう準備をする。留学経験を活かすための履歴書や面接対策など、実践的なスキルも学びます。	2・後期	30	1	○			○			○	
		○	語学研修	国際的な視野を養い、英語力を実践的に伸ばす、または専門知識を深めるために海外語学研修を実施している。研修の詳細は説明会で発表する。夏期休暇、春期休暇に実施を計画し、期間に応じて所定の単位を認定する。	1前・3前	30	1			○	○			○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (エアラインフライトアテンダント専攻・エアライングラウンドスタッフ専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
49			○	中期語学留学	長期休暇を利用して、中期(8~10週間)の語学留学プログラムを実施している。希望者から事務局が認定した学生を派遣する。詳細は説明会で発表する。プログラムに参加し、成績認定された学生に所定の単位が与えられる。	1全・3全	所定時間	所定単位			○		○		○
50			○	自己啓発講座	学生の自己啓発を目的に講座を開講する。講座内容は別途発表する。	1全・3全	所定時間	所定単位	○			○		○	
合計						50	科目		2820 単位 (単位時間)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 1年次34単位、2年次27単位、3年時27単位以上取得して、進級もしくは、卒業判定会議で承認されること。	1学年の学期区分	2期
履修方法： 必修(専攻別)は、全ての科目を必修する。選択必修科目は選択した科目を履修し単位認定とする。 自由選択科目は、進級・卒業必要単位数には加算されない。	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地					
トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校	1976年4月1日	木村 俊介	〒 450-0002 (住所) 名古屋市中村区名駅4-1-11 (電話) 052-582-1770					
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地					
学校法人河合塾学園	1978年8月1日	河合 英樹	〒 464-8610 (住所) 名古屋市中村区今池2-1-10 (電話) 052-735-1613					
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化教養専門課程	グローバル学科(国際ホテル専攻)	令和3(2021)年度	-	-			
学科の目的	【ホテル系専攻】ホテル・観光産業で求められる英語を実務・実用レベルまで習得させ、必要とされるビジネス能力、対人サービス能力も踏まえ、国際社会に貢献できるホスピタリティマインドに優れた人材育成を目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	1年次終了後に海外留学し、毎日の生活の中で語学鍛錬に加えその地域の文化に直に触れることにより、国際的理解を深めることを目標としている。 職場体験や企業のインターンシップ参加の機会を創出している。 取得可能検定:実用英語技能検定準1級、2級、準2級 観光英語検定2級 秘書技能検定2級、サービス接客技能検定、レストランサービス技能検定、ホテルビジネス実務検定、和食検定 中退率:0%							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
3	昼間	※単位数、単位いずれかに記入 2,820 単位数時間		930 単位数時間	720 単位数時間	1,170 単位数時間	0 単位数時間	0 単位数時間
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率				
60人の内数	3人	0人	0%	0%				
就職等の状況	■卒業者数(C)		1人					
	■就職希望者数(D)		1人					
	■就職者数(E)		1人					
	■地元就職者数(F)		0人					
	■就職率(E/D)		100%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		0%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100%					
	■進学者数		0人					
	■その他							
	ホテル系専攻とは国際ホテル専攻/海外ホテル専攻/テーマパーク・ホテル専攻/ホテルウェディング専攻を指す。							
(令和 #REF! 年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) パークハイアット京都								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無					
評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL		<a href="https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/">https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/</a>		
当該学科のホームページURL	<a href="https://gaikokugo.trident.ac.jp/department/dept-global/">https://gaikokugo.trident.ac.jp/department/dept-global/</a>							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位数による算定)							
	総授業時数		2,820 単位数時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		60 単位数時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位数時間					
	うち必修授業時数		120 単位数時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		60 単位数時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位数時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位数時間					
	(B:単位数による算定)							
	総単位数		0 単位数					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位数						
うち企業等と連携した演習の単位数		単位数						
うち必修単位数		単位数						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位数						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位数						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位数						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		2人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		6人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		1人					
	計		9人					
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2人						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生への教授については英米語の現場での最新の仕事のすすめ方なども熟知したうえで実施していくことは学校の必須事項である。また同時に、業界が求める人材内容や今後の業界発展を考えたときに必要とされる資質、要件などについての知見を得たうえで、現在及び将来の専門学校教育に取り組んでいくことも重要である。こうしたことを踏まえ、本校では、関連企業、業界団体、学識経験者等からの要請、提言を聴取し、該当学科、ひいては学校全体の教育運営に資することを方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

上記の方針により設置される教育課程編成委員会は学科の諮問、支援会議体として校長の委嘱を受けた委員により、該当学科の授業科目の設定、授業内容の改善、授業手法の開発・改善など全般的な助言を行う。提出された助言については、校長、教務チームにおいて協議のうえ学科長に指示し、実行や改善に着手する。また、教育課程編成委員会からの助言とその助言に基づく学校としての改善実行計画については、別の委員会である学校関係者評価委員会で特に言及し評価を受けるものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年9月13日現在

名前	所属	任期	種別
室岡 雅幸	株式会社森ビルホスピタリティコーポレーション 人事部 部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
今 竜太郎	LEGOLAND Japan 合同会社 ホテル ヘッド	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
大堀 貴弘	株式会社ネクスト・ホスピタリティー研究所 代表	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
春山 新悟	株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド 総支配人	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
木村 俊介	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
野口 真理子	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 教務チームチーフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
川原 純	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 学生チームチーフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
田村 学	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 国際ホテル学科長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
高橋 梓	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 常勤講師	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
林 諒弥	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 常勤講師	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
前畑 勝秀	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 キャリアセンターチーフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (2月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年8月23日 16:00～17:30

第2回 令和6年2月21日 16:00～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

人が欲しいのではなく人材が欲しいという企業の方からのご意見をいただき、知識やスキルのみならず、広い視野を持ち臨機応変に対応できる人材育成に注力していく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業との連携による実習・演習等の科目においては、各分野で活躍されている講師を招き、ゼミ科目で企業の求める業務水準を現実的に体感させることを目的に設定する。疑似体験的な講義・演習を通じて、各分野の現場で日常使われている技術・知識を習得させる。評価については企業の現実の評価基準を確認しながら、常勤講師と相談のうえを実施していただく。社会人への準備として必要なキャリアデザイン、資格検定についても実績の高い企業と連携をし、有能な人材を社会に送り出す。また、こうした講義・演習全体を通じて、社会人基礎力を涵養していくことも合わせて目的に設定する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ゼミ科目については、高度な知識と技術が必要な為、業界ニーズを把握し、各分野で活躍されている企業の講師が担当する。各専攻の最終仕上げの授業と位置づけ、正確かつ最新の業界情報を講義に入れ込む。演習時には、修正・訂正が必要な箇所の指摘、評価を行っていただく。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
社会人基礎力&プレゼン表現Ⅰ・Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	経済産業省から提案された社会人として活躍するための重要な能力のひとつである「社会人基礎力」を理解し、社会人として必要な基本スキルを自主的に身につけさせる。	有限会社畠山企画
ホスピタリティマインドⅠ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	実際のあるいは架空の企業が抱える問題・課題に対して、グループで解決策を考えて提案する。企画案作成・イベント等企画実施までを産学連携にて実施する。	一般社団法人クールスタイルジャパン
ホスピタリティマインドⅡ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	実際のあるいは架空の企業が抱える問題・課題に対して、グループで解決策を考えて提案する。企画案作成・イベント等企画実施までを産学連携にて実施する。	一般社団法人クールスタイルジャパン

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門学校教員として、自己の専門分野における最先端の知識・技術の習得のために、業務上一定の時間を費やすことを学校として求めている。研修等の諸規定に定められている通り、年度の当初にチーフと学科長、各教員で実施する研修についての年間計画を立案し1名あたり2~3回の研修を義務づけている。教員はそれらの研修を通じて各々が専門分野の知識向上に務めている。また、専門知識のみではなく、授業に関わる技術など教育力向上のための機会についても法人全体の課題として取り組んでいく。

<b>(2) 研修等の実績</b>		
<b>① 専攻分野における実務に関する研修等</b>		
研修名:	「コーチング研修～部下の主体性を引き出すスキルを習得する」	連携企業等: 株式会社インソース
期間:	令和5年7月11日(火)10:00～16:00	対象: 教職員
内容:	ロールプレイングでやる気を引き出すコーチングのスキルを習得	
研修名:	カスタマーバリュー向上研修～顧客視点からマーケティングを強化する	連携企業等: 株式会社インソース
期間:	令和6年2月22日(土)	対象: 教職員
内容:	顧客の視点から見た商品やサービスの価値(カスタマーバリュー)の重要性について理解する	
研修名:	TOEICセミナー	連携企業等: 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
期間:	令和5年9月13日(水) 14:00～16:30	対象: 教職員
内容:	今、実社会で求められる英語力とは?～多様化する英語ニーズと自分の英語力を知る意義～	
<b>② 指導力の修得・向上のための研修等</b>		
研修名:	第1回FD研修	連携企業等: 株式会社AL&AL研究所
期間:	令和5年8月29日(火) 9:30～15:00	対象: 新人常勤講師
内容:	アクティブラーニング形式の授業スキル向上	
研修名:	『7つの習慣セルフコーチング for College』	連携企業等: 株式会社FCEエデュケーション
期間:	令和5年1月17日(火) 9:45～12:55	対象: 教職員
内容:	「自分で自分を成長させる自己対話スキル」を身につけられるようになるプログラム体験	
研修名:	第2回FD研修	連携企業等: 株式会社ハーモニークリエイション
期間:	令和5年3月6日(月) 14:00～16:00	対象: 教職員
内容:	「アカハラを主としたハラスメント防止・対策」	
<b>(3) 研修等の計画</b>		
<b>① 専攻分野における実務に関する研修等</b>		
研修名:	JTBリスクマネジメントセミナー2024 ～事例から学ぶ大学の海外危機管理～	連携企業等: 株式会社JTB
期間:	令和6年9月11日(水)15:00～	対象: 教職員
内容:	ロールプレイングでやる気を引き出すコーチングのスキルを習得	
研修名:	対人関係構築研修	連携企業等: 株式会社インソース
期間:	令和6年8月26日(火) 10:00～16:00	対象: 教職員
内容:	顧客の視点から見た商品やサービスの価値(カスタマーバリュー)の重要性について理解する	
<b>② 指導力の修得・向上のための研修等</b>		
研修名:	第1回FD研修	連携企業等: 専門学校事業企画部
期間:	令和6年8月27日(火)10:30～15:30	対象: 新人常勤講師
内容:	対話的で深い学びの実現～専門学校AL形式中心の授業スキル向上の習得	
研修名:	対人関係構築研修	連携企業等: 株式会社インソース
期間:	令和6年8月26日(火) 10:00～16:00	対象: 教職員
内容:	円滑なコミュニケーションの為のスキルを習得する	
研修名:	第2回FD研修	連携企業等: 一般社団法人日本著作権教育研究会
期間:	令和7年2月27日(木)10:00～12:00	対象: 教職員
内容:	教育における著作権に関して	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校の教育目標、計画に沿った取り組みの達成状況、学校運営等の取り組みが適切に行われたかについて自己評価を行う。自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、校長直属の委員会として学校関係者評価委員会を設置し、「学校自己点検・評価報告書」および「授業科目等の概要」を中心に学校に対する外部評価を実施・公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・教育目的、教育目標、教育目標の周知、独自性の高い教育内容・手法、教育手法に対する各方面からの評価
(2) 学校運営	運営方針・事業計画、学校組織と意思決定の概要、組織の活性化、業務の効率化
(3) 教育活動	各学科の概要と学修目標、教育目標とカリキュラム、カリキュラム編成体制、各学科のカリキュラム編成、カリキュラムや教育方法の工夫・開発、企業・団体等との連携、インターンシップ、専門教育における実習、キャリア教育、授業評価、成績評価・単位認定の考え方、資格取得、現在の講師陣の状況、講師の採用基準、講師の専門性把握および教育スキルの向上
(4) 学修成果	就職について、資格取得の目標と取得状況について
(5) 学生支援	就職指導の全体方針、就職指導体制・就職活動支援、学生相談室、担任制、奨学金制度・学費分納、学生の健康管理、クラブ活動、卒業生支援
(6) 教育環境	学校施設・設備の整備状況、インターンシップ、海外研修、防火・防災体制、保健衛生管理
(7) 学生の受入れ募集	学生募集の考え方、入学選考
(8) 財務	予算、監査・財務情報公開
(9) 法令等の遵守	法令順守の方針、個人情報保護の方針、学校自己点検・自己評価、学校関係者評価
(10) 社会貢献・地域貢献	企業・団体・地域との連携・交流
(11) 国際交流	留学生の受け入れ

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

スマホは使えるがPCの使い方をあまり知らない学生についてどのように学校は対応しているかとの問題定義があり、入学後の集中授業や課題提出などをPCで行なわせるなど、日常的にPCを使わせるように取り組んでいる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
山澤 隆士	イッティージャパン株式会社 課長代理	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業
鶴田 修一	愛知中小企業家同友会 株式会社鶴田工業所代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業
坂本 喜樹	瑞穂通商店街振興組合 坂本時計店店長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域
上福元 諭	ソニー生命保険株式会社 ライフプランナー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
谷澤 文彦	県立城北つばさ高等学校 教諭	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校教員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/>

公表時期: 2024年8月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

全体として少しずつ公開項目を増やしていく。広報的作成物だけではなく、自己点検などの機会を利用して正確な情報を整理し、順次公開を進めていく。また、学生配付物についても、より多様な情報提供をリアルタイムで提供できるように取り組みを進めている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念・教育目的、教育目標、学校運営の方針、特色、校長名、所在地・連絡先、学校の沿革、防災、保健衛生
(2) 各学科等の教育	各学科のカリキュラム編成方法、年間の授業計画、進級・卒業の要件、資格取得・検定試験合格等の実績、卒業後の進路
(3) 教職員	教職員組織図
(4) キャリア教育・実践的職業教育	実習の意義、キャリア教育、就職指導の全体方針、就職指導体制、就職指導管理・就職実績、具体的就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動
(6) 学生の生活支援	学生生活相談
(7) 学生納付金・修学支援	学費、学費援助制度
(8) 学校の財務	河合塾学園事業報告
(9) 学校評価	自己点検・自己評価報告書
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/>

公表時期: 2024年8月31日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 グローバル学科 (国際ホテル専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ベーシックプログラム	入学後、専門科目の履修に先駆けて常識やマナーを学び、社会人としての土台をつくる。また、入学時に在学中の達成目標と将来への志望を明確にし、学習の全容を見える化して担任と相互に理解し、納得して学習に入る道を作る。	1前	30	1	○			○	○		
2	○			社会人基礎力 & プレゼン表現 I・II	自己管理、時間管理、自立、チームワーク、工程管理、コミュニケーション力、柔軟性、創造性、論理的思考力、批判的思考力など、さまざまな状況のもとで適応できるスキル、社会人に必要でかつ専門的履修に欠かせない基本知識を習得する。ビジネスに関する基礎的な知識の理解、社会の一員としての心構えや考え方、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力や目指す業界についての基礎的な知識を身につける。	1通	60	2				○	○		○ ○
3	○			業界研究 I・II	業界での第一線で働いている方だけでなく、身近な先輩などの講演を多数実施し、仕事の幅を広げ、各自の仕事のイメージを掴みやすくする。また、学校を出てインターンシップやボランティアなど外部との接触を嫌がらず、自主的に行動できる情報を知る。	1通	60	2	○			○	○		
4	○			就職研究 I・II	目指す職業に就くためには、就職活動を避けて通ることはできない。就職活動を順調にスタートさせ、自信をもって就職試験に臨むことができるようになることを狙いとする。	1通	60	2	○			○	○	○	
5	○			キャリアサポート	自らの目標達成に向けたプランニングの確認や修正作業を、面談を中心に進め、自主的に自分の描くゴールを目指す。	3後	30	1	○			○	○		
6	○			就職試験対策 I	就職試験における筆記試験は面接試験の前段階として行われることが多い。この筆記試験をクリアできるよう、前期は主に国語、社会を中心とした一般常識、SPI試験対策を学ぶ。	1・前期	30	1	○			○		○	
7	○			就職試験対策 II	就職試験における筆記試験は面接試験の前段階として行われることが多い。この筆記試験をクリアできるよう、前期は主に国語、社会を中心とした一般常識、SPI試験対策を学ぶ。	1・後期	30	1	○			○		○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (国際ホテル専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
8	○		ホスピタリティマインドⅠ	サービスエンターテイナーのための自己理解・自己管理を通して、対人サービス業務に従事する人材に求められる基本的なパーソナリティとその表現方法を習得し、自己イメージ・印象管理を行う。	1・前期	30	1	○		△	○			○	○
9	○		ホスピタリティマインドⅡ	サービスエンターテイナーのための自己理解・自己管理を通して、対人サービス業務に従事する人材に求められる基本的なパーソナリティとその表現方法を習得し、自己イメージ・印象管理を行う。	1・後期	30	1	○		△	○			○	○
10	○		サービス接客検定対策Ⅰ	資格の取得により、知識・技術を習得していることを客観的に証明する。あらゆる業界において必要となるサービス接客実務について十分な理解と高度な知識、専門的な技能を身につける。出題傾向や過去問題の分析を行い、出題意図を把握できる効果的な対策授業を進め、1年次に準1級以上の取得を目指す。	1・前期	30	1		○		○			○	
11	○		ホテルビジネス実務検定対策	ホテルビジネス実務検定ベーシック2級の資格取得を目的とする。	1・後期	30	1		○		○			○	
12	○		和食検定対策	2013年に和食が無形文化遺産に登録され、現在世界的に和食が注目されている。和食の初歩的な知識を学ぶことで和の食文化への興味関心を高め、国際交流に役立てる。	3・前期	30	1	○			○			○	
13	○		サービス接客1級対策	サービス接客の際の言葉遣い、適切な対応の仕方、その他サービス接客に関する専門知識はサービス業に従事するために必要不可欠である。サービス従事者としての資質、一般知識、専門知識、対人技能、実務技能を身につけ、検定2級以上の取得を目指す。	3・後期	30	1			○	○			○	
14	○		レストランサービス技能検定対策	レストランサービス技能検定・学科試験問題の解説及び解答方法 過去問題を中心に模擬試験を行い、学科試験問題の内容の理解を深める。	3・前期	60	2		○		○			○	
15	○		レストランサービス	レストランスタッフの役割と組織を理解する。サービスの心得をを机上と実技をもってレストランサービスの基本を習得する。	1・前期	60	2			○	○			○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (国際ホテル専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
16	○			料飲基礎知識	ホテルの料飲部門で提供される料理、飲料に関する基本知識を習得する。料理は西洋料理(フランス)を中心に学び、日本、中国、イタリア料理と他世界の料理の特徴などの概要を押さえる。飲料はアルコール飲料全般について学ぶとともにサービスの基本技能も習得する。	1・前期	60	2	○		△	○		○	
17	○			宿泊サービス実務Ⅰ	ホテルの宿泊部門の概要及びハウスキーピング業務とフロントサービス業務(ドアスタッフ、ベルスタッフ、クローク、コンシェルジュ)に関する実務知識とサービス技能を習得し、宿泊接客サービスの基本動作を身につける。	1・前期	30	1	○		△	○			○
18	○			宿泊サービス実務Ⅱ	ホテルの宿泊部門の概要及びハウスキーピング業務とフロントサービス業務(ドアスタッフ、ベルスタッフ、クローク、コンシェルジュ)に関する実務知識とサービス技能を習得し、宿泊接客サービスの基本動作を身につける。	2・後期	30	1	○		△	○			○
19	○			マーケティング基礎	マーケティングとは何か?新商品や新サービスを作り出す仕組みを一般企業とホテル・サービス業と比較してマーケティングの基礎が理解できるようにする。また、ホテルやブライダルスタッフとして押さえておくべきマーケティングの用語や意味を理解する。	1・後期	30	1	○			○			○
20	○			ワイン&カクテル基礎	ワインとカクテルの基礎知識、サービス実技を座学と実務を中心に習得する。実習室で実際にホテルで扱う備品を利用して備品に触れながら学ぶ。またその用途を理解し、使えるようになるまでにする。アルコールについての基礎を学びお酒のマナーが実用レベルで使えるようにする。	3・前期	30	1			○	○			○
21	○			バンケット実務	ホテルでの婚礼・宴会の概要及びホテル宴会業務に関する実務知識とサービス技能を、実際に宴を企画して発表出来るレベルまでに向上させる。	3・前期	60	2			○	○			○
22	○			サービス心理学Ⅰ	ホテル・ブライダル業界では常にお客様の気持ちを汲み取ることで、先を読んだサービス、満足度の高い商品の提案、心に寄り添ったおもてなしを提供することができる。この科目ではお客様の心理状態を考察し、最良の状況判断をするための基本的な知識を習得する。	3・前期	30	1	○			○			○

(文化教養専門課程 グローバル学科 (国際ホテル専攻))																
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
23	○			サービス心理学Ⅱ	ホテル・ブライダル業界では常にお客様の気持ちを汲み取ることで、先を読んだサービス、満足度の高い商品の提案、心に寄り添ったおもてなしを提供することができる。この科目ではお客様の心理状態を考察し、最良の状況判断をするための基本的な知識を習得する。	3・後期	30	1	○			○		○		
24	○			料飲応用知識	料飲業務に携わる者として、食品を扱うことは人の命や健康に関わる業務であると認識し、食品衛生・アレルギー・栄養学などの基本知識を習得する。また、レストランの重要要素であるメニューの基本構成や形式などを、日本の「和食」をはじめ世界の食文化とともに学び、多面的な視点と深い洞察力を養う。	3・前期	60	2	○			○			○	
25	○			公衆・食品衛生	食品などを扱うホテルやサービス業は感染症や食中毒は致命的になる。このような災害を避けるためには、公衆衛生や食品衛生を理解、把握し、お客様にご迷惑をかけないようにすることが、大事である。食品をはじめとするあらゆるものの衛生面に則ってホテル・サービス業を考える。	3・後期	30	1	○			○			○	
26	○			ホテル・ブライダルマネジメント	ホテル業界やブライダル業界で求められるマネジメントの考え方や知識について学ぶ。	3・後期	30	1	○			○			○	
27	○			マナープロトコール	日本人として社会人として必須のマナーやプロトコール（国際儀礼）に関わる知識を学び、国際的なマナーやルールに基づいて的確な対応ができる力を養う。	3・後期	30	1	○			○			○	
28	○			卒業発表	2年ないし3年間の学科習得の成果を、ホテルにおける様々な形式を用いて発表する。内容は別途発表する。	3・後期	60	2			○	○		○		
29	○			接客英語Ⅰ	日常生活において英語でコミュニケーションできる能力を習得する。さらに、サービス業に従事する者が、接客の場で状況に応じた表現を正しく使える能力へと発展させ、「話す能力」の育成を中心においた授業を行う。	1・前期	30	1	○			○			○	
30	○			接客英語Ⅱ	日常生活において英語でコミュニケーションできる能力を習得する。さらに、サービス業に従事する者が、接客の場で状況に応じた表現を正しく使える能力へと発展させ、「話す能力」の育成を中心においた授業を行う。	1・後期	30	1	○			○			○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (国際ホテル専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
31	○		接客英語Ⅲ	日常生活において英語でコミュニケーションできる能力を習得する。さらに、サービス業に従事する者が、接客の場で状況に応じた表現を正しく使える能力へと発展させ、「話す能力」の育成を中心とした授業を行う。	3・前期	30	1	○			○			○	
32	○		接客英語Ⅳ	日常生活において英語でコミュニケーションできる能力を習得する。さらに、サービス業に従事する者が、接客の場で状況に応じた表現を正しく使える能力へと発展させ、「話す能力」の育成を中心とした授業を行う。	3・後期	30	1	○			○			○	
33	○		TOEIC対策Ⅰ	訪日旅行者の増加により、ホテルでお客様とコミュニケーションを図るには語学力も必須である。本講座では英語の語彙や表現を学び、英語力の基準となるTOEICのスコアアップを目指す。	1・前期	30	1	○			○			○	
34	○		TOEIC対策Ⅱ	訪日旅行者の増加により、ホテルでお客様とコミュニケーションを図るには語学力も必須である。本講座では英語の語彙や表現を学び、英語力の基準となるTOEICのスコアアップを目指す。	1・後期	30	1	○			○			○	
35	○		TOEIC対策Ⅲ	訪日旅行者の増加により、ホテルでお客様とコミュニケーションを図るには語学力も必須である。本講座では英語の語彙や表現を学び、英語力の基準となるTOEICのスコアアップを目指す。	3・前期	30	1	○			○			○	
36	○		TOEIC対策Ⅳ	訪日旅行者の増加により、ホテルでお客様とコミュニケーションを図るには語学力も必須である。本講座では英語の語彙や表現を学び、英語力の基準となるTOEICのスコアアップを目指す。	3・後期	30	1	○			○			○	
37	○		イングリッシュコミュニケーションⅠ	海外のホテルや外資系ホテルではお客様はもちろん、会社組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的、効果的コミュニケーション能力を身につけ、より自己表現や人に伝える力を高めていく。	1・前期	30	1	○			○			○	
38	○		イングリッシュコミュニケーションⅡ	海外のホテルや外資系ホテルではお客様はもちろん、会社組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的、効果的コミュニケーション能力を身につけ、より自己表現や人に伝える力を高めていく。	3・後期	30	1	○			○			○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (国際ホテル専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学 期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択					講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
39	○			イングリッシュコミュニケーションⅢ	海外のホテルや外資系ホテルではお客様はもちろん、会社組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的、効果的コミュニケーション能力を身につけ、より自己表現や人に伝える力を高めていく。	3 ・ 前 期	30	1	○			○		○	
40	○			イングリッシュコミュニケーションⅣ	海外のホテルや外資系ホテルではお客様はもちろん、会社組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的、効果的コミュニケーション能力を身につけ、より自己表現や人に伝える力を高めていく。	3 ・ 後 期	30	1	○			○		○	
41	○			中国語Ⅰ	近年ますます増える外国人旅行者に対し、特に需要が大きい「中国語」について、接客業務に必要な基礎的な語学およびその国の文化等を学習する。	3 ・ 前 期	30	1	○			○		○	
42	○			中国語Ⅱ	近年ますます増える外国人旅行者に対し、特に需要が大きい「中国語」について、接客業務に必要な基礎的な語学およびその国の文化等を学習する。	3 ・ 後 期	30	1	○			○		○	
43	○			コンピュータスキルⅠ	日常業務に活かせるコンピュータスキルの習得する。資料、テーマを正確に理解しWord、Excel、PowerPointの技術を習得する。	1 ・ 前 期	30	1	○			○		○	
44	○			コンピュータスキルⅡ	日常業務に活かせるコンピュータスキルの習得する。資料、テーマを正確に理解しWord、Excel、PowerPointの技術を習得する。	1 ・ 後 期	30	1	○			○		○	
45	○			コンピュータスキルⅢ	日常業務に活かせるコンピュータスキルの習得する。資料、テーマを正確に理解しWord、Excel、PowerPointの技術を習得する。	3 ・ 前 期	30	1	○			○		○	
46	○			ホテル・旅館概論	ホテル・旅館の基礎を、わかりやすく解説を通して習得する。特に、ホテルの各部門についての概要を理解することを目指す。	1 ・ 前 期	30	1	○			○		○	
47	○			観光英検対策Ⅰ	旅行やビジネスで来日している外国人への対応や細かな気遣いなどを目的に、一般英会話や業界独自の専門用語、旅行業等観光業に従事するために必要とされる語彙力・表現力を学び、観光英検3級以上の取得を目指す。	1 ・ 前 期	30	1	○			○		○	
48	○			観光英検対策Ⅱ	旅行やビジネスで来日している外国人への対応や細かな気遣いなどを目的に、一般英会話や業界独自の専門用語、旅行業等観光業に従事するために必要とされる語彙力・表現力を学び、観光英検3級以上の取得を目指す。	1 ・ 後 期	30	1	○			○		○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (国際ホテル専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
49	○			サービス接遇の際の言葉遣い、適切な対応の仕方、その他サービス接遇に関する専門知識はサービス業に従事するために必要不可欠である。サービス従事者としての資質、一般知識、専門知識、対人技能、実務技能を身につけ、検定2級以上の取得を目指す。	1・後期	30	1		○		○			○	
50	○			ホテルの宿泊部門のフロントオフィス業務（リゼベーション、レセプション、インフォメーション、キャッシャー）に関する実務知識とサービス技能を習得する。	1・後期	30	1	○			○				○
51	○			フロント実務Ⅰで学んだ内容をベースに、更にホテルのフロントオフィス業務に関する実務知識とサービス技能を深める。フロントスタッフとして求められる非常時対応やコンプレ対応業務についても理解する。	3・前期	30	1	○			○				○
52	○			ホテル・ブライダルイベントプランニング 学んできた成果を発表・パフォーマンスする場として、一つのイベントの企画、準備から施行までを行う。	1・後期	60	2	△			○			○	
53	○			カラーコーディネート (色彩検定) 従来から「感性」だけによるものと見られがちであった「色に関する知識や技能」を理論的、系統的に学ぶことにより、誰もが「理論に裏付けられた色彩の実践的活用能力」を身につけることができる。色に関する知識や技能を社会的に評価する色彩検定の合格を目指す。また、空間における創造力、感性を磨く。	1・後期	30	1	○			○				○
54	○			空間コーディネート テーブルコーディネートの基礎知識から応用までを習得し、客層、場所の広さ、テーブルやインテリアのデザイン・配置、照明、季節感などを総合的に考える力を身につける。	1・後期	30	1	○			○				○
55	○			ホテル・ブライダルマーケティング ホテル・ブライダル業界の中で勝ち得ていくために、ホテル・ブライダル市場を理解し戦略を立て、企画することは不可欠である。この授業を通じて業界のマーケティング力を培い、集客・販売の仕組みを知り、新規商品企画や施行、業界のトレンドについても学ぶ。	3・後期	30	1	○			○				○
56		○		各種検定対策講座 就職に役立つ検定・資格を在学中に可能な限り取得していくために、「秘書検定」、「ワープロ検定」、「英検」などの主要な検定の対策授業。学科、専攻、コースの枠にとらわれず、各々の知識・教養を高める講座を選択し受講する。講座内容は別途発表する。	1後・2前	所定時間	所定単位	△	○		○				○

(文化教養専門課程 グローバル学科 (国際ホテル専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
57	○			留学準備講座 -英会話リスニング	留学先での講義や日常生活で必要とされる英語リスニングスキルを強化する。	2・前期	30	1	○			○		○	
58	○			留学準備講座 -日本文化	異文化環境での生活をスムーズに過ごすために留学先の文化や習慣を理解し、日本文化を身につける。	2・前期	30	1	○			○		○	
59	○			留学準備講座 -実用英語	留学先での講義や日常生活を円滑に必要とされる実用英語スキルを強化する。	2・前期	30	1	○			○		○	
60	○			国際コミュニケーション留学	9か月間の語学留学	2・後期	##	23	○			○		○	
61	○			留学帰国後講座 -英会話リスニング	ネイティブ・スピーカーによる講座。留学中に実践し習得した日常的な英会話スキルをさらに強化する。	2・後期	30	1	○			○		○	
62	○			留学帰国後講座 -TOEIC対策	帰国後に受験するTOEIC対策としてさらにスキルを強化する。	2・後期	30	1	○			○		○	
63	○			留学帰国後講座 -キャリアセミナー	留学中に得た留学経験をどのように活かし、帰国後始まる就職活動をスムーズに進められるよう準備をする。	2・後期	30	1	○			○		○	
64			○	語学研修	国際的な視野を養い、英語力を実践的に伸ばす、または専門知識を深めるために海外語学研修を実施している。研修の詳細は説明会で発表する。夏期休暇、春期休暇に実施を計画し、期間に応じて所定の単位を認定する。	1前・3前	30	1			○		○		○
65			○	中期語学留学	長期休暇を利用して、中期(8~10週間)の語学留学プログラムを実施している。希望者から事務局が認定した学生を派遣する。詳細は説明会で発表する。プログラムに参加し、成績認定された学生に所定の単位が与えられる。	1前・3前	所定時間	所定単位			○		○		○
66			○	自己啓発講座	学生の自己啓発を目的に講座を開講する。講座内容は別途発表する。	1前・3前	所定時間	所定単位	○			○		○	
67			○	企業研修	研修生としてビジネスの現場を経験し、各分野の専門能力を身につけるとともに、社会人としての素地を養う。企業研修を通して実務を体得し、組織の一員として仕事をする意義を学ぶ。所定の時間を満たした実習参加に対して所定の単位が認定される。	1前・3前	30	1			○		○		○

(文化教養専門課程 グローバル学科 (国際ホテル専攻))															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
合計						67	科目	2820 単位 (単位時間)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 1年次34単位、2年次27単位、3年時27単位以上取得して、進級もしくは、卒業判定会議で承認されること。	1学年の学期区分	2
履修方法： 必修(専攻別)は、全ての科目を必修する。 選択必修科目は選択した科目を履修し単位認定とする。 自由選択科目は、進級・卒業必要単位数には加算されない。	1学期の授業期間	15

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																															
トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校	1976年4月1日	木村 俊介	〒 450-0002 (住所) 名古屋市千種区名駅4-1-11 (電話) 052-582-1770																															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人河合塾学園	1978年8月1日	河合 英樹	〒 464-8610 (住所) 名古屋市千種区今池2-1-10 (電話) 052-735-1613																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
文化・教養	文化教養専門課程	グローバル学科(海外ホテル専攻)	令和3(2021)年度	-	-																													
学科の目的	【ホテル系専攻】ホテル・観光産業で求められる英語を実務・実用レベルまで習得させ、必要とされるビジネス能力、対人サービス能力も踏まえ、国際社会に貢献できるホスピタリティマインドに優れた人材育成を目的とする。																																	
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	1年次終了後に海外留学し、毎日の生活の中で語学鍛錬に加えその地域の文化に直に触れることにより、国際的理解を深めることを目標としている。 職場体験や企業のインターンシップ参加の機会を創出している。 取得可能検定:実用英語技能検定準1級、2級、準2級 観光英語検定2級 秘書技能検定2級、サービス接客技能検定、レストランサービス技能検定、ホテルビジネス実務検定、和食検定 中退率:0%																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
3	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 2,820 単位時間	930 単位時間	720 単位時間	1,170 単位時間	0 単位時間	0 単位時間																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																														
60人の内数	3 人	0 人	0 %	0 %																														
就職等の状況	<p>■卒業者数(C) : 1 人</p> <p>■就職希望者数(D) : 1 人</p> <p>■就職者数(E) : 1 人</p> <p>■地元就職者数(F) : 0 人</p> <p>■就職率(E/D) : 100 %</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 0 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 100 %</p> <p>■進学者数 : 0 人</p> <p>■その他 : 人</p> <p>ホテル系専攻とは国際ホテル専攻/海外ホテル専攻/テーマパーク・ホテル専攻/ホテルウェディング専攻を指す。</p> <p>(令和6年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) パークハイアット東京</p>																																	
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無																															
	評価団体:	受審年月:	評価結果を掲載したホームページURL	https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/																														
当該学科のホームページURL	https://gaikokugo.trident.ac.jp/department/dept-global/																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>2,820 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>60 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>60 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr> </table>						総授業時数	2,820 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	60 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	60 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総単位数	0 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位
総授業時数	2,820 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	60 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																	
うち必修授業時数	120 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	60 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																	
総単位数	0 単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																																	
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																																	
うち必修単位数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>2 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>6 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9 人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>2 人</p>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	6 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1 人	計	9 人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2 人																																	
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	6 人																																	
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																																	
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1 人																																	
計	9 人																																	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生への教授については英米語の現場での最新の仕事のすすめ方なども熟知したうえで実施していくことは学校の必須事項である。また同時に、業界が求める人材内容や今後の業界発展を考えたときに必要とされる資質、要件などについての知見を得たうえで、現在及び将来の専門学校教育に取り組んでいくことも重要である。こうしたことを踏まえ、本校では、関連企業、業界団体、学識経験者等からの要請、提言を聴取し、該当学科、ひいては学校全体の教育運営に資することを方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

上記の方針により設置される教育課程編成委員会は学科の諮問、支援会議体として校長の委嘱を受けた委員により、該当学科の授業科目の設定、授業内容の改善、授業手法の開発・改善など全般的な助言を行う。提出された助言については、校長、教務チームにおいて協議のうえ学科長に指示し、実行や改善に着手する。また、教育課程編成委員会からの助言とその助言に基づく学校としての改善実行計画については、別の委員会である学校関係者評価委員会で特に言及し評価を受けるものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年9月13日現在

名前	所属	任期	種別
室岡 雅幸	株式会社森ビルホスピタリティコーポレーション 人事部 部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
今 竜太郎	LEGOLAND Japan 合同会社 ホテル ヘッド	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
大堀 貴弘	株式会社ネクスト・ホスピタリティー研究所 代表	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
木村 俊介	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
野口 真理子	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 教務チームチーフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
川原 純	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 学生チームチーフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
田村 学	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 国際ホテル学科長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
高橋 梓	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 常勤講師	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
林 諒弥	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 常勤講師	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
前畑 勝秀	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 キャリアセンターチーフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(2月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年8月23日 16:00～17:30

第2回 令和6年2月21日 16:00～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

人が欲しいのではなく人材が欲しいという企業の方からのご意見をいただき、知識やスキルのみならず、広い視野を持ち臨機応変に対応できる人材育成に注力していく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業との連携による実習・演習等の科目においては、各分野で活躍されている講師を招き、ゼミ科目で企業の求める業務水準を現実的に体感させることを目的に設定する。疑似体験的な講義・演習を通じて、各分野の現場で日常使われている技術・知識を習得させる。評価については企業の現実の評価基準を確認しながら、常勤講師と相談のうえを実施していただく。社会人への準備として必要なキャリアデザイン、資格検定についても実績の高い企業と連携をし、有能な人材を社会に送り出す。また、こうした講義・演習全体を通じて、社会人基礎力を涵養していくことも合わせて目的に設定する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ゼミ科目については、高度な知識と技術が必要な為、業界ニーズを把握し、各分野で活躍されている企業の講師が担当する。各専攻の最終仕上げの授業と位置づけ、正確かつ最新の業界情報を講義に入れ込む。演習時には、修正・訂正が必要な箇所の指摘、評価を行っていただく。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
社会人基礎力&プレゼン表現Ⅰ・Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	経済産業省から提案された社会人として活躍するための重要な能力のひとつである「社会人基礎力」を理解し、社会人として必要な基本スキルを自主的に身につけさせる。	有限会社畠山企画
ホスピタリティマインドⅠ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	実際のあるいは架空の企業が抱える問題・課題に対して、グループで解決策を考えて提案する。企画案作成・イベント等企画実施までを産学連携にて実施する。	一般社団法人クールスタイルジャパン
ホスピタリティマインドⅡ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	実際のあるいは架空の企業が抱える問題・課題に対して、グループで解決策を考えて提案する。企画案作成・イベント等企画実施までを産学連携にて実施する。	一般社団法人クールスタイルジャパン

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にやっていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門学校教員として、自己の専門分野における最先端の知識・技術の習得のために、業務上一定の時間を費やすことを学校として求めている。研修等の諸規定に定められている通り、年度の当初にチーフと学科長、各教員で実施する研修についての年間計画を立案し1名あたり2~3回の研修を義務づけている。教員はそれらの研修を通じて各々が専門分野の知識向上に務めている。また、専門知識のみではなく、授業に関わる技術など教育力向上のための機会についても法人全体の課題として取り組んでいく。

(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	「コーチング研修～部下の主体性を引き出すスキルを習得する」	連携企業等: 株式会社インソース
期間:	令和5年7月11日(火) 10:00～16:00	対象: 教職員
内容:	ロールプレイングでやる気を引き出すコーチングのスキルを習得	
研修名:	カスタマーバリュー向上研修～顧客視点からマーケティングを強化する	連携企業等: 株式会社インソース
期間:	令和6年2月22日(土)	対象: 教職員
内容:	顧客の視点から見た商品やサービスの価値(カスタマーバリュー)の重要性について理解する	
研修名:	TOEICセミナー	連携企業等: 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
期間:	令和5年9月13日(水) 14:00～16:30	対象: 教職員
内容:	今、実社会で求められる英語力とは?～多様化する英語ニーズと自分の英語力を知る意義～	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	第1回FD研修	連携企業等: 株式会社AL&AL研究所
期間:	令和5年8月29日(火) 9:30～15:00	対象: 新人常勤講師
内容:	アクティブラーニング形式の授業スキル向上	
研修名:	『7つの習慣セルフコーチング for College』	連携企業等: 株式会社FCEエデュケーション
期間:	令和5年1月17日(火) 9:45～12:55	対象: 教職員
内容:	「自分で自分を成長させる自己対話スキル」を身につけられるようになるプログラム体験	
研修名:	第2回FD研修	連携企業等: 株式会社ハーモニークリエイション
期間:	令和5年3月6日(月) 14:00～16:00	対象: 教職員
内容:	「アカハラを主としたハラスメント防止・対策」	
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	JTBリスクマネジメントセミナー2024 ～事例から学ぶ大学の海外危機管理～	連携企業等: 株式会社JTB
期間:	令和6年9月11日(水) 15:00～	対象: 教職員
内容:	ロールプレイングでやる気を引き出すコーチングのスキルを習得	
研修名:	対人関係構築研修	連携企業等: 株式会社インソース
期間:	令和6年8月26日(火) 10:00～16:00	対象: 教職員
内容:	顧客の視点から見た商品やサービスの価値(カスタマーバリュー)の重要性について理解する	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	第1回FD研修	連携企業等: 専門学校事業企画部
期間:	令和6年8月27日(火) 10:30～15:30	対象: 新人常勤講師
内容:	対話的で深い学びの実現～専門学校AL形式中心の授業スキル向上の習得	

研修名:	対人関係構築研修	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和6年8月26日(火) 10:00~16:00	対象:	教職員
内容:	円滑なコミュニケーションの為のスキルを習得する		

研修名:	第2回FD研修	連携企業等:	一般社団法人日本著作権教育研究会
期間:	令和7年2月27日(木) 10:00~12:00	対象:	教職員
内容:	教育における著作権に関して		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針  
 学校の教育目標、計画に沿った取り組みの達成状況、学校運営等の取り組みが適切に行われたかについて自己評価を行う。自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、校長直属の委員会として学校関係者評価委員会を設置し、「学校自己点検・評価報告書」および「授業科目等の概要」を中心に学校に対する外部評価を実施・公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・教育目的、教育目標、教育目標の周知、独自性の高い教育内容・手法、教育手法に対する各方面からの評価
(2) 学校運営	運営方針・事業計画、学校組織と意思決定の概要、組織の活性化、業務の効率化
(3) 教育活動	各学科の概要と学修目標、教育目標とカリキュラム、カリキュラム編成体制、各学科のカリキュラム編成、カリキュラムや教育方法の工夫・開発、企業・団体等との連携、インターンシップ、専門教育における実習、キャリア教育、授業評価、成績評価・単位認定の考え方、資格取得、現在の講師陣の状況、講師の採用基準、講師の専門性把握および教育スキルの向上
(4) 学修成果	就職について、資格取得の目標と取得状況について
(5) 学生支援	就職指導の全体方針、就職指導体制・就職活動支援、学生相談室、担任制、奨学金制度・学費分納、学生の健康管理、クラブ活動、卒業生支援
(6) 教育環境	学校施設・設備の整備状況、インターンシップ、海外研修、防火・防災体制、保健衛生管理
(7) 学生の受入れ募集	学生募集の考え方、入学選考
(8) 財務	予算、監査・財務情報公開
(9) 法令等の遵守	法令順守の方針、個人情報保護の方針、学校自己点検・自己評価、学校関係者評価
(10) 社会貢献・地域貢献	企業・団体・地域との連携・交流
(11) 国際交流	留学生の受け入れ

※(10)及び(11)については任意記載。  
 (3) 学校関係者評価結果の活用状況  
 スマホは使えるがPCの使い方をあまり知らない学生についてどのように学校は対応しているかとの問題定義があり、入学後の集中授業や課題提出などをPCで行なわせるなど、日常的にPCを使わせるように取り組んでいる。

## (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
小田 康典	イッティージャパン株式会社 指導本部 課長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	企業
山澤 隆士	イッティージャパン株式会社 課長代理	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業
鶴田 修一	愛知中小企業家同友会 株式会社鶴田工業所代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業
坂本 喜樹	瑞穂通商店街振興組合 坂本時計店店長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域
上福元 諭	ソニー生命保険株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
谷澤 文彦	県立城北つばさ高等学校 教諭	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校教員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

## (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/>

公表時期: 2024年8月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

## (1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

全体として少しずつ公開項目を増やしていく。広報的作成物だけではなく、自己点検などの機会を利用して正確な情報を整理し、順次公開を進めていく。また、学生配付物についても、より多様な情報提供をリアルタイムで提供できるように取り組みを進めている。

## (2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念・教育目的、教育目標、学校運営の方針、特色、校長名、所在地・連絡先、学校の沿革、防災、保健衛生
(2) 各学科等の教育	各学科のカリキュラム編成方法、年間の授業計画、進級・卒業の要件、資格取得・検定試験合格等の実績、卒業後の進路
(3) 教職員	教職員組織図
(4) キャリア教育・実践的職業教育	実習の意義、キャリア教育、就職指導の全体方針、就職指導体制、就職指導管理・就職実績、具体的就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動
(6) 学生の生活支援	学生生活相談
(7) 学生納付金・修学支援	学費、学費援助制度
(8) 学校の財務	河合塾学園事業報告
(9) 学校評価	自己点検・自己評価報告書
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/>

公表時期: 2024年8月31日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 グローバル学科 (海外ホテル専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		ベーシックプログラム	入学後、専門科目の履修に先駆けて常識やマナーを学び、社会人としての土台をつくる。また、入学時に在学中の達成目標と将来への志望を明確にし、学習の全容を見える化して担任と相互に理解し、納得して学習に入る道を作る。	1前	30	1	○			○		○		
2	○		社会人基礎力&プレゼン表現 I・II	自己管理、時間管理、自立、チームワーク、工程管理、コミュニケーション力、柔軟性、創造性、論理的思考力、批判的思考力など、さまざまな状況のもとで適応できるスキル、社会人に必要でかつ専門的履修に欠かせない基本知識を習得する。ビジネスに関する基礎的な知識の理解、社会の一員としての心構えや考え方、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力や目指す業界についての基礎的な知識を身につける。	1通	60	2			○	○			○ ○	
3	○		業界研究 I・II	業界での第一線で働いている方だけでなく、身近な先輩などの講演を多数実施し、仕事の幅を広げ、各自の仕事のイメージを掴みやすくする。また、学校を出てインターンシップやボランティアなど外部との接触を嫌がらず、自主的に行動できる情報を知る。	1通	60	2	○			○		○		
4	○		就職研究 I・II	目指す職業に就くためには、就職活動を避けて通ることはできない。就職活動を順調にスタートさせ、自信をもって就職試験に臨むことができるようになることを狙いとする。	1通	60	2	○			○		○	○	
5	○		キャリアサポート	自らの目標達成に向けたプランニングの確認や修正作業を、面談を中心に進め、自主的に自分の描くゴールを目指す。	3後	30	1	○			○		○		
6	○		就職試験対策 I	就職試験における筆記試験は面接試験の前段階として行われることが多い。この筆記試験をクリアできるよう、前期は主に国語、社会を中心とした一般常識、SPI試験対策を学ぶ。	1・前期	30	1	○			○			○	
7	○		就職試験対策 II	就職試験における筆記試験は面接試験の前段階として行われることが多い。この筆記試験をクリアできるよう、前期は主に国語、社会を中心とした一般常識、SPI試験対策を学ぶ。	1・後期	30	1	○			○			○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (海外ホテル専攻))																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
8	○			ホスピタリティマインドⅠ	サービスエンターテイナーのための自己理解・自己管理を通して、対人サービス業務に従事する人材に求められる基本的なパーソナリティとその表現方法を習得し、自己イメージ・印象管理を行う。	1・前期	30	1	○		△	○			○	○
9	○			ホスピタリティマインドⅡ	サービスエンターテイナーのための自己理解・自己管理を通して、対人サービス業務に従事する人材に求められる基本的なパーソナリティとその表現方法を習得し、自己イメージ・印象管理を行う。	1・後期	30	1	○		△	○			○	○
10	○			サービス接客検定対策Ⅰ	資格の取得により、知識・技術を習得していることを客観的に証明する。あらゆる業界において必要となるサービス接客実務について十分な理解と高度な知識、専門的な技能を身につける。出題傾向や過去問題の分析を行い、出題意図を把握できる効果的な対策授業を進め、1年次に準1級以上の取得を目指す。	1・前期	30	1		○		○			○	
11	○			ホテルビジネス実務検定対策	ホテルビジネス実務検定ベーシック2級の資格取得を目的とする。	1・後期	30	1		○		○			○	
12	○			和食検定対策	2013年に和食が無形文化遺産に登録され、現在世界的に和食が注目されている。和食の初歩的な知識を学ぶことで和の食文化への興味関心を高め、国際交流に役立てる。	3・前期	30	1	○			○		○		
13	○			サービス接客1級対策	サービス接客の際の言葉遣い、適切な対応の仕方、その他サービス接客に関する専門知識はサービス業に従事するために必要不可欠である。サービス従事者としての資質、一般知識、専門知識、対人技能、実務技能を身につけ、検定2級以上の取得を目指す。	3・後期	30	1			○	○			○	
14	○			レストランサービス技能検定対策	レストランサービス技能検定・学科試験問題の解説及び解答方法 過去問題を中心に模擬試験を行い、学科試験問題の内容の理解を深める。	3・前期	60	2		○		○		○		
15	○			レストランサービス	レストランスタッフの役割と組織を理解する。サービスの心得をを机上と実技をもってレストランサービスの基本を習得する。	1・前期	60	2			○	○		○		

(文化教養専門課程 グローバル学科 (海外ホテル専攻))																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
16	○			料飲基礎知識	ホテルの料飲部門で提供される料理、飲料に関する基本知識を習得する。料理は西洋料理（フランス）を中心に学び、日本、中国、イタリア料理と他世界の料理の特徴などの概要を押さえる。飲料はアルコール飲料全般について学ぶとともにサービスの基本技能も習得する。	1・前期	60	2	○		△	○		○		
17	○			宿泊サービス実務Ⅰ	ホテルの宿泊部門の概要及びハウスキーピング業務とフロントサービス業務（ドアスタッフ、ベルスタッフ、クローク、コンシェルジュ）に関する実務知識とサービス技能を習得し、宿泊接客サービスの基本動作を身につける。	1・前期	30	1	○		△	○			○	
18	○			宿泊サービス実務Ⅱ	ホテルの宿泊部門の概要及びハウスキーピング業務とフロントサービス業務（ドアスタッフ、ベルスタッフ、クローク、コンシェルジュ）に関する実務知識とサービス技能を習得し、宿泊接客サービスの基本動作を身につける。	2・後期	30	1	○		△	○			○	
19	○			マーケティング基礎	マーケティングとは何か？新商品や新サービスを作り出す仕組みを一般企業とホテル・サービス業と比較してマーケティングの基礎が理解できるようにする。また、ホテルやブライダルスタッフとして押さえておくべきマーケティングの用語や意味を理解する。	1・後期	30	1	○			○			○	
20	○			ワイン&カクテル基礎	ワインとカクテルの基礎知識、サービス実技を座学と実務を中心に習得する。実習室で実際にホテルで扱う備品を利用して備品に触れながら学ぶ。またその用途を理解し、使えるようになるまでにする。アルコールについての基礎を学びお酒のマナーが実用レベルで使えるようにする。	3・前期	30	1			○	○			○	
21	○			バンケット実務	ホテルでの婚礼・宴会の概要及びホテル宴会業務に関する実務知識とサービス技能を、実際に宴を企画して発表出来るレベルまでに向上させる。	3・前期	60	2			○	○			○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (海外ホテル専攻))																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
22	○			サービス心理学Ⅰ	ホテル・ブライダル業界では常にお客様の気持ちを汲み取ることで、先を読んだサービス、満足度の高い商品の提案、心に寄り添ったおもてなしを提供することができる。この科目ではお客様の心理状態を考察し、最良の状況判断をするための基本的な知識を習得する。	3・前期	30	1	○			○			○	
23	○			サービス心理学Ⅱ	ホテル・ブライダル業界では常にお客様の気持ちを汲み取ることで、先を読んだサービス、満足度の高い商品の提案、心に寄り添ったおもてなしを提供することができる。この科目ではお客様の心理状態を考察し、最良の状況判断をするための基本的な知識を習得する。	3・後期	30	1	○			○			○	
24	○			料飲応用知識	料飲業務に携わる者として、食品を扱うことは人の命や健康に関わる業務であると認識し、食品衛生・アレルギー・栄養学などの基本知識を習得する。また、レストランの重要要素であるメニューの基本構成や形式などを、日本の「和食」をはじめ世界の食文化とともに学び、多面的な視点と深い洞察力を養う。	3・前期	60	2	○			○			○	
25	○			公衆・食品衛生	食品などを扱うホテルやサービス業は感染症や食中毒は致命的になる。このような災害を避けるためには、公衆衛生や食品衛生を理解、把握し、お客様にご迷惑をかけるないようにすることが、大事である。食品をはじめとするあらゆるものの衛生面に則ってホテル・サービス業を考える。	3・後期	30	1	○			○			○	
26	○			ホテル・ブライダルマネジメント	ホテル業界やブライダル業界で求められるマネジメントの考え方や知識について学ぶ。	3・後期	30	1	○			○			○	
27	○			マナープロトコール	日本人として社会人として必須のマナーやプロトコール（国際儀礼）に関わる知識を学び、国際的なマナーやルールに基づいて的確な対応ができる力を養う。	3・後期	30	1	○			○			○	
28	○			卒業発表	2年ないし3年間の学科習得の成果を、ホテルにおける様々な形式を用いて発表する。内容は別途発表する。	3・後期	60	2				○	○	○		

(文化教養専門課程 グローバル学科 (海外ホテル専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
29	○			接客英語Ⅰ	日常生活において英語でコミュニケーションできる能力を習得する。さらに、サービス業に従事する者が、接客の場で状況に応じた表現を正しく使える能力へと発展させ、「話す能力」の育成を中心においた授業を行う。	1・前期	30	1	○			○		○	
30	○			接客英語Ⅱ	日常生活において英語でコミュニケーションできる能力を習得する。さらに、サービス業に従事する者が、接客の場で状況に応じた表現を正しく使える能力へと発展させ、「話す能力」の育成を中心においた授業を行う。	1・後期	30	1	○			○		○	
31	○			接客英語Ⅲ	日常生活において英語でコミュニケーションできる能力を習得する。さらに、サービス業に従事する者が、接客の場で状況に応じた表現を正しく使える能力へと発展させ、「話す能力」の育成を中心においた授業を行う。	3・前期	30	1	○			○		○	
32	○			接客英語Ⅳ	日常生活において英語でコミュニケーションできる能力を習得する。さらに、サービス業に従事する者が、接客の場で状況に応じた表現を正しく使える能力へと発展させ、「話す能力」の育成を中心においた授業を行う。	3・後期	30	1	○			○		○	
33	○			TOEIC対策Ⅰ	訪日旅行者の増加により、ホテルでお客様とコミュニケーションを図るには語学力も必須である。本講座では英語の語彙や表現を学び、英語力の基準となるTOEICのスコアアップを目指す。	1・前期	30	1	○			○		○	
34	○			TOEIC対策Ⅱ	訪日旅行者の増加により、ホテルでお客様とコミュニケーションを図るには語学力も必須である。本講座では英語の語彙や表現を学び、英語力の基準となるTOEICのスコアアップを目指す。	1・後期	30	1	○			○		○	
35	○			TOEIC対策Ⅲ	訪日旅行者の増加により、ホテルでお客様とコミュニケーションを図るには語学力も必須である。本講座では英語の語彙や表現を学び、英語力の基準となるTOEICのスコアアップを目指す。	3・前期	30	1	○			○		○	
36	○			TOEIC対策Ⅳ	訪日旅行者の増加により、ホテルでお客様とコミュニケーションを図るには語学力も必須である。本講座では英語の語彙や表現を学び、英語力の基準となるTOEICのスコアアップを目指す。	3・後期	30	1	○			○		○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (海外ホテル専攻))																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
37	○			イングリッシュコミュニケーションⅠ	海外のホテルや外資系ホテルではお客様はもちろん、会社組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的、効果的コミュニケーション能力を身につけ、より自己表現や人に伝える力を高めていく。	1・前期	30	1	○			○			○	
38	○			イングリッシュコミュニケーションⅡ	海外のホテルや外資系ホテルではお客様はもちろん、会社組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的、効果的コミュニケーション能力を身につけ、より自己表現や人に伝える力を高めていく。	3・後期	30	1	○			○			○	
39	○			イングリッシュコミュニケーションⅢ	海外のホテルや外資系ホテルではお客様はもちろん、会社組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的、効果的コミュニケーション能力を身につけ、より自己表現や人に伝える力を高めていく。	3・前期	30	1	○			○			○	
40	○			イングリッシュコミュニケーションⅣ	海外のホテルや外資系ホテルではお客様はもちろん、会社組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的、効果的コミュニケーション能力を身につけ、より自己表現や人に伝える力を高めていく。	3・後期	30	1	○			○			○	
41	○			中国語Ⅰ	近年ますます増える外国人旅行者に対し、特に需要が大きい「中国語」について、接客業務に必要な基礎的な語学およびその国の文化等を学習する。	3・前期	30	1	○			○			○	
42	○			中国語Ⅱ	近年ますます増える外国人旅行者に対し、特に需要が大きい「中国語」について、接客業務に必要な基礎的な語学およびその国の文化等を学習する。	3・後期	30	1	○			○			○	
43	○			コンピュータスキルⅠ	日常業務に活かせるコンピュータスキルの習得する。資料、テーマを正確に理解しWord、Excel、PowerPointの技術を習得する。	1・前期	30	1	○			○			○	
44	○			コンピュータスキルⅡ	日常業務に活かせるコンピュータスキルの習得する。資料、テーマを正確に理解しWord、Excel、PowerPointの技術を習得する。	1・後期	30	1	○			○			○	
45	○			コンピュータスキルⅢ	日常業務に活かせるコンピュータスキルの習得する。資料、テーマを正確に理解しWord、Excel、PowerPointの技術を習得する。	3・前期	30	1	○			○			○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (海外ホテル専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
46	○			一般教養	3ヶ月のテーマパークホテル研修後に、社会人基礎力&プレゼン表現、業界研究、就職研究を集中的に学ぶ。	1・後期	30	1	○			○		○	
47	○			ビジネス通信英語	ビジネスの場面で必要な英語表現を学び、電話対応やメールのやり取りなど基本的な処理能力を身に付ける。様々な書式のビジネスレターを読解・作成できる力を養う。	1・前期	30	1	○			○		○	
48	○			ホテルビジネス英語	ビジネスで使われる丁寧な英語表現や海外のホテルで働くための基礎的なホテル英会話の知識、技術を業務ごとに学習する。	1・前期	30	1	○			○		○	
49	○			海外ホテル留学	1ヶ月間、語学学校にて英語力をスキルアップしたのち、2ヶ月間のホテル研修を行い、海外ホテルでの実務経験を身に付ける。	1・後期	360	12			○	○		○	
50	○			イングリッシュプレゼンテーション	海外のホテルや外資系ホテルでは、お客様はもちろん会社の組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的・効果的プレゼンテーション能力を身に付け、より自己表現や人に伝える力を高めることを目的とする。	3・前期	30	1	○			○		○	
51			○	各種検定対策講座	就職に役立つ検定・資格を在学中に可能な限り取得していくために、「秘書検定」、「ワープロ検定」、「英検」などの主要な検定の対策授業。学科、専攻、コースの枠にとらわれず、各々の知識・教養を高める講座を選択し受講する。講座内容は別途発表する。	1後・2前	所定時間	所定単位数	△	○		○		○	
52	○			留学準備講座-英会話リスニング	留学先での講義や日常生活で必要とされる英語リスニングスキルを強化する。	2・前期	30	1	○			○		○	
53	○			留学準備講座-日本文化	異文化環境での生活をスムーズに過ごすために留学先の文化や習慣を理解し、日本文化を身につける。	2・前期	30	1	○			○		○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (海外ホテル専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
54	○			留学準備講座-実用英語	留学先での講義や日常生活を円滑に必要とされる実用英語スキルを強化する。	2・前期	30	1	○			○		○	
55	○			国際コミュニケーション留学	9か月間の語学留学	2・後期	690	23	○			○		○	
56	○			留学帰国後講座-英会話リスニング	ネイティブ・スピーカーによる講座。留学中に実践し習得した日常的な英会話スキルをさらに強化する。	2・後期	30	1	○			○		○	
57	○			留学帰国後講座-TOEIC対策	帰国後に受験するTOEIC対策としてさらにスキルを強化する。	2・後期	30	1	○			○		○	
58	○			留学帰国後講座-キャリアセミナー	留学中に得た留学経験をどのように活かし、帰国後始まる就職活動をスムーズに進められるよう準備をする。	2・後期	30	1	○			○		○	
59			○	語学研修	国際的な視野を養い、英語力を実践的に伸ばす、または専門知識を深めるために海外語学研修を実施している。研修の詳細は説明会で発表する。夏期休暇、春期休暇に実施を計画し、期間に応じて所定の単位を認定する。	1前・3前	30	1				○		○	
60			○	中期語学留学	長期休暇を利用して、中期(8~10週間)の語学留学プログラムを実施している。希望者から事務局が認定した学生を派遣する。詳細は説明会で発表する。プログラムに参加し、成績認定された学生に所定の単位が与えられる。	1前・3前	所定時間	所定単位				○		○	
61			○	自己啓発講座	学生の自己啓発を目的に講座を開講する。講座内容は別途発表する。	1前・3前	所定時間	所定単位	○			○		○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (海外ホテル専攻))

62	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			○	企業研修	研修生としてビジネスの現場を経験し、各分野の専門能力を身につけるとともに、社会人としての素地を養う。企業研修を通して実務を体得し、組織の一員として仕事をする意義を学ぶ。所定の時間を満たした実習参加に対して所定の単位が認定される。	1前・3前	30	1			○	○			○	
合計						62	科目		2820 単位 (単位時間)							

(文化教養専門課程 グローバル学科 (海外ホテル専攻))															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
卒業要件： (1年次34単位、2年次27単位、3年時27単位以上取得して、進級もしくは、卒業判定会議で承認されること。)								1 学年の学期区分			2				
履修方法： (必修(専攻別)は、全ての科目を必修する。 選択必修科目は選択した科目を履修し単位認定とする。 自由選択科目は、進級・卒業必要単位数には加算されない。)								1 学期の授業期間			15				

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校		1976年4月1日	木村 俊介		〒 450-0002 (住所) 名古屋市中村区名駅4-1-11 (電話) 052-582-1770		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人河合塾学園		1978年8月1日	河合 英樹		〒 464-8610 (住所) 名古屋市中村区今池2-1-10 (電話) 052-735-1613		
分野	認定課程名	認定学科名	専任士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	文化教養専門課程	グローバル学科(ホテル系テーマパークホテル専攻)	令和3(2021)年度	-	-		
学科の目的	【ホテル系専攻】ホテル・観光産業で求められる英語を実務・実用レベルまで習得させ、必要とされるビジネス能力、対人サービス能力も踏まえ、国際社会に貢献できるホスピタリティマインドに優れた人材育成を目的とする。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	1年次終了後に海外留学し、毎日の生活の中で語学鍛錬に加えその地域の文化に直に触れることにより、国際的理解を深めることを目標としている。 職場体験や企業のインターンシップ参加の機会を創出している。 取得可能検定:実用英語技能検定準1級、2級、準2級 観光英語検定2級 秘書技能検定2級、サービス接客技能検定、レストランサービス技能検定、ホテルビジネス実務検定、和食検定 中退率:0%						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3	昼間	※単位数、単位いずれかに記入 2,820 単位数	930 単位数	720 単位数	1,170 単位数	0 単位数	0 単位数
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率			
60人の内数	2人	0人	0%	0%			
就職等の状況	■卒業者数(C)		0人				
	■就職希望者数(D)		0人				
	■就職者数(E)		0人				
	■地元就職者数(F)		0人				
	■就職率(E/D)		0%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		0%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		0%				
	■進学者数		0人				
	■その他		0人				
	ホテル系専攻とは国際ホテル専攻/海外ホテル専攻/テーマパーク・ホテル専攻/ホテルウェディング専攻を指す。  (令和6年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生)						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無				
当該学科のホームページURL	https://gaikokugo.trident.ac.jp/department/dept-global/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)						
	総授業時数		2,820 単位数				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		60 単位数					
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位数					
うち必修授業時数		120 単位数					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		60 単位数					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位数					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位数					
(B:単位数による算定)							
総単位数		0 単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位					
うち企業等と連携した演習の単位数		単位					
うち必修単位数		単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		2人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		6人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		1人				
	計		9人				
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生への教授については英米語の現場での最新の仕事のすすめ方なども熟知したうえで実施していくことは学校の必須事項である。また同時に、業界が求める人材内容や今後の業界発展を考えたときに必要とされる資質、要件などについての知見を得たうえで、現在及び将来の専門学校教育に取り組んでいくことも重要である。こうしたことを踏まえ、本校では、関連企業、業界団体、学識経験者等からの要請、提言を聴取し、該当学科、ひいては学校全体の教育運営に資することを方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

上記の方針により設置される教育課程編成委員会は学科の諮問、支援会議体として校長の委嘱を受けた委員により、該当学科の授業科目の設定、授業内容の改善、授業手法の開発・改善など全般的な助言を行う。提出された助言については、校長、教務チームにおいて協議のうえ学科長に指示し、実行や改善に着手する。また、教育課程編成委員会からの助言とその助言に基づく学校としての改善実行計画については、別の委員会である学校関係者評価委員会で特に言及し評価を受けるものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年9月13日現在

名前	所属	任期	種別
室岡 雅幸	株式会社森ビルホスピタリティコーポレーション 人事部 部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
今 竜太郎	LEGOLAND Japan 合同会社 ホテル ヘッド	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
大堀 貴弘	株式会社ネクスト・ホスピタリティ研究所 代表	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
春山 新悟	株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド 総支配人	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
木村 俊介	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
野口 真理子	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 教務チームチーフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
川原 純	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 学生チームチーフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(3年)	—
田村 学	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 国際ホテル学科長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(4年)	—
高橋 梓	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 常勤講師	令和5年4月1日～令和7年3月31日(5年)	—
前畑 勝秀	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 キャリアセンターチーフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(2月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年8月23日 16:00～17:30

第2回 令和6年2月21日 16:00～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

人が欲しいのではなく人材が欲しいという企業の方からのご意見をいただき、知識やスキルのみならず、広い視野を持ち臨機応変に対応できる人材育成に注力していく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業との連携による実習・演習等の科目においては、各分野で活躍されている講師を招き、ゼミ科目で企業の求める業務水準を現実的に体感させることを目的に設定する。疑似体験的な講義・演習を通じて、各分野の現場で日常使われている技術・知識を習得させる。評価については企業の現実の評価基準を確認しながら、常勤講師と相談のうえを実施していただく。社会人への準備として必要なキャリアデザイン、資格検定についても実績の高い企業と連携をし、有能な人材を社会に送り出す。また、こうした講義・演習全体を通じて、社会人基礎力を涵養していくことも合わせて目的に設定する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ゼミ科目については、高度な知識と技術が必要な為、業界ニーズを把握し、各分野で活躍されている企業の講師が担当する。各専攻の最終仕上げの授業と位置づけ、正確かつ最新の業界情報を講義に入れ込む。演習時には、修正・訂正が必要な箇所の指摘、評価を行っていただく。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
社会人基礎力&プレゼン表現Ⅰ・Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	経済産業省から提案された社会人として活躍するための重要な能力のひとつである「社会人基礎力」を理解し、社会人として必要な基本スキルを自主的に身につけさせる。	有限会社畠山企画
ホスピタリティマインドⅠ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	実際のあるいは架空の企業が抱える問題・課題に対して、グループで解決策を考えて提案する。企画案作成・イベント等企画実施までを産学連携にて実施する。	一般社団法人クールスタイルジャパ
ホスピタリティマインドⅡ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	実際のあるいは架空の企業が抱える問題・課題に対して、グループで解決策を考えて提案する。企画案作成・イベント等企画実施までを産学連携にて実施する。	一般社団法人クールスタイルジャパ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門学校教員として、自己の専門分野における最先端の知識・技術の習得のために、業務上一定の時間を費やすことを学校として求めている。研修等の諸規定に定められている通り、年度の当初にチーフと学科長、各教員で実施する研修についての年間計画を立案し1名あたり2～3回の研修を義務づけている。教員はそれらの研修を通じて各々が専門分野の知識向上に務めている。また、専門知識のみではなく、授業に関わる技術など教育力向上のための機会についても法人全体の課題として取り組んでいく。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「コーチング研修～部下の主体性を引き出すスキルを習得する」	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和5年7月11日(火)10:00～16:00	対象:	教職員
内容:	ロールプレイングでやる気を引き出すコーチングのスキルを習得		
研修名:	カスタマーバリュー向上研修～顧客視点からマーケティングを強化する	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和6年2月22日(土)	対象:	教職員
内容:	顧客の視点から見た商品やサービスの価値(カスタマーバリュー)の重要性について理解する		
研修名:	TOEICセミナー	連携企業等:	一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
期間:	令和5年9月13日(水)14:00～16:30	対象:	教職員
内容:	今、実社会で求められる英語力とは?～多様化する英語ニーズと自分の英語力を知る意義～		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	第1回FD研修	連携企業等:	株式会社AL&AL研究所
期間:	令和5年8月29日(火)9:30～15:00	対象:	新人常勤講師
内容:	アクティブラーニング形式の授業スキル向上		
研修名:	『7つの習慣セルフコーチング for College』	連携企業等:	株式会社FCEエデュケーション
期間:	令和5年1月17日(火)9:45～12:55	対象:	教職員
内容:	「自分で自分を成長させる自己対話スキル」を身につけられるようになるプログラム体験		
研修名:	第2回FD研修	連携企業等:	株式会社ハーモニークリエイション
期間:	令和5年3月6日(月)14:00～16:00	対象:	教職員
内容:	「アカハラを主としたハラスメント防止・対策」		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	JTBリスクマネジメントセミナー2024 ～事例から学ぶ大学の海外危機管理～	連携企業等:	株式会社JTB
期間:	令和6年9月11日(水)15:00～	対象:	教職員
内容:	ロールプレイングでやる気を引き出すコーチングのスキルを習得		
研修名:	対人関係構築研修	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和6年8月26日(火)10:00～16:00	対象:	教職員
内容:	顧客の視点から見た商品やサービスの価値(カスタマーバリュー)の重要性について理解する		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 第1回FD研修	連携企業等: 専門学校事業企画部
期間: 令和6年8月27日(火)10:30~15:30	対象: 新人常勤講師
内容: 対話的で深い学びの実現~専門学校AL形式中心の授業スキル向上の習得	
研修名: 対人関係構築研修	連携企業等: 株式会社インソース
期間: 令和6年8月26日(火)10:00~16:00	対象: 教職員
内容: 円滑なコミュニケーションの為のスキルを習得する	
研修名: 第2回FD研修	連携企業等: 一般社団法人日本著作権教育研究会
期間: 令和7年2月27日(木)10:00~12:00	対象: 教職員
内容: 教育における著作権に関して	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校の教育目標、計画に沿った取り組みの達成状況、学校運営等の取り組みが適切に行われたかについて自己評価を行う。自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、校長直属の委員会として学校関係者評価委員会を設置し、「学校自己点検・評価報告書」および「授業科目等の概要」を中心に学校に対する外部評価を実施・公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・教育目的、教育目標、教育目標の周知、独自性の高い教育内容・手法、教育手法に対する各方面からの評価
(2)学校運営	運営方針・事業計画、学校組織と意思決定の概要、組織の活性化、業務の効率化
(3)教育活動	各学科の概要と学修目標、教育目標とカリキュラム、カリキュラム編成体制、各学科のカリキュラム編成、カリキュラムや教育方法の工夫・開発、企業・団体等との連携、インターンシップ、専門教育における実習、キャリア教育、授業評価、成績評価・単位認定の考え方、資格取得、現在の講師陣の状況、講師の採用基準、講師の専門性把握および教育スキルの向上
(4)学修成果	就職について、資格取得の目標と取得状況について
(5)学生支援	就職指導の全体方針、就職指導体制・就職活動支援、学生相談室、担任制、奨学金制度・学費分納、学生の健康管理、クラブ活動、卒業生支援
(6)教育環境	学校施設・設備の整備状況、インターンシップ、海外研修、防火・防災体制、保健衛生管理
(7)学生の受入れ募集	学生募集の考え方、入学選考
(8)財務	予算、監査・財務情報公開
(9)法令等の遵守	法令順守の方針、個人情報保護の方針、学校自己点検・自己評価、学校関係者評価
(10)社会貢献・地域貢献	企業・団体・地域との連携・交流
(11)国際交流	留学生の受け入れ

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

スマホは使えるがPCの使い方をあまり知らない学生についてどのように学校は対応しているかとの問題定義があり、入学後の集中授業や課題提出などをPCで行なわせるなど、日常的にPCを使わせるように取り組んでいる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
小田 康典	イッティージャパン株式会社 指導本部 課長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	企業
山澤 隆士	イッティージャパン株式会社 課長代理	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業
鶴田 修一	愛知中小企業家同友会 株式会社鶴田工業所代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業
坂本 喜樹	瑞穂通商店街振興組合 坂本時計店店長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域
上福元 諭	ソニー生命保険株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
谷澤 文彦	県立城北つばさ高等学校 教諭	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校教員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/>

公表時期: 2024年8月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

全体として少しずつ公開項目を増やしていく。広報的作成物だけではなく、自己点検などの機会を利用して正確な情報を整理し、順次公開を進めていく。また、学生配付物についても、より多様な情報提供をリアルタイムで提供できるように取り組みを進めている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・教育目的、教育目標、学校運営の方針、特色、校長名、所在地・連絡先、学校の沿革、防災、保健衛生
(2)各学科等の教育	各学科のカリキュラム編成方法、年間の授業計画、進級・卒業の要件、資格取得・検定試験合格等の実績、卒業後の進路
(3)教職員	教職員組織図
(4)キャリア教育・実践的職業教育	実習の意義、キャリア教育、就職指導の全体方針、就職指導体制、就職指導管理・就職実績、具体的就職指導
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動
(6)学生の生活支援	学生生活相談
(7)学生納付金・修学支援	学費、学費援助制度
(8)学校の財務	河合塾学園事業報告
(9)学校評価	自己点検・自己評価報告書
(10)国際連携の状況	なし
(11)その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/>

公表時期: 2024年8月31日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 グローバル学科 (ホテル系テーマパークホテル専攻))																
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
必修	選択必修	自由選択														
1	○		ベーシックプログラム	入学後、専門科目の履修に先駆けて常識やマナーを学び、社会人としての土台をつくる。また、入学時に在学中の達成目標と将来への志望を明確にし、学習の全容を見える化して担任と相互に理解し、納得して学習に入る道を作る。	1前	30	1	○			○		○			
2	○		社会人基礎力&プレゼン表現Ⅰ・Ⅱ	自己管理、時間管理、自立、チームワーク、工程管理、コミュニケーション力、柔軟性、創造性、論理的思考力、批判的思考力など、さまざまな状況のもとで適応できるスキル、社会人に必要でかつ専門的履修に欠かせない基本知識を習得する。ビジネスに関する基礎的な知識の理解、社会の一員としての心構えや考え方、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力や目指す業界についての基礎的な知識を身につける。	1通	60	2			○	○			○	○	
3	○		業界研究Ⅰ・Ⅱ	業界での第一線で働いている方だけでなく、身近な先輩などの講演を多数実施し、仕事の幅を広げ、各自の仕事のイメージを掴みやすくする。また、学校を出てインターンシップやボランティアなど外部との接触を嫌がらず、自主的に行動できる情報を知る。	1通	60	2	○			○		○			
4	○		就職研究Ⅰ・Ⅱ	目指す職業に就くためには、就職活動を避けて通ることはできない。就職活動を順調にスタートさせ、自信をもって就職試験に臨むことができるようになることを狙いとする。	1通	60	2	○			○		○	○		
5	○		キャリアサポート	自らの目標達成に向けたプランニングの確認や修正作業を、面談を中心に進め、自主的に自分の描くゴールを目指す。	3後	30	1	○			○		○			
6	○		就職試験対策Ⅰ	就職試験における筆記試験は面接試験の前段階として行われることが多い。この筆記試験をクリアできるよう、前期は主に国語、社会を中心とした一般常識、SPI試験対策を学ぶ。	1・前期	30	1	○			○			○		
7	○		就職試験対策Ⅱ	就職試験における筆記試験は面接試験の前段階として行われることが多い。この筆記試験をクリアできるよう、前期は主に国語、社会を中心とした一般常識、SPI試験対策を学ぶ。	1・後期	30	1	○			○			○		
8	○		ホスピタリティマインドⅠ	サービスエンターテイナーのための自己理解・自己管理を通して、対人サービス業務に従事する人材に求められる基本的なパーソナリティとその表現方法を習得し、自己イメージ・印象管理を行う。	1・前期	30	1	○		△	○			○	○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (ホテル系テーマパークホテル専攻))																
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
9	○			ホスピタリティマインドⅡ	サービスエンターテイナーのための自己理解・自己管理を通して、対人サービス業務に従事する人材に求められる基本的なパーソナリティとその表現方法を習得し、自己イメージ・印象管理を行う。	1・後期	30	1	○		△	○			○	○
10	○			サービス接客検定対策Ⅰ	資格の取得により、知識・技術を習得していることを客観的に証明する。あらゆる業界において必要となるサービス接客実務について十分な理解と高度な知識、専門的な技能を身につける。出題傾向や過去問題の分析を行い、出題意図を把握できる効果的な対策授業を進め、1年次に準1級以上の取得を目指す。	1・前期	30	1		○		○			○	
11	○			ホテルビジネス実務検定対策	ホテルビジネス実務検定ベーシック2級の資格取得を目的とする。	1・後期	30	1		○		○			○	
12	○			和食検定対策	2013年に和食が無形文化遺産に登録され、現在世界的に和食が注目されている。和食の初歩的な知識を学ぶことで和の食文化への興味関心を高め、国際交流に役立てる。	3・前期	30	1	○			○		○		
13	○			サービス接客1級対策	サービス接客の際の言葉遣い、適切な対応の仕方、その他サービス接客に関する専門知識はサービス業に従事するために必要不可欠である。サービス従事者としての資質、一般知識、専門知識、対人技能、実務技能を身につけ、検定2級以上の取得を目指す。	3・後期	30	1			○	○			○	
14	○			レストランサービス技能検定対策	レストランサービス技能検定・学科試験問題の解説及び解答方法 過去問題を中心に模擬試験を行い、学科試験問題の内容の理解を深める。	3・前期	60	2		○		○		○		
15	○			レストランサービス	レストランスタッフの役割と組織を理解する。サービスの心得をを机上と実技をもってレストランサービスの基本を習得する。	1・前期	60	2			○	○		○		
16	○			料飲基礎知識	ホテルの料飲部門で提供される料理、飲料に関する基本知識を習得する。料理は西洋料理(フランス)を中心に学び、日本、中国、イタリア料理と他世界の料理の特徴などの概要を押さえる。飲料はアルコール飲料全般について学ぶとともにサービスの基本技能も習得する。	1・前期	60	2	○		△	○		○		
17	○			宿泊サービス実務Ⅰ	ホテルの宿泊部門の概要及びハウスキーピング業務とフロントサービス業務(ドアスタッフ、ベルスタッフ、クローク、コンシェルジュ)に関する実務知識とサービス技能を習得し、宿泊接客サービスの基本動作を身につける。	1・前期	30	1	○		△	○			○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (ホテル系テーマパークホテル専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
18	○			宿泊サービス実務Ⅱ	ホテルの宿泊部門の概要及びハウスキーピング業務とフロントサービス業務（ドアスタッフ、ベルスタッフ、クローク、コンシェルジュ）に関する実務知識とサービス技能を習得し、宿泊接客サービスの基本動作を身につける。	2・後期	30	1	○		△	○		○	
19	○			マーケティング基礎	マーケティングとは何か？新商品や新サービスを作り出す仕組みを一般企業とホテル・サービス業と比較してマーケティングの基礎が理解できるようにする。また、ホテルやブライダルスタッフとして押さえておくべきマーケティングの用語や意味を理解する。	1・後期	30	1	○			○			○
20	○			ワイン&カクテル基礎	ワインとカクテルの基礎知識、サービス実技を座学と実務を中心に習得する。実習室で実際にホテルで扱う備品を利用して備品に触れながら学ぶ。またその用途を理解し、使えるようになるまでにする。アルコールについての基礎を学びお酒のマナーが実用レベルで使えるようにする。	3・前期	30	1			○	○			○
21	○			バンケット実務	ホテルでの婚礼・宴会の概要及びホテル宴会業務に関する実務知識とサービス技能を、実際に宴を企画して発表出来るレベルまでに向上させる。	3・前期	60	2			○	○			○
22	○			サービス心理学Ⅰ	ホテル・ブライダル業界では常にお客様の気持ちを汲み取ることで、先を読んだサービス、満足度の高い商品の提案、心に寄り添ったおもてなしを提供することができる。この科目ではお客様の心理状態を考察し、最良の状況判断をするための基本的な知識を習得する。	3・前期	30	1	○			○			○
23	○			サービス心理学Ⅱ	ホテル・ブライダル業界では常にお客様の気持ちを汲み取ることで、先を読んだサービス、満足度の高い商品の提案、心に寄り添ったおもてなしを提供することができる。この科目ではお客様の心理状態を考察し、最良の状況判断をするための基本的な知識を習得する。	3・後期	30	1	○			○			○
24	○			料飲応用知識	料飲業務に携わる者として、食品を扱うことは人の命や健康に関わる業務であると認識し、食品衛生・アレルギー・栄養学などの基本知識を習得する。また、レストランの重要要素であるメニューの基本構成や形式などを、日本の「和食」をはじめ世界の食文化とともに学び、多面的な視点と深い洞察力を養う。	3・前期	60	2	○			○			○

(文化教養専門課程 グローバル学科 (ホテル系テーマパークホテル専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
25	○		公衆・食品衛生	食品などを扱うホテルやサービス業会は感染症や食中毒は致命的になる。このような災害を避けるためには、公衆衛生や食品衛生を理解、把握し、お客様にご迷惑をかけるようにすることが、大事である。食品をはじめとするあらゆるものの衛生面に則ってホテル・サービス業を考える。	3・後期	30	1	○			○		○		
26	○		ホテル・ブライダルマネジメント	ホテル業界やブライダル業界で求められるマネジメントの考え方や知識について学ぶ。	3・後期	30	1	○			○		○		
27	○		マナープロトコール	日本人として社会人として必須のマナーやプロトコール(国際儀礼)に関わる知識を学び、国際的なマナーやルールに基づいて的確な対応ができる力を養う。	3・後期	30	1	○			○		○		
28	○		卒業発表	2年ないし3年間の学科習得の成果を、ホテルにおける様々な形式を用いて発表する。内容は別途発表する。	3・後期	60	2			○	○		○		
29	○		接客英語Ⅰ	日常生活において英語でコミュニケーションできる能力を習得する。さらに、サービス業に従事する者が、接客の場で状況に応じた表現を正しく使える能力へと発展させ、「話す能力」の育成を中心においた授業を行う。	1・前期	30	1	○			○		○		
30	○		接客英語Ⅱ	日常生活において英語でコミュニケーションできる能力を習得する。さらに、サービス業に従事する者が、接客の場で状況に応じた表現を正しく使える能力へと発展させ、「話す能力」の育成を中心においた授業を行う。	1・後期	30	1	○			○		○		
31	○		接客英語Ⅲ	日常生活において英語でコミュニケーションできる能力を習得する。さらに、サービス業に従事する者が、接客の場で状況に応じた表現を正しく使える能力へと発展させ、「話す能力」の育成を中心においた授業を行う。	3・前期	30	1	○			○		○		
32	○		接客英語Ⅳ	日常生活において英語でコミュニケーションできる能力を習得する。さらに、サービス業に従事する者が、接客の場で状況に応じた表現を正しく使える能力へと発展させ、「話す能力」の育成を中心においた授業を行う。	3・後期	30	1	○			○		○		
33	○		TOEIC対策Ⅰ	訪日旅行者の増加により、ホテルでお客様とコミュニケーションを図るには語学力も必須である。本講座では英語の語彙や表現を学び、英語力の基準となるTOEICのスコアアップを目指す。	1・前期	30	1	○			○		○		
34	○		TOEIC対策Ⅱ	訪日旅行者の増加により、ホテルでお客様とコミュニケーションを図るには語学力も必須である。本講座では英語の語彙や表現を学び、英語力の基準となるTOEICのスコアアップを目指す。	1・後期	30	1	○			○		○		

(文化教養専門課程 グローバル学科 (ホテル系テーマパークホテル専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
35	○		TOEIC対策Ⅲ	訪日旅行者の増加により、ホテルでお客様とコミュニケーションを図るには語学力も必須である。本講座では英語の語彙や表現を学び、英語力の基準となるTOEICのスコアアップを目指す。	3・前期	30	1	○			○		○		
36	○		TOEIC対策Ⅳ	訪日旅行者の増加により、ホテルでお客様とコミュニケーションを図るには語学力も必須である。本講座では英語の語彙や表現を学び、英語力の基準となるTOEICのスコアアップを目指す。	3・後期	30	1	○			○		○		
37	○		イングリッシュコミュニケーションⅠ	海外のホテルや外資系ホテルではお客様はもちろん、会社組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的、効果的コミュニケーション能力を身につけ、より自己表現や人に伝える力を高めていく。	1・前期	30	1	○			○		○		
38	○		イングリッシュコミュニケーションⅡ	海外のホテルや外資系ホテルではお客様はもちろん、会社組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的、効果的コミュニケーション能力を身につけ、より自己表現や人に伝える力を高めていく。	3・後期	30	1	○			○		○		
39	○		イングリッシュコミュニケーションⅢ	海外のホテルや外資系ホテルではお客様はもちろん、会社組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的、効果的コミュニケーション能力を身につけ、より自己表現や人に伝える力を高めていく。	3・前期	30	1	○			○		○		
40	○		イングリッシュコミュニケーションⅣ	海外のホテルや外資系ホテルではお客様はもちろん、会社組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的、効果的コミュニケーション能力を身につけ、より自己表現や人に伝える力を高めていく。	3・後期	30	1	○			○		○		
41	○		中国語Ⅰ	近年ますます増える外国人旅行者に対し、特に需要が大きい「中国語」について、接客業務に必要な基礎的な語学およびその国の文化等を学習する。	3・前期	30	1	○			○		○		
42	○		中国語Ⅱ	近年ますます増える外国人旅行者に対し、特に需要が大きい「中国語」について、接客業務に必要な基礎的な語学およびその国の文化等を学習する。	3・後期	30	1	○			○		○		
43	○		コンピュータスキルⅠ	日常業務に活かせるコンピュータスキルの習得する。資料、テーマを正確に理解しWord、Excel、PowerPointの技術を習得する。	1・前期	30	1	○			○		○		

(文化教養専門課程 グローバル学科 (ホテル系テーマパークホテル専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
44	○			コンピュータスキルⅡ	日常業務に活かせるコンピュータスキルの習得する。資料、テーマを正確に理解しWord、Excel、PowerPointの技術を習得する。	1・後期	30	1	○			○		○	
45	○			コンピュータスキルⅢ	日常業務に活かせるコンピュータスキルの習得する。資料、テーマを正確に理解しWord、Excel、PowerPointの技術を習得する。	3・前期	30	1	○			○		○	
46	○			ホテル・旅館概論	ホテル・旅館の基礎を、わかりやすく解説を通して習得する。特に、ホテルの各部門についての概要を理解することを目指す。	1・前期	30	1	○			○		○	
47	○			テーマパーク研究Ⅰ	日本及び世界のテーマパークの歴史やホテルの現状を学ぶ。それぞれのテーマパークホテルの理念や業務、ゲストサービスを研究しテーマパークホテルの在り方を学ぶ。	1・前期	30	1	○			○		○	
48	○			テーマパーク研究Ⅱ	日本及び世界のテーマパークの歴史やホテルの現状を学ぶ。それぞれのテーマパークホテルの理念や業務、ゲストサービスを研究しテーマパークホテルの在り方を学ぶ。	1・後期	30	1	○			○		○	
49	○			テーマパークホテル研修	国内テーマパークホテルにおいて夏から秋にかけて焼く3か月間のインターンシップに参加する。現場経験を積むことで即戦力となる力を養うとともに今後の目指す目標を明確にしていく。	1・後期	360	12			○	○		○	
50	○			一般教養	3ヶ月のテーマパークホテル研修後に、社会人基礎力&プレゼン表現、業界研究、就職研究を集中的に学ぶ。	1・後期	30	1	○			○		○	
51	○			テーマパーク&テーマパークホテルⅠ	1年次に学んだテーマパークホテル研究を元に、国内外のテーマパークホテルの実態や特徴をさらに研究していく。	3・前期	30	1	○			○		○	
52	○			テーマパーク&テーマパークホテルⅡ	1年次に学んだテーマパークホテル研究を元に、国内外のテーマパークホテルの実態や特徴をさらに研究していく。	3・後期	30	1	○			○		○	
53		○		各種検定対策講座	就職に役立つ検定・資格を在学中に可能な限り取得していくために、「秘書検定」、「ワープロ検定」、「英検」などの主要な検定の対策授業。学科、専攻、コースの枠にとらわれず、各々の知識・教養を高める講座を選択し受講する。講座内容は別途発表する。	1後・2前	所定時間	所定単位数	△	○		○		○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (ホテル系テーマパークホテル専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
54	○			留学準備講座-英会話リスニング	留学先での講義や日常生活で必要とされる英語リスニングスキルを強化する。	2・前期	30	1	○			○		○	
55	○			留学準備講座-日本文化	異文化環境での生活をスムーズに過ごすために留学先の文化や習慣を理解し、日本文化を身につける。	2・前期	30	1	○			○		○	
56	○			留学準備講座-実用英語	留学先での講義や日常生活を円滑に必要とされる実用英語スキルを強化する。	2・前期	30	1	○			○		○	
57	○			国際コミュニケーション留学	9か月間の語学留学	2・後期	690	23	○			○		○	
58	○			留学帰国後講座-英会話リスニング	ネイティブ・スピーカーによる講座。留学中に実践し習得した日常的な英会話スキルをさらに強化する。	2・後期	30	1	○			○		○	
59	○			留学帰国後講座-TOEIC対策	帰国後に受験するTOEIC対策としてさらにスキルを強化する。	2・後期	30	1	○			○		○	
60	○			留学帰国後講座-キャリアセミナー	留学中に得た留学経験をどのように活かし、帰国後始まる就職活動をスムーズに進められるよう準備をする。	2・後期	30	1	○			○		○	
61			○	語学研修	国際的な視野を養い、英語力を実践的に伸ばす、または専門知識を深めるために海外語学研修を実施している。研修の詳細は説明会で発表する。夏期休暇、春期休暇に実施を計画し、期間に応じて所定の単位を認定する。	1前・3前	30	1				○		○	
62			○	中期語学留学	長期休暇を利用して、中期(8~10週間)の語学留学プログラムを実施している。希望者から事務局が認定した学生を派遣する。詳細は説明会で発表する。プログラムに参加し、成績認定された学生に所定の単位が与えられる。	1前・3前	所定時間	所定単位				○		○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (ホテル系テーマパークホテル専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
63			○ 自己啓発講座	学生の自己啓発を目的に講座を開講する。講座内容は別途発表する。	1前・3前	所定時間	所定単位	○			○		○		
64			○ 企業研修	研修生としてビジネスの現場を経験し、各分野の専門能力を身につけるとともに、社会人としての素地を養う。企業研修を通して実務を体得し、組織の一員として仕事をする意義を学ぶ。所定の時間を満たした実習参加に対して所定の単位が認定される。	1前・3前	30	1			○		○		○	
合計					64	科目	2820 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 1年次34単位、2年次27単位、3年時27単位以上取得して、進級もしくは、卒業判定会議で承認されること。		1学年の学期区分	2
履修方法： 必修（専攻別）は、全ての科目を必修する。 選択必修科目は選択した科目を履修し単位認定とする。 自由選択科目は、進級・卒業必要単位数には加算されない。		1学期の授業期間	15

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校		1976年4月1日		木村 俊介		〒 450-0002 (住所) 名古屋市中村区名駅4-1-11 (電話) 052-582-1770				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人河合塾学園		1978年8月1日		河合 英樹		〒 464-8610 (住所) 名古屋市中村区今池2-1-10 (電話) 052-735-1613				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度				
文化・教養	文化教養専門課程	グローバル学科(ホテルウェディング専攻)		令和3(2021)年度	-	-				
学科の目的	【ホテル系専攻】ホテル・観光産業で求められる英語を実務・実用レベルまで習得させ、必要とされるビジネス能力、対人サービス能力も踏まえ、国際社会に貢献できるホスピタリティマインドに優れた人材育成を目的とする。									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	1年次終了後に海外留学し、毎日の生活の中で語学鍛錬に加えその地域の文化に直接に触れることにより、国際的理解を深めることを目標としている。 職場体験や企業のインターンシップ参加の機会を創出している。 取得可能検定:実用英語技能検定準1級、2級、準2級 観光英語検定2級 秘書技能検定2級 サービス接客技能検定、レストランサービス技能検定、ホテルビジネス実務検定、和食検定 中退率:0%									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技		
3	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 2,820 単位時間		930 単位時間	720 単位時間	1,170 単位時間	0 単位時間	0 単位時間		
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の人数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率					
60人の内数	1 人	0 人		0 %	0 %					
就職等の状況	■卒業者数(C)		:		0		人			
	■就職希望者数(D)		:		0		人			
	■就職者数(E)		:		0		人			
	■地元就職者数(F)		:		0		人			
	■就職率(E/D)		:		0		%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		:		0		%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		:		0		%			
	■進学者数		:		0		人			
	■その他		:							
	■進学者数		:		0		人			
■その他		:								
ホテル系専攻とは国際ホテル専攻/海外ホテル専攻/テーマパーク・ホテル専攻/ホテルウェディング専攻を指す。 (令和6年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生)										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL <a href="https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/">https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/</a>									
当該学科のホームページURL	<a href="https://gaikokugo.trident.ac.jp/department/dept-global/">https://gaikokugo.trident.ac.jp/department/dept-global/</a>									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)									
	総授業時数		2,820 単位時間							
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		60 単位時間							
	うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間							
	うち必修授業時数		120 単位時間							
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		60 単位時間							
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間							
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間							
	(B: 単位数による算定)									
	総単位数		0 単位							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位								
うち企業等と連携した演習の単位数		単位								
うち必修単位数		単位								
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位								
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位								
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位								
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		2 人							
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		6 人							
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人							
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人							
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		1 人							
	計		9 人							
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2 人								

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生への教授については英米語の現場での最新の仕事のすすめ方なども熟知したうえで実施していくことは学校の必須事項である。また同時に、業界が求める人材内容や今後の業界発展を考えたときに必要とされる資質、要件などについての知見を得たうえで、現在及び将来の専門学校教育に取り組んでいくことも重要である。こうしたことを踏まえ、本校では、関連企業、業界団体、学識経験者等からの要請、提言を聴取し、該当学科、ひいては学校全体の教育運営に資することを方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

上記の方針により設置される教育課程編成委員会は学科の諮問、支援会議体として校長の委嘱を受けた委員により、該当学科の授業科目の設定、授業内容の改善、授業手法の開発・改善など全般的な助言を行う。提出された助言については、校長、教務チームにおいて協議のうえ学科長に指示し、実行や改善に着手する。また、教育課程編成委員会からの助言とその助言に基づく学校としての改善実行計画については、別の委員会である学校関係者評価委員会で特に言及し評価を受けるものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年9月13日現在

名前	所属	任期	種別
室岡 雅幸	株式会社森ビルホスピタリティコーポレーション 人事部 部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
今 竜太郎	LEGOLAND Japan 合同会社 ホテル ヘッド	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
大堀 貴弘	株式会社ネクスト・ホスピタリティー研究所 代表	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
春山 新悟	株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド 総支配人	令和5年4月1日～令和7年3月31日(3年)	③
木村 俊介	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
野口 真理子	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 教務チームチーフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
川原 純	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 学生チームチーフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
田村 学	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 国際ホテル学科長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
高橋 梓	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 常勤講師	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
林 諒弥	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 常勤講師	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
前畑 勝秀	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 キャリアセンターチーフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(2月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年8月23日 16:00～17:30

第2回 令和6年2月21日 16:00～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

人が欲しいのではなく人材が欲しいという企業の方からのご意見をいただき、知識やスキルのみならず、広い視野を持ち臨機応変に対応できる人材育成に注力していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業との連携による実習・演習等の科目においては、各分野で活躍されている講師を招き、ゼミ科目で企業の求める業務水準を現実的に体感させることを目的に設定する。疑似体験的な講義・演習を通じて、各分野の現場で日常使われている技術・知識を習得させる。評価については企業の現実の評価基準を確認しながら、常勤講師と相談のうえを実施していただく。社会人への準備として必要なキャリアデザイン、資格検定についても実績の高い企業と連携をし、有能な人材を社会に送り出す。また、こうした講義・演習全体を通じて、社会人基礎力を涵養していくことも合わせて目的に設定する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ゼミ科目については、高度な知識と技術が必要な為、業界ニーズを把握し、各分野で活躍されている企業の講師が担当する。各専攻の最終仕上げの授業と位置づけ、正確かつ最新の業界情報を講義に入れ込む。演習時には、修正・訂正が必要な箇所の指摘、評価を行っていただく。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
社会人基礎力&プレゼン表現Ⅰ・Ⅱ	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	経済産業省から提案された社会人として活躍するための重要な能力のひとつである「社会人基礎力」を理解し、社会人として必要な基本スキルを自主的に身につけさせる。	有限会社畠山企画
ホスピタリティマインドⅠ	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	実際のあるいは架空の企業が抱える問題・課題に対して、グループで解決策を考えて提案する。企画案作成・イベント等企画実施までを産学連携にて実施する。	一般社団法人クールスタイルジャパン
ホスピタリティマインドⅡ	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	実際のあるいは架空の企業が抱える問題・課題に対して、グループで解決策を考えて提案する。企画案作成・イベント等企画実施までを産学連携にて実施する。	一般社団法人クールスタイルジャパン

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門学校教員として、自己の専門分野における最先端の知識・技術の習得のために、業務上一定の時間を費やすことを学校として求めている。研修等の諸規定に定められている通り、年度の当初にチーフと学科長、各教員で実施する研修についての年間計画を立案し1名あたり2～3回の研修を義務づけている。教員はそれらの研修を通じて各々が専門分野の知識向上に務めている。また、専門知識のみではなく、授業に関わる技術など教育力向上のための機会についても法人全体の課題として取り組んでいく。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「コーチング研修～部下の主体性を引き出すスキルを習得する」	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和5年7月11日(火)10:00～16:00	対象:	教職員
内容	ロールプレイングでやる気を引き出すコーチングのスキルを習得		
研修名:	カスタマーバリュー向上研修～顧客視点からマーケティングを強化する	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和6年2月22日(土)	対象:	教職員
内容	顧客の視点から見た商品やサービスの価値(カスタマーバリュー)の重要性について理解する		
研修名:	TOEICセミナー	連携企業等:	一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
期間:	令和5年9月13日(水)14:00～16:30	対象:	教職員
内容	今、実社会で求められる英語力とは?～多様化する英語ニーズと自分の英語力を知る意義～		

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	第1回FD研修	連携企業等:	株式会社AL&AL研究所
期間:	令和5年8月29日(火)9:30～15:00	対象:	新人常勤講師
内容	アクティブラーニング形式の授業スキル向上		
研修名:	『7つの習慣セルフコーチング for College』	連携企業等:	株式会社FCEエデュケーション
期間:	令和5年1月17日(火)9:45～12:55	対象:	教職員
内容	「自分で自分を成長させる自己対話スキル」を身につけられるようになるプログラム体験		
研修名:	第2回FD研修	連携企業等:	株式会社ハーモニークリエイション
期間:	令和5年3月6日(月)14:00～16:00	対象:	教職員
内容	「アカハラを主としたハラスメント防止・対策」		

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	JTBリスクマネジメントセミナー2024 ～事例から学ぶ大学の海外危機管理～	連携企業等:	株式会社JTB
期間:	令和6年9月11日(水)15:00～	対象:	教職員
内容	ロールプレイングでやる気を引き出すコーチングのスキルを習得		
研修名:	対人関係構築研修	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和6年8月26日(火)10:00～16:00	対象:	教職員
内容	顧客の視点から見た商品やサービスの価値(カスタマーバリュー)の重要性について理解する		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 第1回FD研修	連携企業等: 専門学校事業企画部
期間: 令和6年8月27日(火)10:30~15:30	対象: 新人常勤講師
内容: 対話的で深い学びの実現~専門学校AL形式中心の授業スキル向上の習得	
研修名: 対人関係構築研修	連携企業等: 株式会社インソース
期間: 令和6年8月26日(火)10:00~16:00	対象: 教職員
内容: 円滑なコミュニケーションの為のスキルを習得する	
研修名: 第2回FD研修	連携企業等: 一般社団法人日本著作権教育研究会
期間: 令和7年2月27日(木)10:00~12:00	対象: 教職員
内容: 教育における著作権に関して	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校の教育目標、計画に沿った取り組みの達成状況、学校運営等の取り組みが適切に行われたかについて自己評価を行う。自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、校長直属の委員会として学校関係者評価委員会を設置し、「学校自己点検・評価報告書」および「授業科目等の概要」を中心に学校に対する外部評価を実施・公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・教育目的、教育目標、教育目標の周知、独自性の高い教育内容・手法、教育手法に対する各方面からの評価
(2) 学校運営	運営方針・事業計画、学校組織と意思決定の概要、組織の活性化、業務の効率化
(3) 教育活動	各学科の概要と学修目標、教育目標とカリキュラム、カリキュラム編成体制、各学科のカリキュラム編成、カリキュラムや教育方法の工夫・開発、企業・団体等との連携、インターンシップ、専門教育における実習、キャリア教育、授業評価、成績評価・単位認定の考え方、資格取得、現在の講師陣の状況、講師の採用基準、講師の専門性把握および教育スキルの向上
(4) 学修成果	就職について、資格取得の目標と取得状況について
(5) 学生支援	就職指導の全体方針、就職指導体制・就職活動支援、学生相談室、担任制、奨学金制度・学費分納、学生の健康管理、クラブ活動、卒業生支援
(6) 教育環境	学校施設・設備の整備状況、インターンシップ、海外研修、防火・防災体制、保健衛生管理
(7) 学生の受入れ募集	学生募集の考え方、入学選考
(8) 財務	予算、監査・財務情報公開
(9) 法令等の遵守	法令順守の方針、個人情報保護の方針、学校自己点検・自己評価、学校関係者評価
(10) 社会貢献・地域貢献	企業・団体・地域との連携・交流
(11) 国際交流	留学生の受け入れ

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

スマホは使えるがPCの使い方をあまり知らない学生についてどのように学校は対応しているかとの問題定義があり、入学後の集中授業や課題提出などをPCで行なわせるなど、日常的にPCを使わせるように取り組んでいる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
小田 康典	イッティージャパン株式会社 指導本部 課長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	企業
山澤 隆士	イッティージャパン株式会社 課長代理	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業
鶴田 修一	愛知中小企業家同友会 株式会社鶴田工業所代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業
坂本 喜樹	瑞穂通商店街振興組合 坂本時計店店長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域
上福元 諭	ソニー生命保険株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
谷澤 文彦	県立城北つばさ高等学校 教諭	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校教員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/>

公表時期: 2024年8月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

全体として少しずつ公開項目を増やしていく。広報的作成物だけではなく、自己点検などの機会を利用して正確な情報を整理し、順次公開を進めていく。また、学生配付物についても、より多様な情報提供をリアルタイムで提供できるように取り組みを進めている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念・教育目的、教育目標、学校運営の方針、特色、校長名、所在地・連絡先、学校の沿革、防災、保健衛生
(2) 各学科等の教育	各学科のカリキュラム編成方法、年間の授業計画、進級・卒業の要件、資格取得・検定試験合格等の実績、卒業後の進路
(3) 教職員	教職員組織図
(4) キャリア教育・実践的職業教育	実習の意義、キャリア教育、就職指導の全体方針、就職指導体制、就職指導管理・就職実績、具体的就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動
(6) 学生の生活支援	学生生活相談
(7) 学生納付金・修学支援	学費、学費援助制度
(8) 学校の財務	河合塾学園事業報告
(9) 学校評価	自己点検・自己評価報告書
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/>

公表時期: 2024年8月31日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 グローバル学科 (ホテルウェディング専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		ベーシックプログラム	入学後、専門科目の履修に先駆けて常識やマナーを学び、社会人としての土台をつくる。また、入学時に在学中の達成目標と将来への志望を明確にし、学習の全容を見える化して担任と相互に理解し、納得して学習に入る道を作る。	1前	30	1	○			○		○		
2	○		社会人基礎力&プレゼン表現Ⅰ・Ⅱ	自己管理、時間管理、自立、チームワーク、工程管理、コミュニケーション力、柔軟性、創造性、論理的思考力、批判的思考力など、さまざまな状況のもとで適応できるスキル、社会人に必要でかつ専門的履修に欠かせない基本知識を習得する。ビジネスに関する基礎的な知識の理解、社会の一員としての心構えや考え方、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力や目指す業界についての基礎的な知識を身につける。	1通	60	2			○	○		○	○	
3	○		業界研究Ⅰ・Ⅱ	業界での第一線で働いている方だけでなく、身近な先輩などの講演を多数実施し、仕事の幅を広げ、各自の仕事のイメージを掴みやすくする。また、学校を出てインターンシップやボランティアなど外部との接触を嫌がらず、自主的に行動できる情報を知る。	1通	60	2	○			○		○		
4	○		就職研究Ⅰ・Ⅱ	目指す職業に就くためには、就職活動を避けて通ることはできない。就職活動を順調にスタートさせ、自信をもって就職試験に臨むことができるようになることを狙いとする。	1通	60	2	○			○		○	○	
5	○		キャリアサポート	自らの目標達成に向けたプランニングの確認や修正作業を、面談を中心に進め、自主的に自分の描くゴールを目指す。	3後	30	1	○			○		○		
6	○		就職試験対策Ⅰ	就職試験における筆記試験は面接試験の前段階として行われることが多い。この筆記試験をクリアできるよう、前期は主に国語、社会を中心とした一般常識、SPI試験対策を学ぶ。	1・前期	30	1	○			○			○	
7	○		就職試験対策Ⅱ	就職試験における筆記試験は面接試験の前段階として行われることが多い。この筆記試験をクリアできるよう、前期は主に国語、社会を中心とした一般常識、SPI試験対策を学ぶ。	1・後期	30	1	○			○			○	
8	○		ホスピタリティマインドⅠ	サービスエンターテイナーのための自己理解・自己管理を通して、対人サービス業務に従事する人材に求められる基本的なパーソナリティとその表現方法を習得し、自己イメージ・印象管理を行う。	1・前期	30	1	○		△	○			○	○

(文化教養専門課程 グローバル学科 (ホテルウェディング専攻))																
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
9	○			ホスピタリティマインドⅡ	サービスエンターテイナーのための自己理解・自己管理を通して、対人サービス業務に従事する人材に求められる基本的なパーソナリティとその表現方法を習得し、自己イメージ・印象管理を行う。	1・後期	30	1	○		△	○			○	○
10	○			サービス接客検定対策Ⅰ	資格の取得により、知識・技術を習得していることを客観的に証明する。あらゆる業界において必要となるサービス接客実務について十分な理解と高度な知識、専門的な技能を身につける。出題傾向や過去問題の分析を行い、出題意図を把握できる効果的な対策授業を進め、1年次に準1級以上の取得を目指す。	1・前期	30	1		○		○			○	
11	○			ホテルビジネス実務検定対策	ホテルビジネス実務検定ベーシック2級の資格取得を目的とする。	1・後期	30	1		○		○			○	
12	○			和食検定対策	2013年に和食が無形文化遺産に登録され、現在世界的に和食が注目されている。和食の初歩的な知識を学ぶことで和の食文化への興味関心を高め、国際交流に役立てる。	3・前期	30	1	○			○		○		
13	○			サービス接客1級対策	サービス接客の際の言葉遣い、適切な対応の仕方、その他サービス接客に関する専門知識はサービス業に従事するために必要不可欠である。サービス従事者としての資質、一般知識、専門知識、対人技能、実務技能を身につけ、検定2級以上の取得を目指す。	3・後期	30	1			○	○			○	
14	○			レストランサービス技能検定対策	レストランサービス技能検定・学科試験問題の解説及び解答方法 過去問題を中心に模擬試験を行い、学科試験問題の内容の理解を深める。	3・前期	60	2		○		○		○		
15	○			レストランサービス	レストランスタッフの役割と組織を理解する。サービスの心得をを机上と実技をもってレストランサービスの基本を習得する。	1・前期	60	2			○	○		○		
16	○			料飲基礎知識	ホテルの料飲部門で提供される料理、飲料に関する基本知識を習得する。料理は西洋料理(フランス)を中心に学び、日本、中国、イタリア料理と他世界の料理の特徴などの概要を押さえる。飲料はアルコール飲料全般について学ぶとともにサービスの基本技能も習得する。	1・前期	60	2	○		△	○		○		
17	○			宿泊サービス実務Ⅰ	ホテルの宿泊部門の概要及びハウスキーピング業務とフロントサービス業務(ドアスタッフ、ベルスタッフ、クローク、コンシェルジュ)に関する実務知識とサービス技能を習得し、宿泊接客サービスの基本動作を身につける。	1・前期	30	1	○		△	○			○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (ホテルウェディング専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
18	○			宿泊サービス実務Ⅱ	ホテルの宿泊部門の概要及びハウスキーピング業務とフロントサービス業務(ドアスタッフ、ベルスタッフ、クローク、コンシェルジュ)に関する実務知識とサービス技能を習得し、宿泊接客サービスの基本動作を身につける。	2・後期	30	1	○		△	○			○
19	○			マーケティング基礎	マーケティングとは何か?新商品や新サービスを作り出す仕組みを一般企業とホテル・サービス業と比較してマーケティングの基礎が理解できるようにする。また、ホテルやブライダルスタッフとして押さえておくべきマーケティングの用語や意味を理解する。	1・後期	30	1	○			○			○
20	○			ワイン&カクテル基礎	ワインとカクテルの基礎知識、サービス実技を座学と実務を中心に習得する。実習室で実際にホテルで扱う備品を利用して備品に触れながら学ぶ。またその用途を理解し、使えるようになるまでにする。アルコールについての基礎を学びお酒のマナーが実用レベルで使えるようにする。	3・前期	30	1			○	○			○
21	○			バンケット実務	ホテルでの婚礼・宴会の概要及びホテル宴会業務に関する実務知識とサービス技能を、実際に宴を企画して発表出来るレベルまでに向上させる。	3・前期	60	2			○	○			○
22	○			サービス心理学Ⅰ	ホテル・ブライダル業界では常にお客様の気持ちを汲み取ることで、先を読んだサービス、満足度の高い商品の提案、心に寄り添ったおもてなしを提供することができる。この科目ではお客様の心理状態を考察し、最良の状況判断をするための基本的な知識を習得する。	3・前期	30	1	○			○			○
23	○			サービス心理学Ⅱ	ホテル・ブライダル業界では常にお客様の気持ちを汲み取ることで、先を読んだサービス、満足度の高い商品の提案、心に寄り添ったおもてなしを提供することができる。この科目ではお客様の心理状態を考察し、最良の状況判断をするための基本的な知識を習得する。	3・後期	30	1	○			○			○
24	○			料飲応用知識	料飲業務に携わる者として、食品を扱うことは人の命や健康に関わる業務であると認識し、食品衛生・アレルギー・栄養学などの基本知識を習得する。また、レストランの重要要素であるメニューの基本構成や形式などを、日本の「和食」をはじめ世界の食文化とともに学び、多面的な視点と深い洞察力を養う。	3・前期	60	2	○			○			○

(文化教養専門課程 グローバル学科 (ホテルウェディング専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
25	○			公衆・食品衛生	食品などを扱うホテルやサービス業会は感染症や食中毒は致命的になる。このような災害を避けるためには、公衆衛生や食品衛生を理解、把握し、お客様にご迷惑をかけないようにすることが、大事である。食品をはじめとするあらゆるものの衛生面に則ってホテル・サービス業を考える。	3・後期	30	1	○			○		○	
26	○			ホテル・ブライダルマネジメント	ホテル業界やブライダル業界で求められるマネジメントの考え方や知識について学ぶ。	3・後期	30	1	○			○		○	
27	○			マナープロトコール	日本人として社会人として必須のマナーやプロトコール(国際儀礼)に関わる知識を学び、国際的なマナーやルールに基づいて的確な対応ができる力を養う。	3・後期	30	1	○			○		○	
28	○			卒業発表	2年ないし3年間の学科習得の成果を、ホテルにおける様々な形式を用いて発表する。内容は別途発表する。	3・後期	60	2			○	○	○		
29	○			接客英語Ⅰ	日常生活において英語でコミュニケーションできる能力を習得する。さらに、サービス業に従事する者が、接客の場で状況に応じた表現を正しく使える能力へと発展させ、「話す能力」の育成を中心においた授業を行う。	1・前期	30	1	○			○		○	
30	○			接客英語Ⅱ	日常生活において英語でコミュニケーションできる能力を習得する。さらに、サービス業に従事する者が、接客の場で状況に応じた表現を正しく使える能力へと発展させ、「話す能力」の育成を中心においた授業を行う。	1・後期	30	1	○			○		○	
31	○			接客英語Ⅲ	日常生活において英語でコミュニケーションできる能力を習得する。さらに、サービス業に従事する者が、接客の場で状況に応じた表現を正しく使える能力へと発展させ、「話す能力」の育成を中心においた授業を行う。	3・前期	30	1	○			○		○	
32	○			接客英語Ⅳ	日常生活において英語でコミュニケーションできる能力を習得する。さらに、サービス業に従事する者が、接客の場で状況に応じた表現を正しく使える能力へと発展させ、「話す能力」の育成を中心においた授業を行う。	3・後期	30	1	○			○		○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (ホテルウェディング専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
33	○			TOEIC対策Ⅰ	訪日旅行者の増加により、ホテルでお客様とコミュニケーションを図るには語学力も必須である。本講座では英語の語彙や表現を学び、英語力の基準となるTOEICのスコアアップを目指す。	1・前期	30	1	○			○		○	
34	○			TOEIC対策Ⅱ	訪日旅行者の増加により、ホテルでお客様とコミュニケーションを図るには語学力も必須である。本講座では英語の語彙や表現を学び、英語力の基準となるTOEICのスコアアップを目指す。	1・後期	30	1	○			○		○	
35	○			TOEIC対策Ⅲ	訪日旅行者の増加により、ホテルでお客様とコミュニケーションを図るには語学力も必須である。本講座では英語の語彙や表現を学び、英語力の基準となるTOEICのスコアアップを目指す。	3・前期	30	1	○			○		○	
36	○			TOEIC対策Ⅳ	訪日旅行者の増加により、ホテルでお客様とコミュニケーションを図るには語学力も必須である。本講座では英語の語彙や表現を学び、英語力の基準となるTOEICのスコアアップを目指す。	3・後期	30	1	○			○		○	
37	○			イングリッシュコミュニケーションⅠ	海外のホテルや外資系ホテルではお客様はもちろん、会社組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的、効果的コミュニケーション能力を身につけ、より自己表現や人に伝える力を高めていく。	1・前期	30	1	○			○		○	
38	○			イングリッシュコミュニケーションⅡ	海外のホテルや外資系ホテルではお客様はもちろん、会社組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的、効果的コミュニケーション能力を身につけ、より自己表現や人に伝える力を高めていく。	3・後期	30	1	○			○		○	
39	○			イングリッシュコミュニケーションⅢ	海外のホテルや外資系ホテルではお客様はもちろん、会社組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的、効果的コミュニケーション能力を身につけ、より自己表現や人に伝える力を高めていく。	3・前期	30	1	○			○		○	
40	○			イングリッシュコミュニケーションⅣ	海外のホテルや外資系ホテルではお客様はもちろん、会社組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的、効果的コミュニケーション能力を身につけ、より自己表現や人に伝える力を高めていく。	3・後期	30	1	○			○		○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (ホテルウェディング専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
41	○			中国語 I	近年ますます増える外国人旅行者に対し、特に需要が大きい「中国語」について、接客業務に必要な基礎的な語学およびその国の文化等を学習する。	3・前期	30	1	○			○		○	
42	○			中国語 II	近年ますます増える外国人旅行者に対し、特に需要が大きい「中国語」について、接客業務に必要な基礎的な語学およびその国の文化等を学習する。	3・後期	30	1	○			○		○	
43	○			コンピュータスキル I	日常業務に活かせるコンピュータスキルの習得する。資料、テーマを正確に理解し Word、Excel、PowerPointの技術を習得する。	1・前期	30	1	○			○		○	
44	○			コンピュータスキル II	日常業務に活かせるコンピュータスキルの習得する。資料、テーマを正確に理解し Word、Excel、PowerPointの技術を習得する。	1・後期	30	1	○			○		○	
45	○			コンピュータスキル III	日常業務に活かせるコンピュータスキルの習得する。資料、テーマを正確に理解し Word、Excel、PowerPointの技術を習得する。	3・前期	30	1	○			○		○	
46	○			サービス接客検定対策 II	サービス接客の際の言葉遣い、適切な対応の仕方、その他サービス接客に関する専門知識はサービス業に従事するために必要不可欠である。サービス従事者としての資質、一般知識、専門知識、対人技能、実務技能を身につけ、検定2級以上の取得を目指す。	1・後期	30	1		○		○		○	
47	○			ホテル・ブライダルイベントプランニング	学んできた成果を発表・パフォーマンスする場として、一つのイベントの企画、準備から施行までを行う。	1・後期	60	2	△		○		○		
48	○			カラーコーディネート (色彩検定)	従来から「感性」だけによるものと見られがちであった「色に関する知識や技能」を理論的、系統的に学ぶことにより、誰もが「理論に裏付けられた色彩の実践的活用能力」を身につけることができる。色に関する知識や技能を社会的に評価する色彩検定の合格を目指す。また、空間における創造力、感性を磨く。	1・後期	30	1	○			○		○	
49	○			空間コーディネート	テーブルコーディネートの基礎知識から応用までを習得し、客層、場所の広さ、テーブルやインテリアのデザイン・配置、照明、季節感などを総合的に考える力を身につける。	1・後期	30	1	○			○		○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (ホテルウェディング専攻))																
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
50	○			ブライダルアイテム実習	1年前期の応用として、ブライダルにまつわるアイテムの知識について実習を通して学ぶ。実際に作成することで、センスも身に付ける。	1・後期	30	1			○	○		○		
51	○			ブライダルコスチューム	衣裳に関する知識を講義や実習を通して学び、ドレスコーディネーター検定やフォーマルウェア検定の取得を目指す。	1・後期	30	1	○			○			○	
52	○			ブライダル基礎知識	ブライダル業界を目指す者にとって必要な、ブライダルの歴史、挙式や結婚式のスタイル、結納、会場の種類と違い、引出物や引菓子など基本的なブライダルの用語や挙式、披露宴に関する知識について学ぶ。	1・前期	60	2	○			○			○	
53	○			ブライダルコーディネーター技能検定対策	「ブライダルコーディネーター技能検定対策」の合格を目指し、合格に必要な「コミュニケーション能力」「プランニング能力」、「プレゼンテーション能力」「オペレーション能力」を身につける。	3・前期	30	1	○			○			○	
54			○	各種検定対策講座	就職に役立つ検定・資格を在学中に可能な限り取得していくために、「秘書検定」、「ワープロ検定」、「英検」などの主要な検定の対策授業。学科、専攻、コースの枠にとらわれず、各々の知識・教養を高める講座を選択し受講する。講座内容は別途発表する。	1後・2前	所定時間	所定単位	△	○		○			○	
55	○			留学準備講座-英会話リスニング	留学先での講義や日常生活で必要とされる英語リスニングスキルを強化する。	2・前期	30	1	○			○			○	
56	○			留学準備講座-日本文化	異文化環境での生活をスムーズに過ごすために留学先の文化や習慣を理解し、日本文化を身につける。	2・前期	30	1	○			○			○	
57	○			留学準備講座-実用英語	留学先での講義や日常生活を円滑に必要とされる実用英語スキルを強化する。	2・前期	30	1	○			○			○	

(文化教養専門課程 グローバル学科 (ホテルウェディング専攻))																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
58	○			国際コミュニケーション留学	9か月間の語学留学	2・後期	690	23	○				○		○	
59	○			留学帰国後講座-英会話リスニング	ネイティブ・スピーカーによる講座。留学中に実践し習得した日常的な英会話スキルをさらに強化する。	2・後期	30	1	○				○		○	
60	○			留学帰国後講座-TOEIC対策	帰国後に受験するTOEIC対策としてさらにスキルを強化する。	2・後期	30	1	○				○		○	
61	○			留学帰国後講座-キャリアセミナー	留学中に得た留学経験をどのように活かし、帰国後始まる就職活動をスムーズに進められるよう準備をする。	2・後期	30	1	○				○		○	
62			○	語学研修	国際的な視野を養い、英語力を実践的に伸ばす、または専門知識を深めるために海外語学研修を実施している。研修の詳細は説明会で発表する。夏期休暇、春期休暇に実施を計画し、期間に応じて所定の単位を認定する。	1前・3前	30	1					○		○	
63			○	中期語学留学	長期休暇を利用して、中期(8~10週間)の語学留学プログラムを実施している。希望者から事務局が認定した学生を派遣する。詳細は説明会で発表する。プログラムに参加し、成績認定された学生に所定の単位が与えられる。	1前・3前	所定時間	所定単位					○		○	
64			○	自己啓発講座	学生の自己啓発を目的に講座を開講する。講座内容は別途発表する。	1前・3前	所定時間	所定単位	○				○		○	
65			○	企業研修	研修生としてビジネスの現場を経験し、各分野の専門能力を身につけるとともに、社会人としての素地を養う。企業研修を通して実務を体得し、組織の一員として仕事をする意義を学ぶ。所定の時間を満たした実習参加に対して所定の単位が認定される。	1前・3前	30	1					○		○	
合計					65 科目			2820 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等
卒業要件： 1年次34単位、2年次27単位、3年時27単位以上取得して、進級もしくは、卒業判定会議で承認されること。	1学年の学期区分 2

(文化教養専門課程 グローバル学科 (ホテルウェディング専攻))															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修（専攻別）は、全ての科目を必修する。 履修方法： 選択必修科目は選択した科目を履修し単位認定とする。 自由選択科目は、進級・卒業必要単位数には加算されない。								1 学期の授業期間			15				

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。